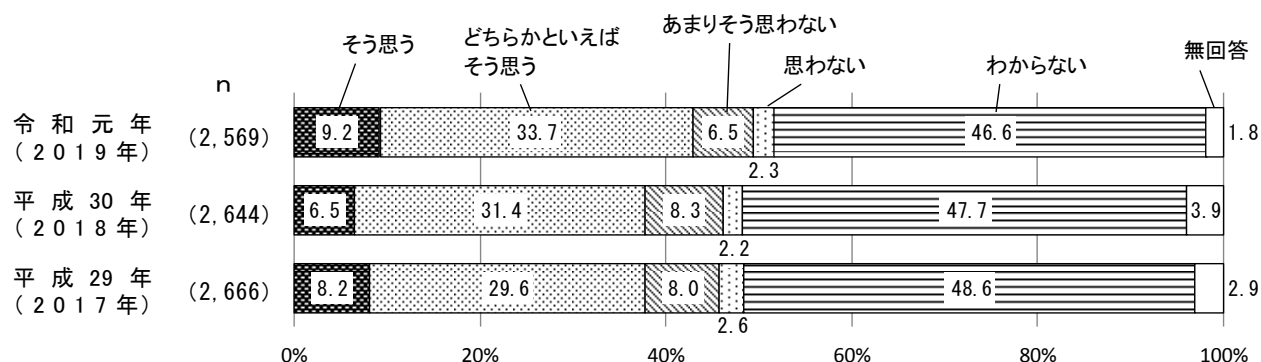


(19) 市などの支援による子育ての状況

◇《《そう思う》が4割強

問27 あなたは、子育てをしている方々が、市などの様々な支援により、安心して子育てができていますか。（○は1つだけ）

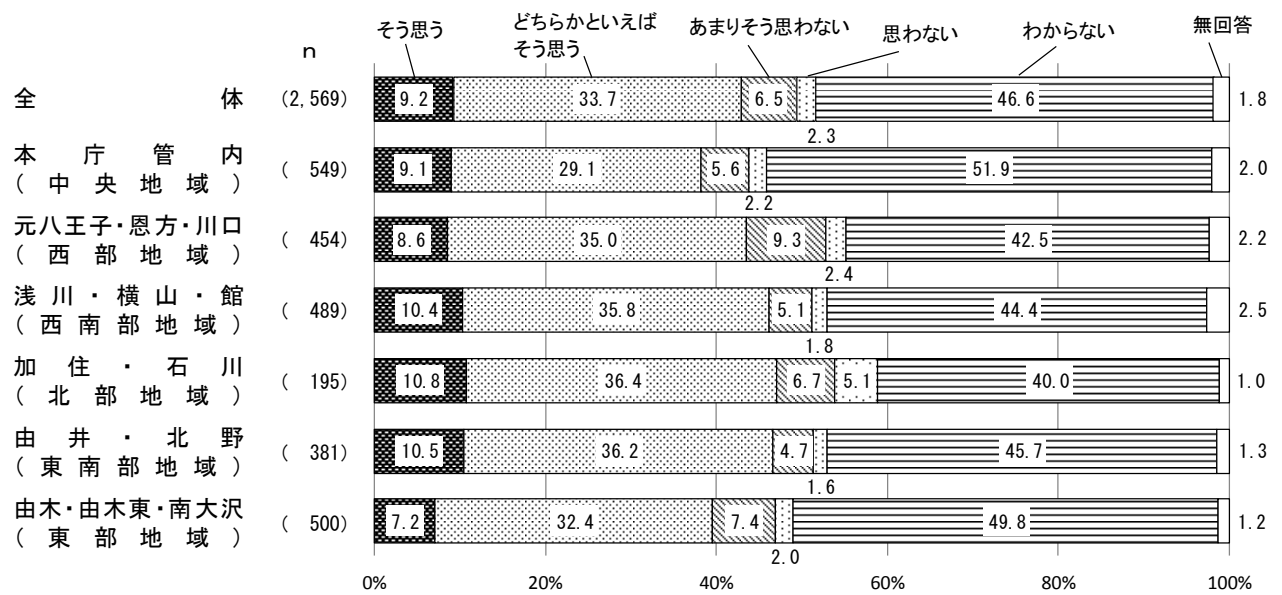
図3-19-1 市などの支援による子育ての状況－全体、経年比較



子育てをしている方々が、市などの様々な支援により、安心して子育てができていると思うか聞いたところ、「《そう思う》」(9.2%)と「《どちらかといえばそう思う》」(33.7%)を合わせた《《そう思う》》(42.9%)が4割強となっている。一方、「《あまりそう思わない》」(6.5%)と「《思わない》」(2.3%)を合わせた《《そう思わない》》(8.8%)は1割近くとなっている。

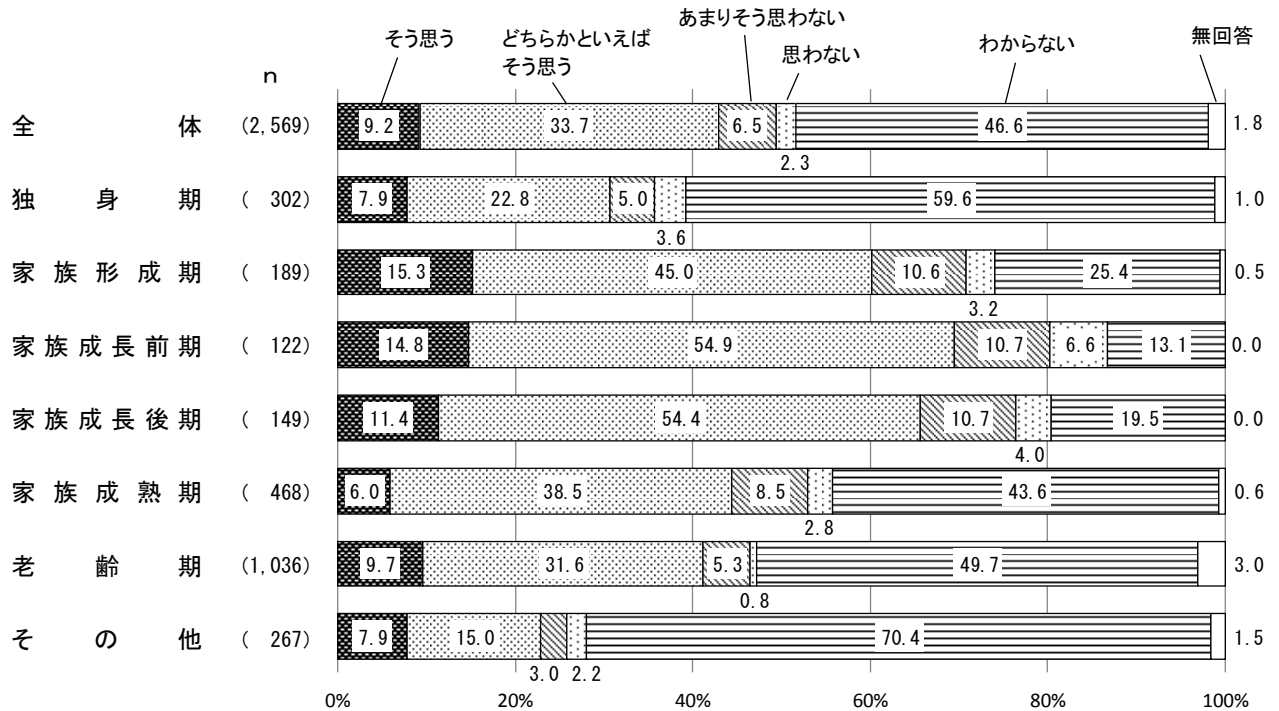
前回までの調査と比較すると、《《そう思う》》は平成30年(2018年)(37.9%)より5.0ポイント増加している。(図3-19-1)

図3-19-2 市などの支援による子育ての状況－居住地地域別



居住地地域別にみると、「そう思う」は本庁管内（中央地域）（38.2%）、由木・由木東・南大沢（東部地域）（39.6%）で少なくなっている。（図3-19-2）

図 3-19-3 市などの支援による子育ての状況－ライフステージ別



ライフステージ別にみると、「そう思う」は家族形成期から家族成長前期、家族成長後期の3層で6割を超えて多く、中でも家族成長前期（69.7%）で7割弱と多くなっているが、「あまりそう思わない」もこの3層で多く、中でも家族成長前期（17.3%）で2割近くと多くなっている。

（図 3-19-3）

(20) 安心した子育てができていないと思う理由（自由意見）

（問27で「あまりそう思わない」または「思わない」とお答えの方へ）

問27－1 そのように感じる理由があれば、お書きください。（自由記述）

子育てをしている方々が、市などの様々な支援により、安心して子育てができていないかについて「あまりそう思わない」または「思わない」と答えた225人に、そのように思う理由を自由記述形式で聞いたところ、157人から回答があった。その中から抜粋した意見を掲載した。なお、内容については、記述の趣旨を損なわないように留意しながら一部要約したものがある。

○公園や緑地で遊んでいたらうるさいと苦情がくる。（男性18～29歳）

○待機児童問題と共に教員（保育士）への待遇が良くないため。（女性18～29歳）

○ベビーカーを押していると年配の方に嫌な顔をされることが多い。人数が多いため、年配の方の優遇措置の方が多いと感じる。（男性18～29歳）

○他人と関わらないようにされていると感じる場面に、遭遇することがある。（女性30～39歳）

○路上喫煙や危険な運転などが放置されている。狭い歩道など、道路が整備されていない。

（男性30～39歳）

○保育料と収入の割合が合わないと感じているため。（女性30～39歳）

○パート先で、特に支援の話を聞かないので。また、他の地域の方がいいと思う部分があるので。

（女性30～39歳）

○近所での不審者の目撃情報が多々あり、非常に不安な思いをしている。（女性30～39歳）

○子育て世代は、核家族化、生活環境の多様性により日曜、祝日に働いているが、公共の施設は今でも保育、学童は日、祝休みで応援しているようには思えない。（女性30～39歳）

○待機児童の問題があるので。高校の学費の件、市でも支援があると良い。（女性40～49歳）

○良い話もありますがイジメ、不登校、校内暴力等の話は残念ながらゼロではない。

（男性40～49歳）

○支援が中途半端で必要分を満たしていないと思われる。（女性40～49歳）

○子供が小さい時にもう少し支援がほしかった。年が近いので、お金に困る事が多かった。

（女性40～49歳）

○市などの様々な支援に何があるのか、そもそもわからない。支援の成果がどう何に現れているのか、定量的に評価できない。（男性50～59歳）

○情報開示が、老若世帯に解りやすくされていない。例えば、公共機関等に「この様な支援があります」「〇〇イベントがあります」興味を持てる又は相談してみたり出来る身近なスペースに掲示されると良いと思う。市役所、出張所だけでは、全く何の意味もない。（女性50～59歳）

○町内会とか一番身近な組織だが、子育ての家庭との交流とかは一切ない。（女性60～64歳）

○本気で指導して下さる方が少ない。表面的で事務处理的な指導を受けている。（男性65歳以上）

(21) 市民協働の進捗状況

◇《そう思う》が5割台半ば

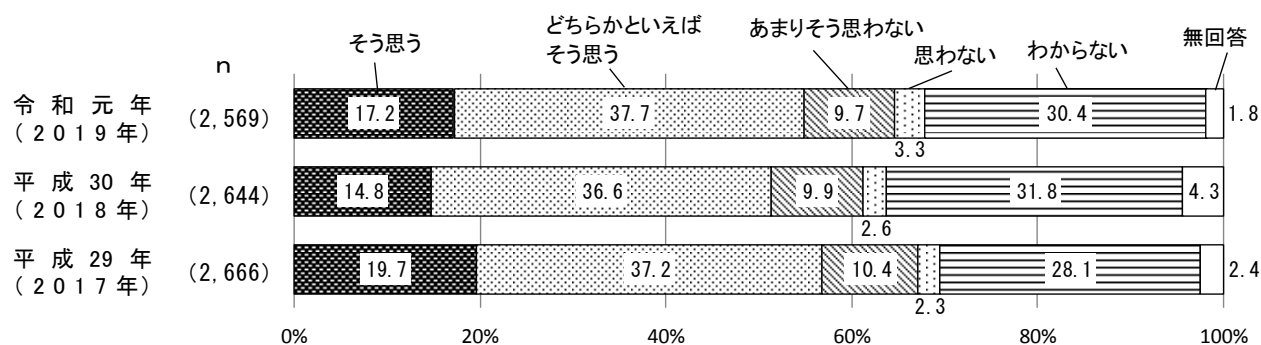
問28 あなたは、市が、市民と協力してまちづくりを行う「市民協働」を進めていると思いますか。(○は1つだけ)

※市民協働によるまちづくりとは・・・

- 八王子まつり、いちょう祭り、環境フェスティバルなどを市民と市が協力して開催
- 町会・自治会等が主体となって行う防犯・防災活動や環境美化活動
- 公園や道路の維持活動（清掃や除草などのボランティア活動）を地域の住民の方が担う
アドプト制度
- 各種審議会や市の計画策定などに参加していただく市民委員の公募
- 計画、条例等の作成過程におけるパブリックコメント（意見募集）の実施

など

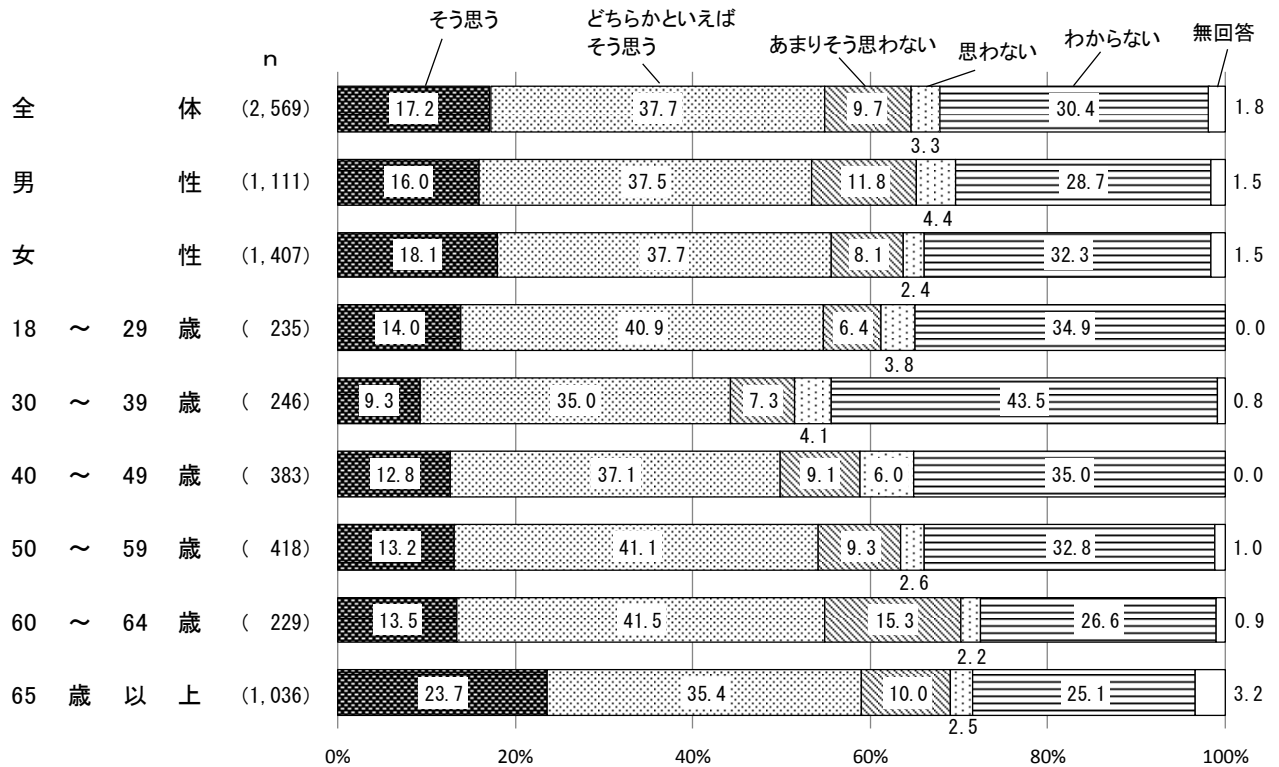
図3-21-1 市民協働の進捗状況－全体、経年比較



市が、市民と協力してまちづくりを行う「市民協働」を進めていると思うか聞いたところ、「そう思う」(17.2%)と「どちらかといえばそう思う」(37.7%)を合わせた《そう思う》(54.9%)が5割台半ばとなっている。一方、「あまりそう思わない」(9.7%)と「思わない」(3.3%)を合わせた《そう思わない》(13.0%)は1割強となっている。

前回までの調査と比較すると、《そう思う》は平成30年(2018年)(51.4%)より3.5ポイント増加している。(図3-21-1)

図 3-21-2 市民協働の進捗状況－性別、年齢別

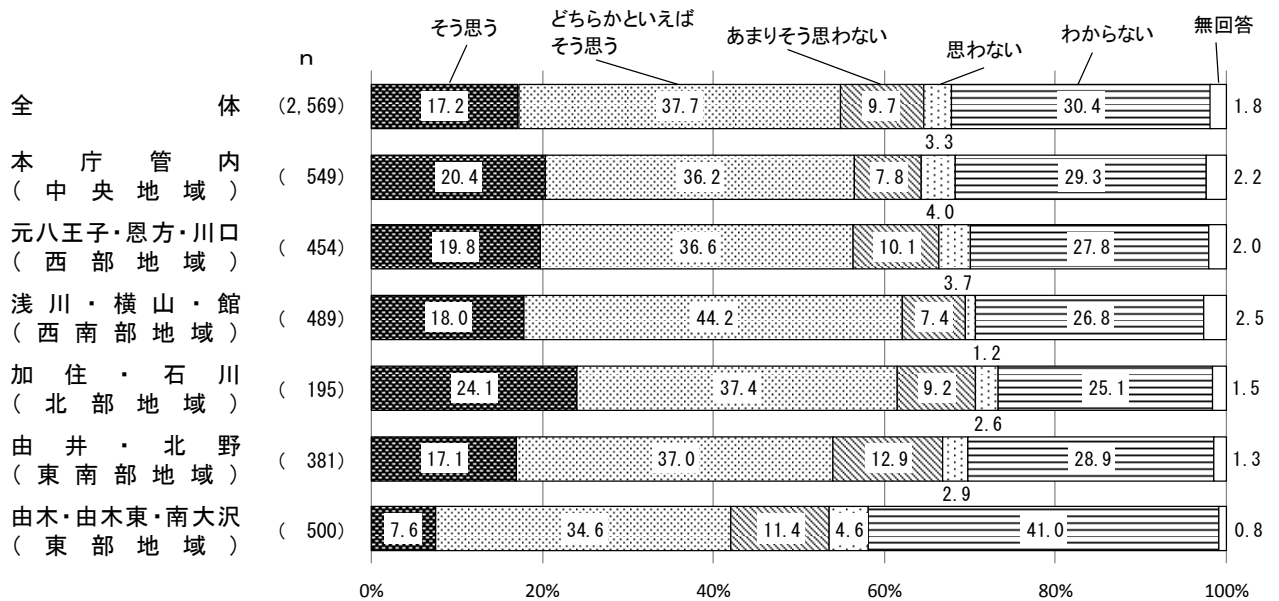


性別にみると、《そう思わない》は男性（16.2%）が女性（10.5%）より5.7ポイント高くなっている。

年齢別にみると、《そう思う》は65歳以上（59.1%）で6割弱と多くなっている。

(図 3-21-2)

図 3-21-3 市民協働の進捗状況－居住地域別



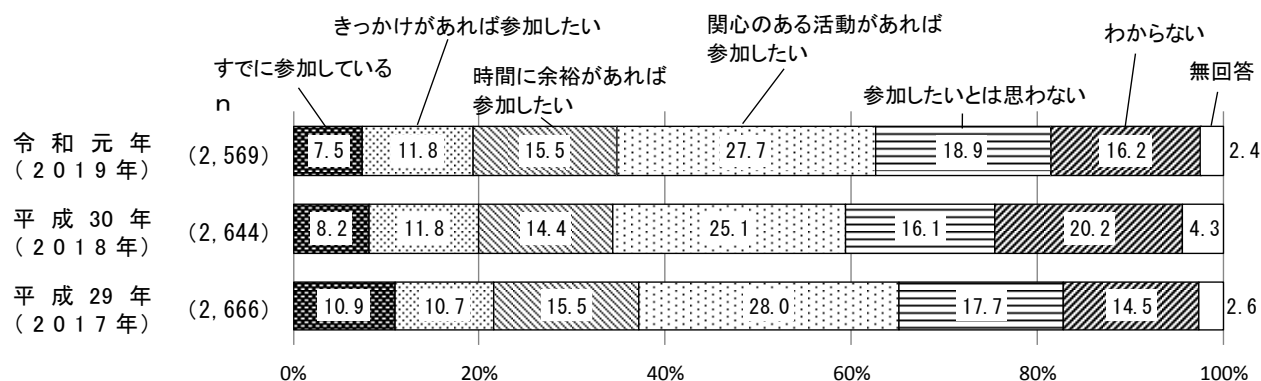
居住地域別にみると、《そう思う》は浅川・横山・館（西南部地域）（62.2%）、加住・石川（北部地域）（61.5%）で6割強と多くなっている。（図 3-21-3）

(22) 市民協働によるまちづくりへの参加意向

◇《参加したい》が5割台半ば

問29 あなたは、問28で例示したような市民協働によるまちづくりに参加したいと思いますか。
(○は1つだけ)

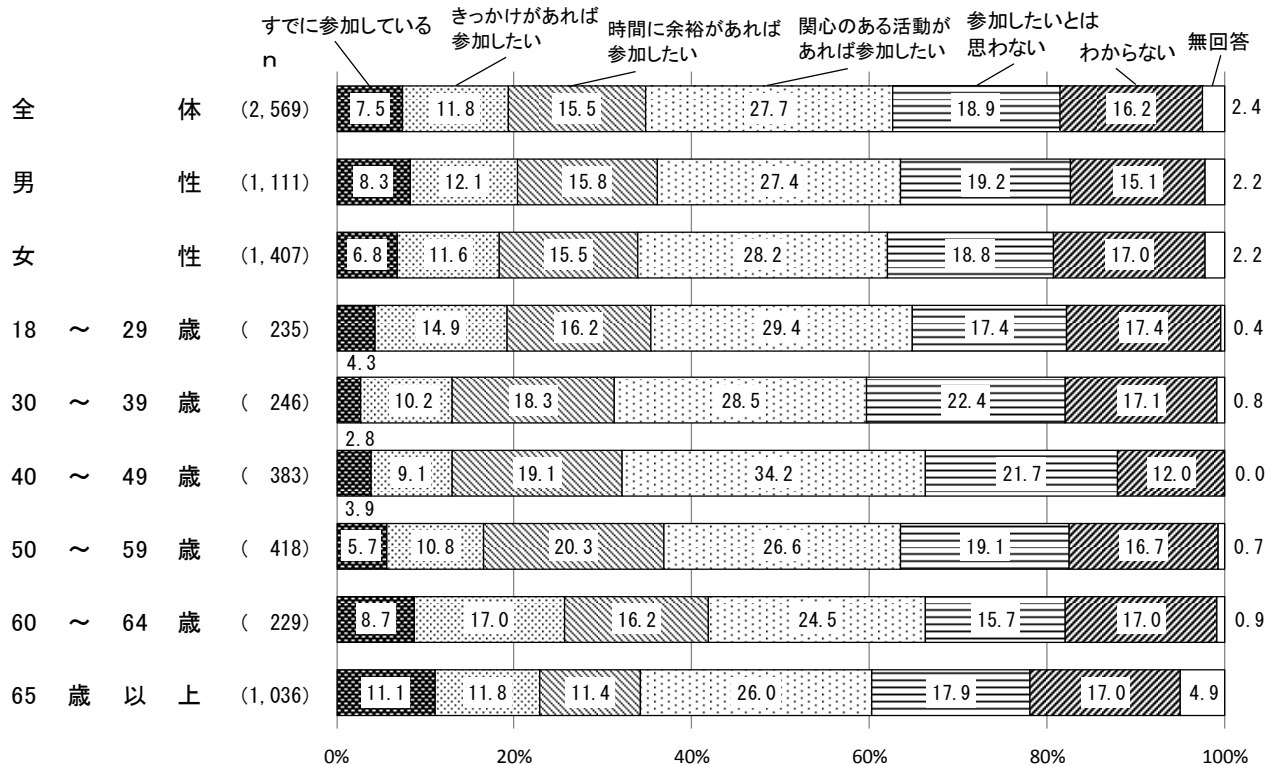
図3-22-1 市民協働によるまちづくりへの参加意向－全体、経年比較



市民協働によるまちづくりに参加したいと思うか聞いたところ、「すでに参加している」(7.5%)は1割近くとなっている。なお、「関心のある活動があれば参加したい」(27.7%)、「時間に余裕があれば参加したい」(15.5%)、「きっかけがあれば参加したい」(11.8%)を合わせた《参加したい》(55.0%)は5割台半ばとなっている。一方、「参加したいとは思わない」(18.9%)は2割近くとなっている。

前回の結果と比較すると、《参加したい》は平成30年(2018年)(51.3%)から3.7ポイント増加している。(図3-22-1)

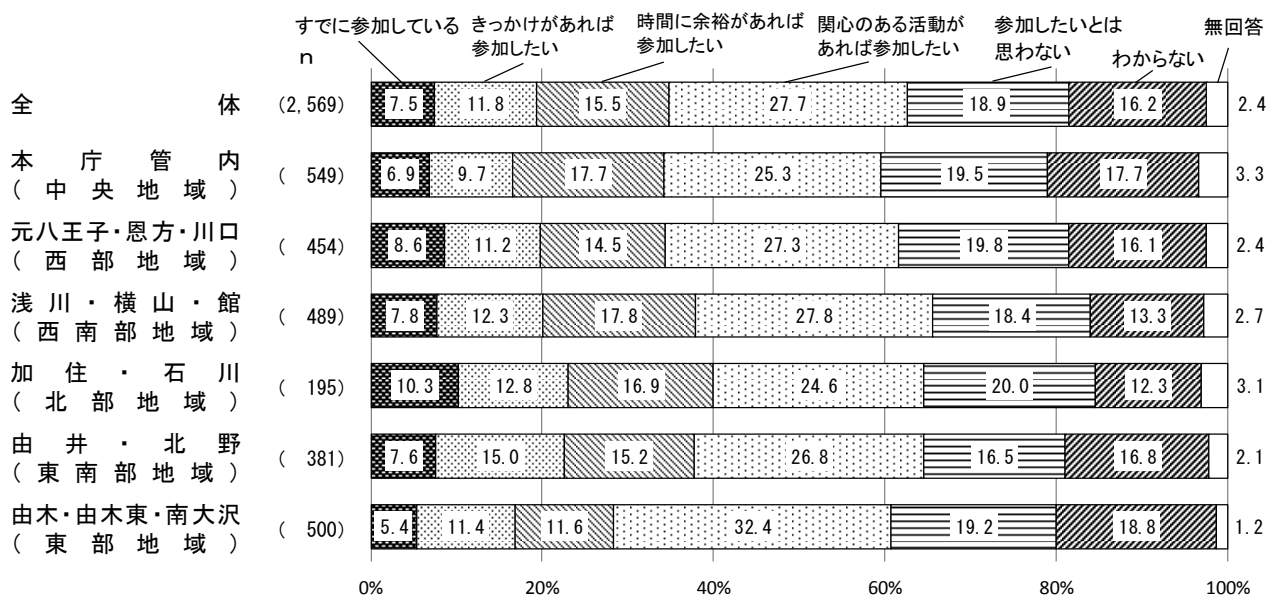
図 3-22-2 市民協働によるまちづくりへの参加意向－性別、年齢別



性別にみると、大きな傾向の違いはみられない。

年齢別にみると、大きな傾向の違いはみられないが、「参加したい」は65歳以上（49.2%）が5割弱と少なくなっている。（図 3-22-2）

図 3-22-3 市民協働によるまちづくりへの参加意向－居住地域別



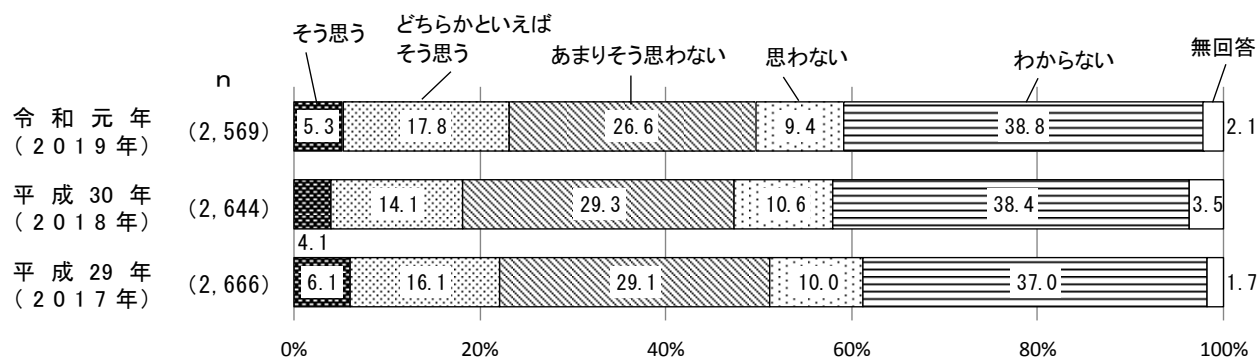
居住地域別にみると、「参加したい」は浅川・横山・館（西南部地域）（57.9%）で6割近くと多くなっている。（図 3-22-3）

(23) 大学等のまちづくりへの活用

◇《《そう思う》が2割強

問30 あなたは、市内およびその周辺地域に立地している大学・短大・高等専門学校の高度な専門的知識や学生の活力が、まちづくりに活かされていると思いますか。(○は1つだけ)

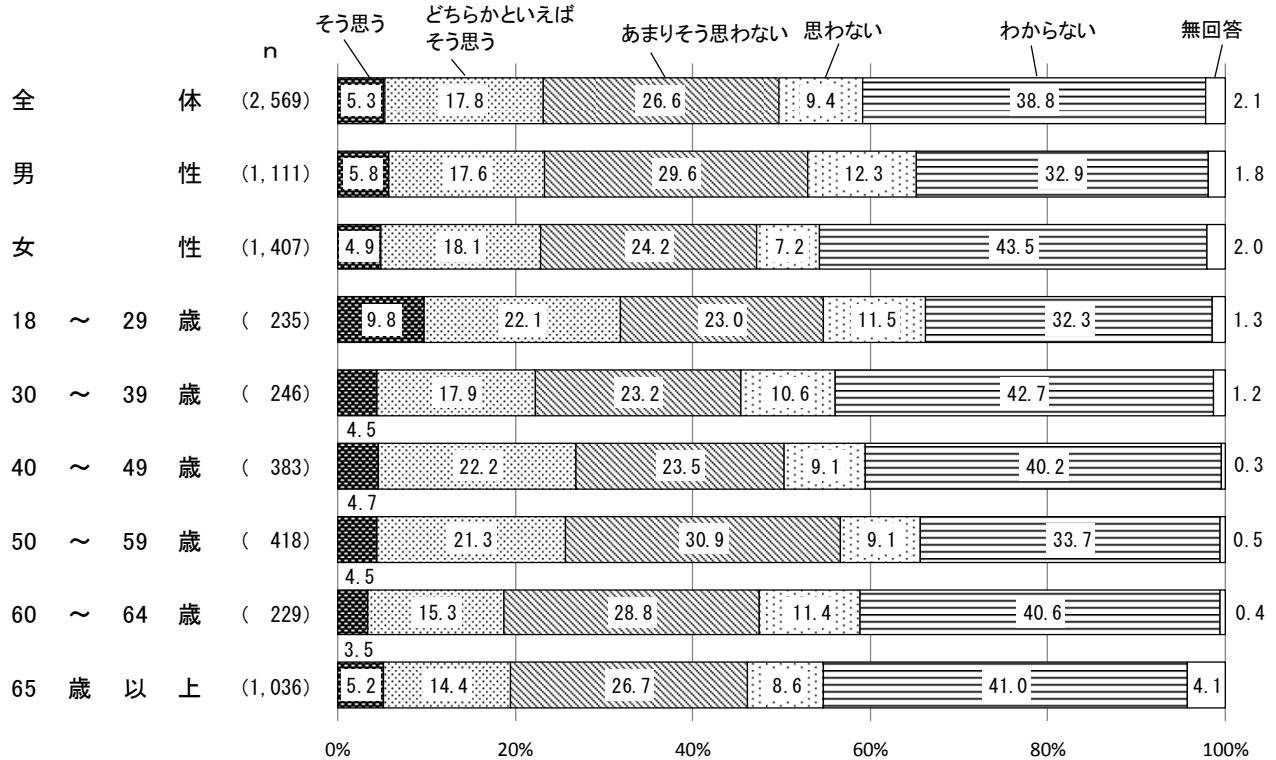
図3-23-1 大学等のまちづくりへの活用－全体、経年比較



大学・短大・高等専門学校の高度な専門的知識や学生の活力がまちづくりに活かされていると思うか聞いたところ、「そう思う」(5.3%)と「どちらかといえばそう思う」(17.8%)を合わせた《《そう思う》》(23.1%)が2割強となっている。一方、「あまりそう思わない」(26.6%)と「思わない」(9.4%)を合わせた《《そう思わない》》(36.0%)は4割近くとなっている。

前回までの調査と比較すると、《《そう思う》》は平成30年(2018年)(18.2%)より4.9ポイント増加している。(図3-23-1)

図 3-23-2 大学等のまちづくりへの活用—性別、年齢別

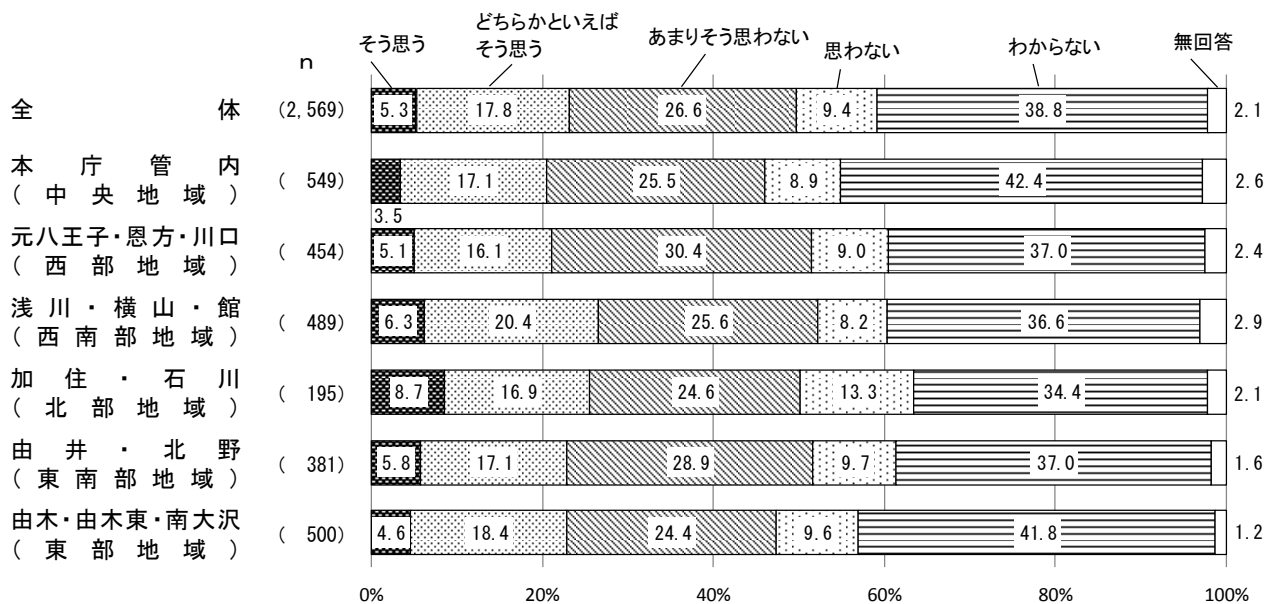


性別にみると、「あまりそう思わない」は男性（41.9%）が女性（31.4%）より10.5ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「そう思う」は18～29歳（31.9%）で3割強と多くなっている。一方、「あまりそう思わない」は60～64歳（40.2%）が約4割と50～59歳（40.0%）が4割と多くなっている。

（図 3-23-2）

図 3-23-3 大学等のまちづくりへの活用—居住地域別



居住地域別にみると、「あまりそう思わない」は浅川・横山・館（西南部地域）（26.7%）で多くなっている。（図 3-23-3）

(24) この1年間の文化芸術活動への参加頻度

◇「半年に1～2回程度」が2割近く

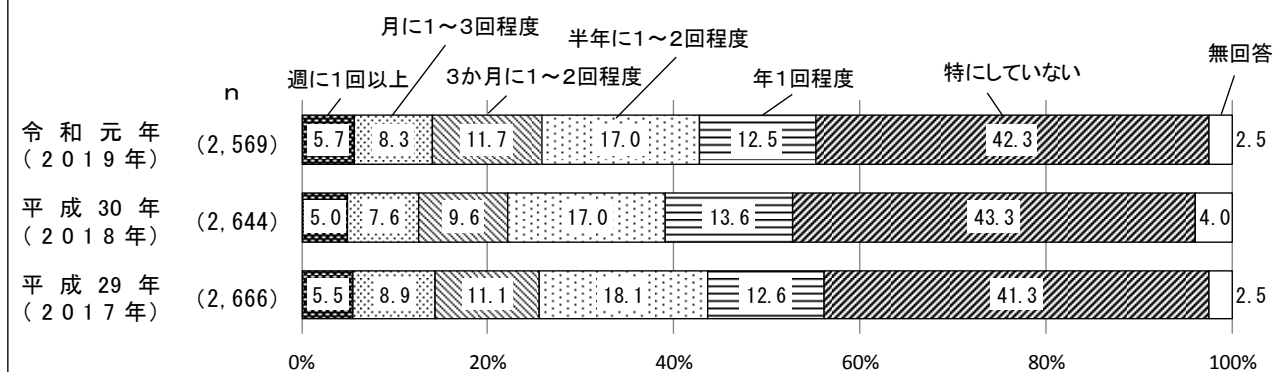
問31 あなたは、この1年間にどのくらいの頻度で文化芸術活動に参加（観賞も含みます）しましたか。（○は1つだけ）

※文化芸術活動とは・・・

- 音楽（オペラ、オーケストラ、合唱、吹奏楽、ジャズなど）
- ポップス（J-POP（日本の若者向けポピュラー音楽）など）
- 美術（絵画、版画、彫刻、工芸、陶芸、書、写真など）
- メディア芸術（映画、マンガ、アニメーション、メディアアートなど）
- 伝統芸能（歌舞伎、落語、車人形、雅楽、能楽など）
- 歴史的な建物や遺跡（建造物、史跡、名勝など）
- 文学（小説、詩、短歌、俳句など）
- 生活文化（茶道、華道、書道、囲碁、将棋など）
- 演劇（現代演劇、ミュージカル、人形劇など）
- 舞踊（日本舞踊、バレエ、コンテンポラリーダンスなど）
- 芸能（落語、講談、浪曲、漫才など）

など

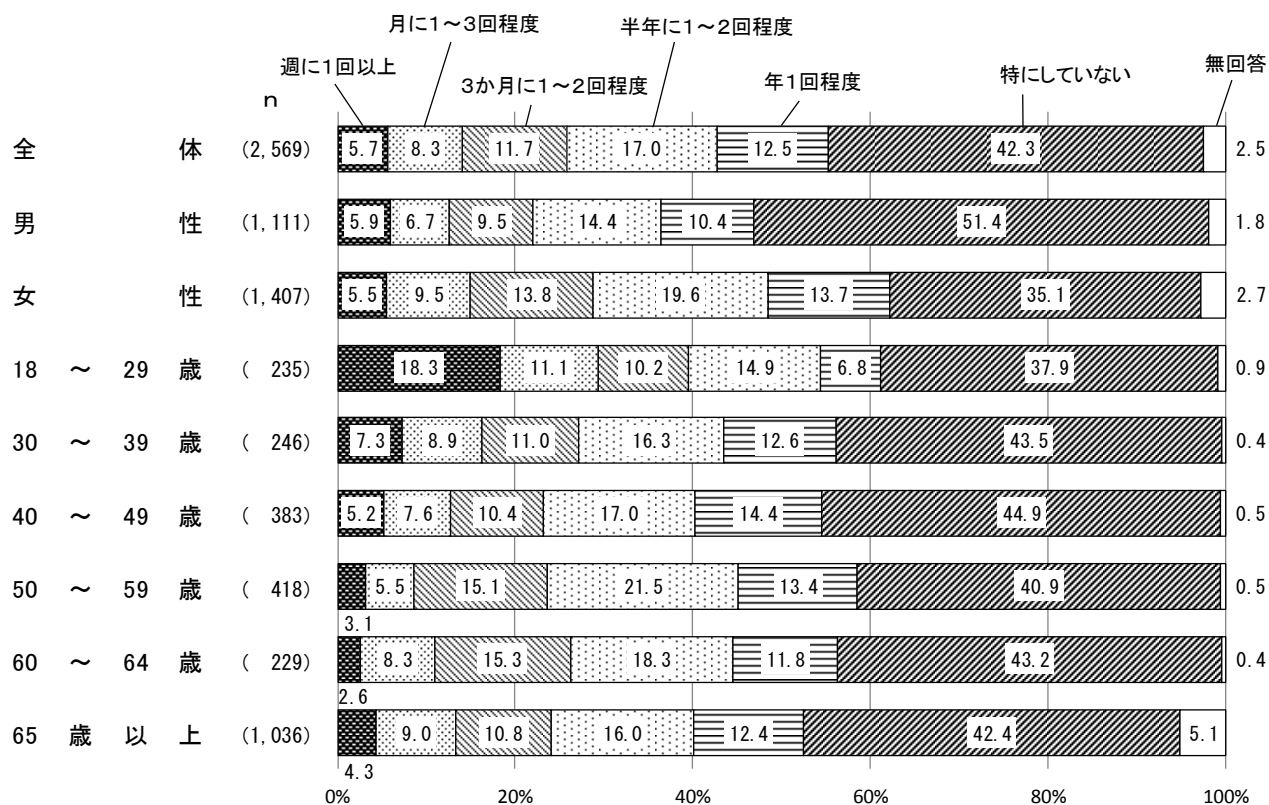
図3-24-1 この1年間の文化芸術活動への参加頻度－全体、経年比較



この1年間にどのくらいの頻度で文化芸術活動に参加したか聞いたところ、「半年に1～2回程度」(17.0%)が2割近く、「年1回程度」(12.5%)が1割強となっている。一方、「特にしていない」(42.3%)は4割強となっている。

前回までの調査と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。(図3-24-1)

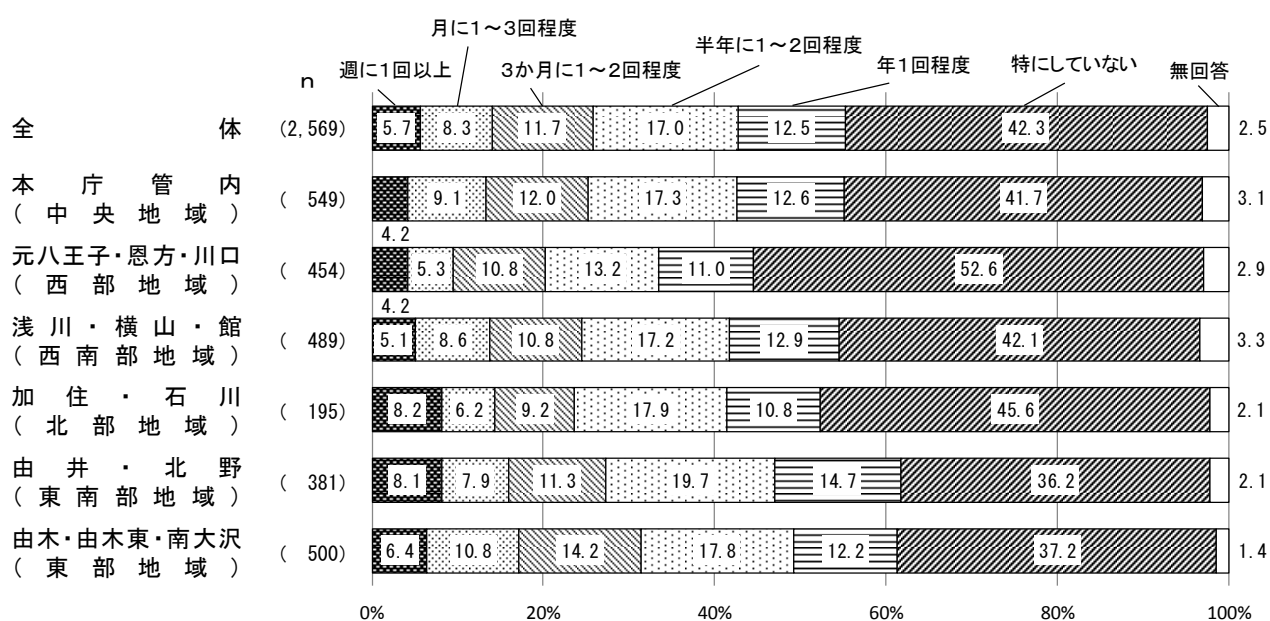
図 3-24-2 この 1 年間の文化芸術活動への参加頻度－性別、年齢別



性別にみると、「特にしていない」は男性（51.4%）が女性（35.1%）より16.3ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「週に1回以上」は18～29歳（18.3%）で2割近くと多くっており、「特にしていない」は40～49歳（44.9%）で4割台半ばと多くなっている。（図 3-24-2）

図 3-24-3 この 1 年間の文化芸術活動への参加頻度－居住地域別



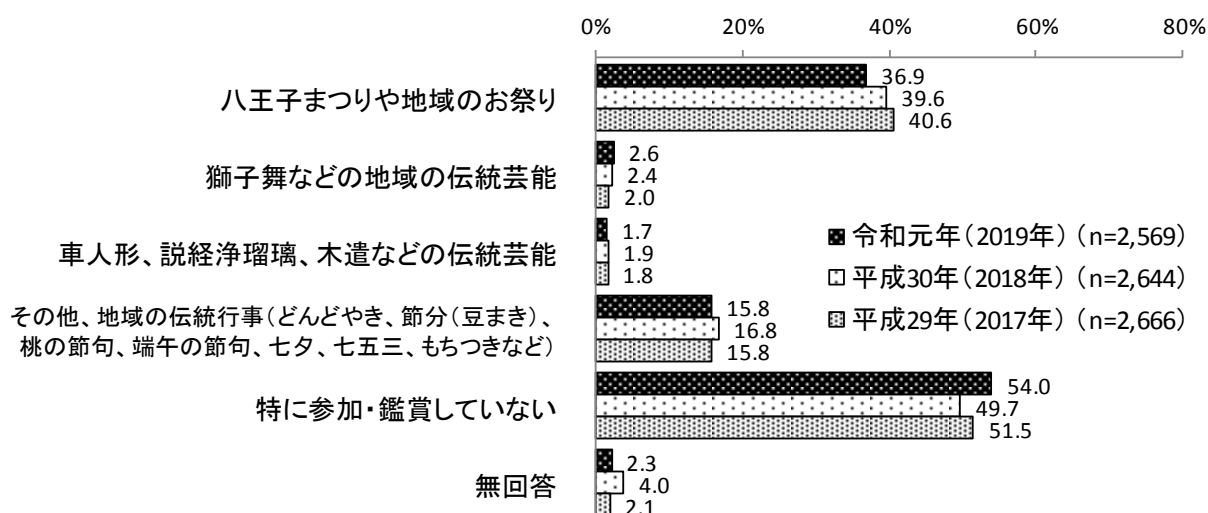
居住地域別にみると、「特にしていない」は元八王子・恩方・川口（西部地域）（52.6%）で5割強と多くなっている。（図 3-24-3）

(25) この1年間の地域の伝統行事や伝統芸能への参加状況

◇「八王子まつりや地域のお祭り」が4割近く

問32 あなたは、この1年間に、次のような地域の伝統行事や伝統芸能に参加（鑑賞も含みます）しましたか。（〇はいくつでも）

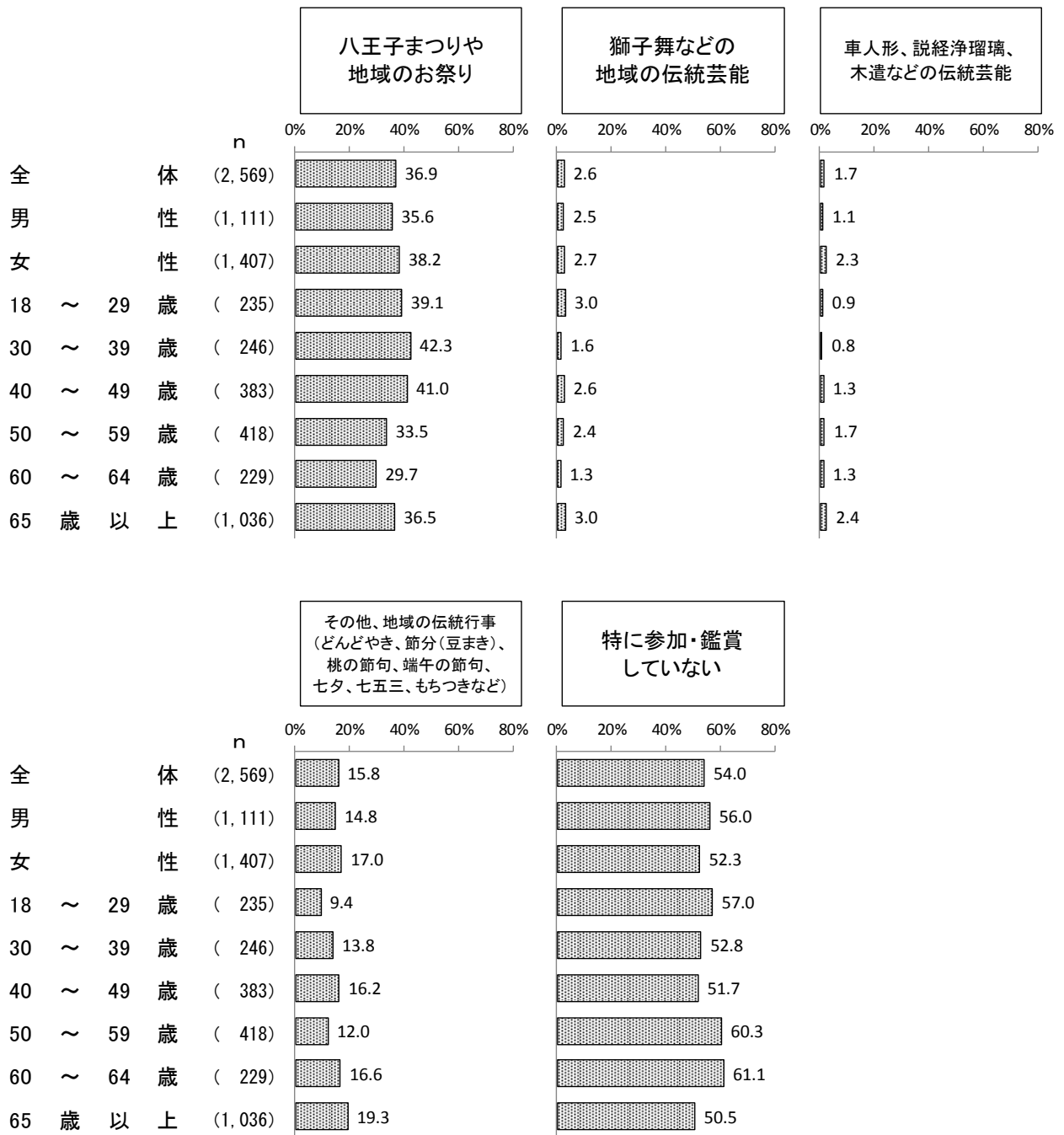
図3-25-1 この1年間の地域の伝統行事や伝統芸能への参加状況－全体、経年比較



この1年間に地域の伝統行事や伝統芸能に参加したか聞いたところ、「八王子まつりや地域のお祭り」(36.9%)が4割近くで最も多く、「その他、地域の伝統行事(どんどこやき、節分(豆まき)、桃の節句、端午の節句、七夕、七五三、もちつきなど)」(15.8%)が1割台半ばで続くが、「獅子舞などの地域の伝統芸能」(2.6%)と「車人形、説経浄瑠璃、木遣などの伝統芸能」(1.7%)はそれぞれ1割に満たない。なお、「特に参加・鑑賞していない」(54.0%)は5割台半ばとなっている。

前回までの調査と比較すると、大きな傾向の違いはみられないが、「八王子まつりや地域のお祭り」は2年連続で微減傾向となっている。(図3-25-1)

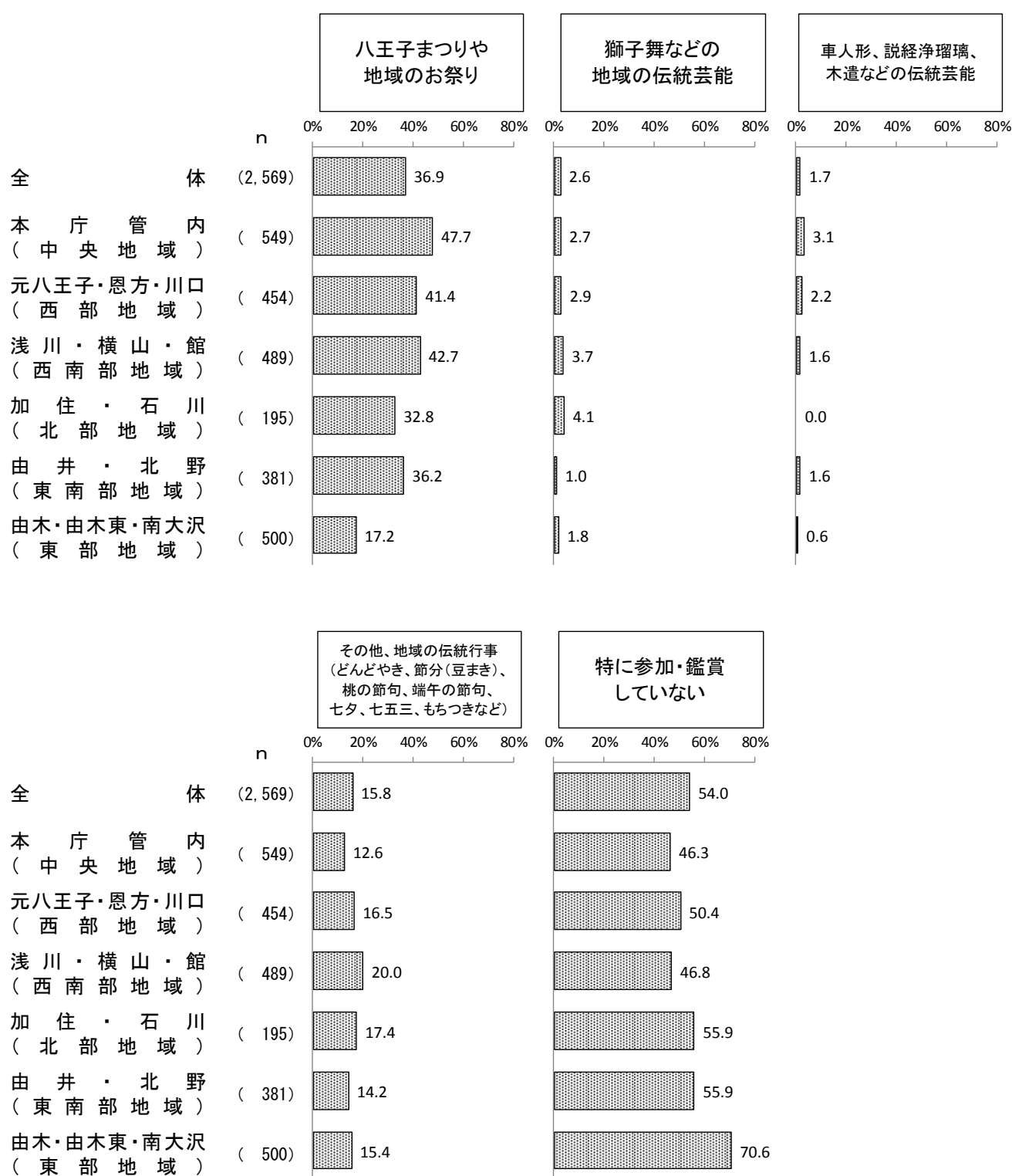
図 3-25-2 この1年間の地域の伝統行事や伝統芸能への参加状況－性別、年齢別



性別にみると、「八王子まつりや地域のお祭り」で女性（38.2％）は男性（35.6％）より2.6ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「八王子まつりや地域のお祭り」は30～39歳（42.3％）と40～49歳（41.0％）で4割強と多くなっている。一方、「特に参加・鑑賞していない」は60～64歳（61.1％）で6割強と多くなっている。（図3-25-2）

図 3-25-3 この1年間の地域の伝統行事や伝統芸能への参加状況－居住地域別



居住地域別にみると、「八王子まつりや地域のお祭り」は本庁管内（中央地域）（47.7％）で5割近くと多くなっている。一方、「特に参加・鑑賞していない」は由木・由木東・南大沢（東部地域）（70.6％）で約7割と多くなっている。（図3-25-3）

(26) 海外友好交流都市の周知度

◇《知っている》が約4割

問33 あなたは、市が海外友好交流都市との交流を進めていることを知っていますか。

(○は1つだけ)

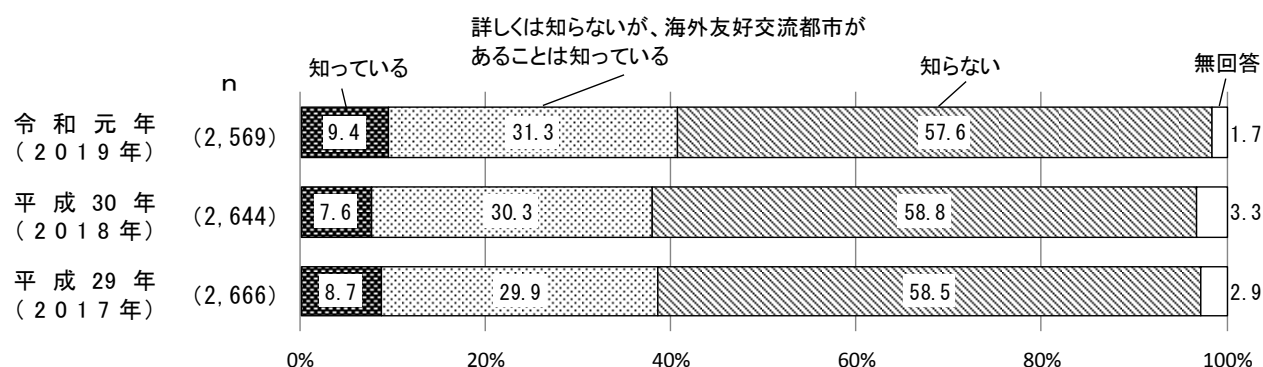
※「海外友好交流都市との交流」とは・・・

○平成18年(2006年)の市制施行90周年を機に、幅広い市民交流が実現できるよう、市は中国・泰安(たいあん)市、台湾・高雄(たかお)市、韓国・始興(しふん)市の3都市との間で友好交流協定を締結し、文化・教育・スポーツなど様々な面で交流を実施しています。

交流実績：海外友好交流都市写真展、八王子まつりへの出演、サッカー交流 など

○また、市制100周年の節目である平成29年(2017年)に、本市中町出身の医師・肥沼信次(こえぬまのぶつぐ)博士ゆかりのドイツ・ヴリーツェン市と新たな友好交流協定を締結しました。

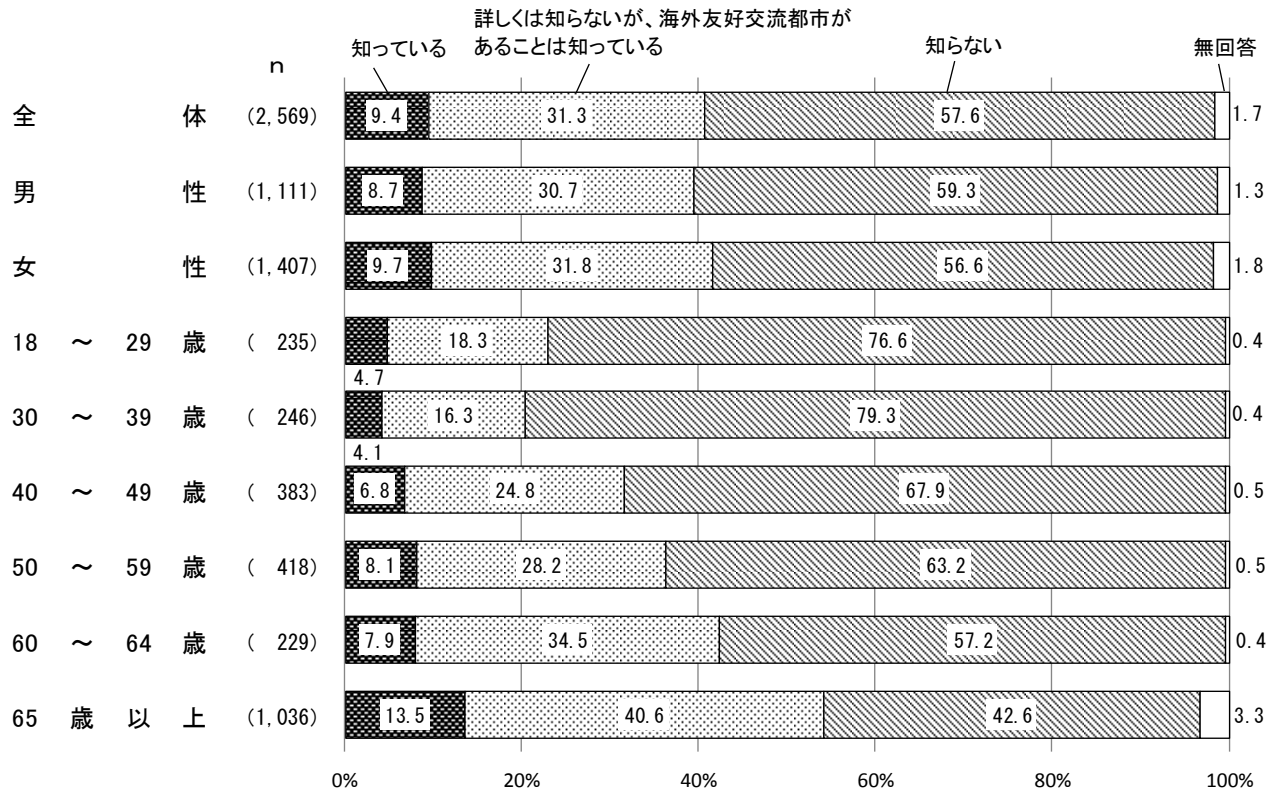
図3-26-1 海外友好交流都市の周知度－全体、経年比較



市が海外友好交流都市との交流を進めていることを知っているか聞いたところ、「知っている」(9.4%)と「詳しくは知らないが、海外友好交流都市があることは知っている」(31.3%)を合わせた《知っている》(40.7%)は約4割となっており、「知らない」(57.6%)が6割近くと多くなっている。

前回調査と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。(図3-26-1)

図 3-26-2 海外友好交流都市の周知度－性別、年齢別

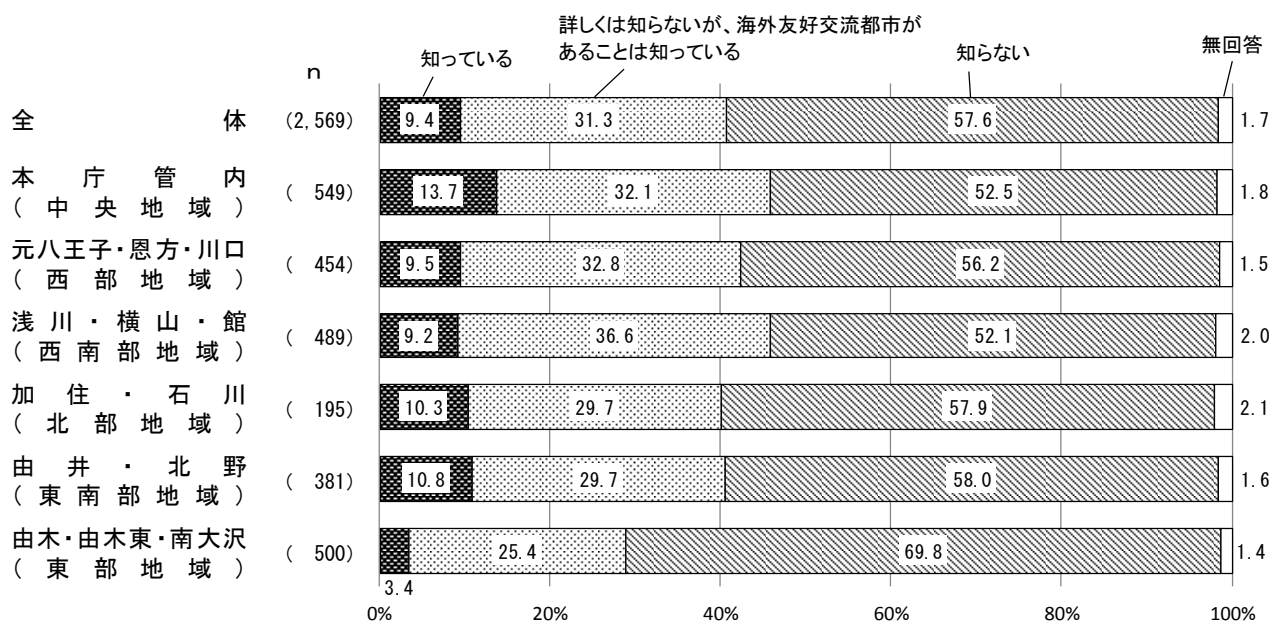


性別にみると、大きな傾向の違いはみられない。

年齢別にみると、「知っている」は65歳以上（54.1%）で5割台半ばと多くなっており、「知らない」は30～39歳（79.3%）で8割弱、18～29歳（76.6%）で8割近くと多くなっている。

（図 3-26-2）

図 3-26-3 海外友好交流都市の周知度－居住地域別



居住地域別にみると、「知っている」が本庁管内（中央地域）と浅川・横山・館（西南部地域）（45.8%）で4割台半ばと多くなっている。（図 3-26-3）

(27) 障害のある方への理解や配慮

◇《している》が7割弱

問34 あなたは、日ごろ障害のある方に対して、理解や適切な配慮をしていますか。

(○は1つだけ)

※「適切な配慮」とは・・・

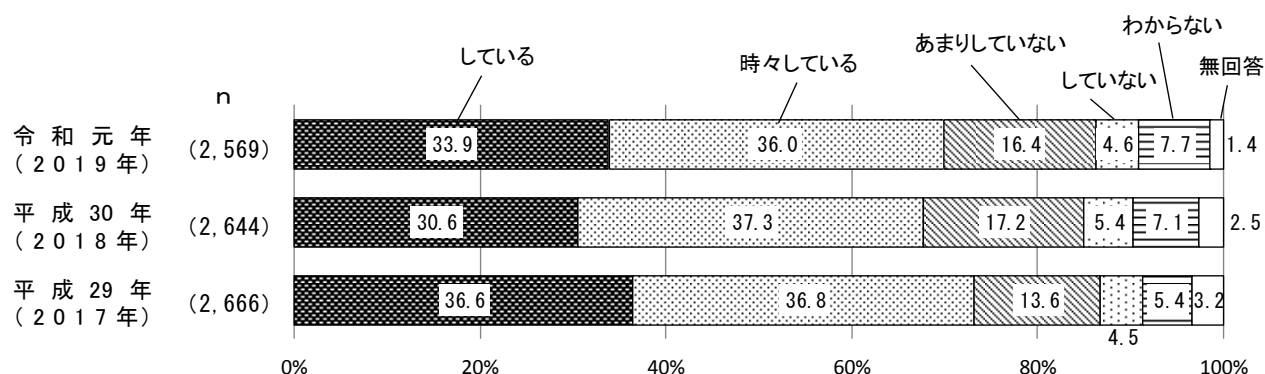
○困っている様子の方を見かけたら、声をかける。

○ゆっくりわかりやすく話すなどしたり、筆談したりするなど障害特性に応じたわかりやすいコミュニケーションの方法に心配りする。

○優先席、思いやり駐車スペース、点字ブロックなどを必要としている方の妨げにならないように配慮する。(聴覚障害、内部障害、難病など、外見からは障害がわかりにくい方々もいます。)

など

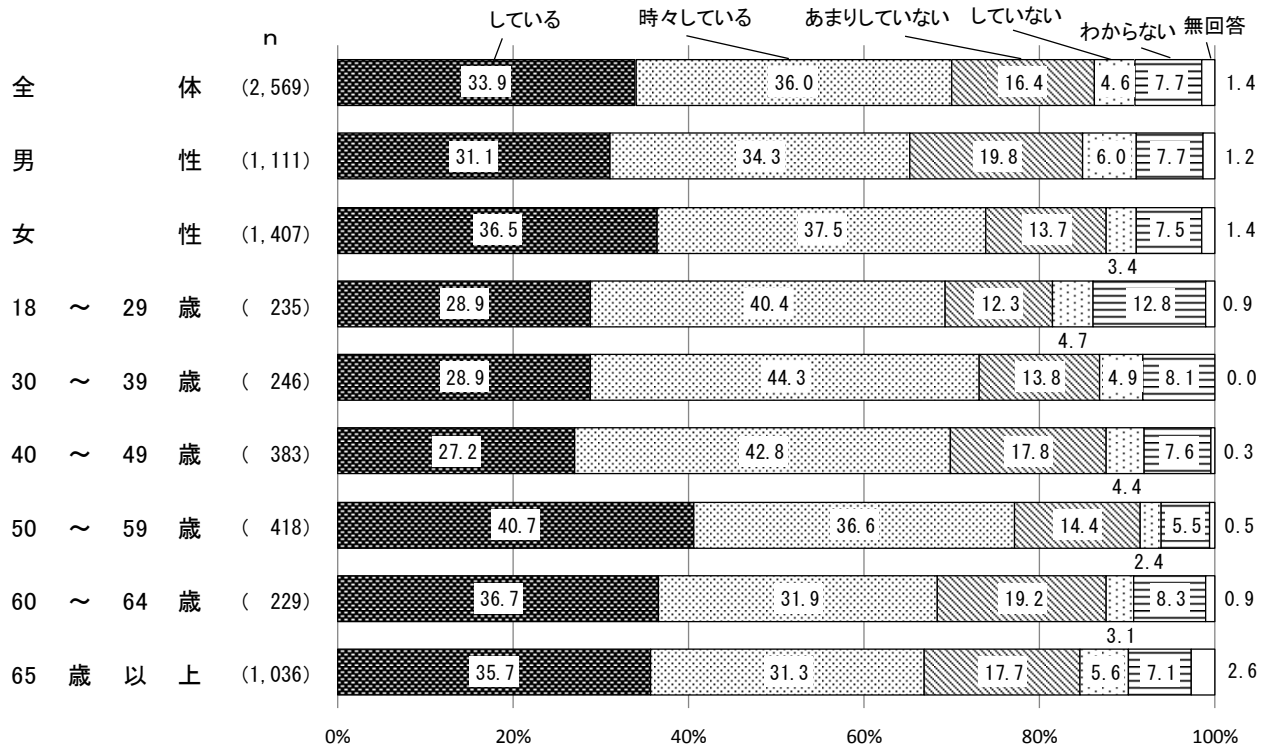
図3-27-1 障害のある方への理解や配慮－全体、経年比較



日ごろ、障害のある方に対して、理解や適切な配慮をしているか聞いたところ、「している」(33.9%)と「時々している」(36.0%)を合わせた《している》(69.9%)が7割弱となっている。一方、「あまりしていない」(16.4%)と「していない」(4.6%)を合わせた《していない》(21.0%)が2割強となっている。

前回までの調査と比較すると、「している」は平成30年(2018年)(30.6%)から3.3ポイント増加している。(図3-27-1)

図 3-27-2 障害のある方への理解や配慮－性別、年齢別

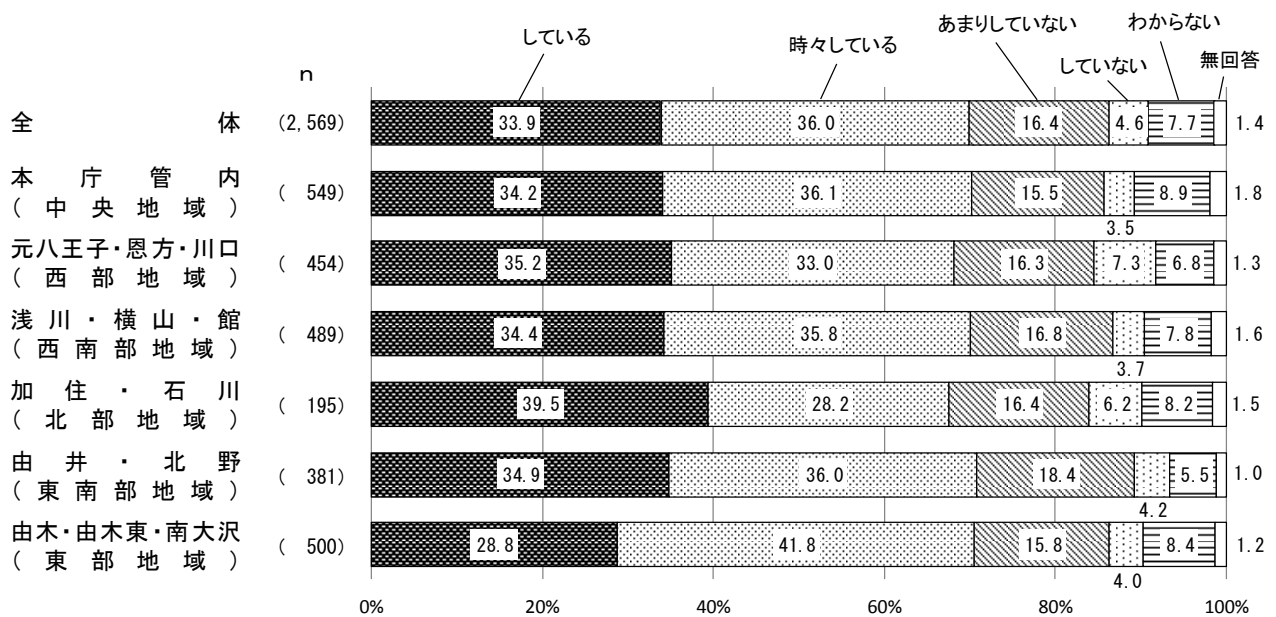


性別にみると、「している」は女性（74.0％）が男性（65.4％）より8.6ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「している」は50～59歳（77.3％）が8割近くで多くなっている。

（図 3-27-2）

図 3-27-3 障害のある方への理解や配慮－居住地域別



居住地域別にみると、大きな傾向の違いはみられない。（図 3-27-3）

(28) 高齢者ボランティア・ポイント制度の周知度

◇「知っている」は1割台半ば

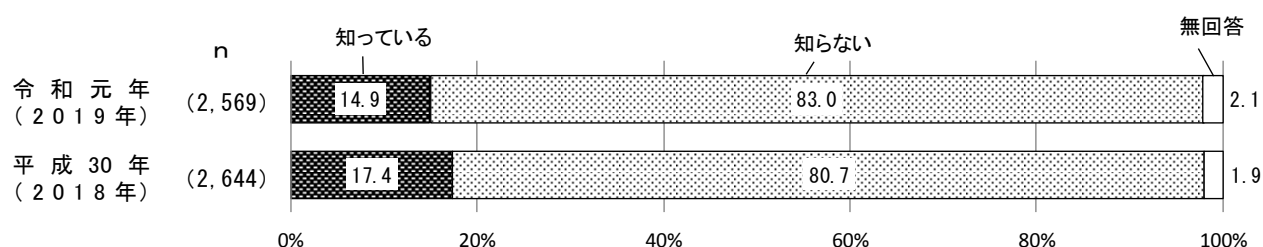
問35 あなたは、「高齢者ボランティア・ポイント制度」を知っていますか。

(○は1つだけ)

※高齢者ボランティア・ポイント制度とは・・・

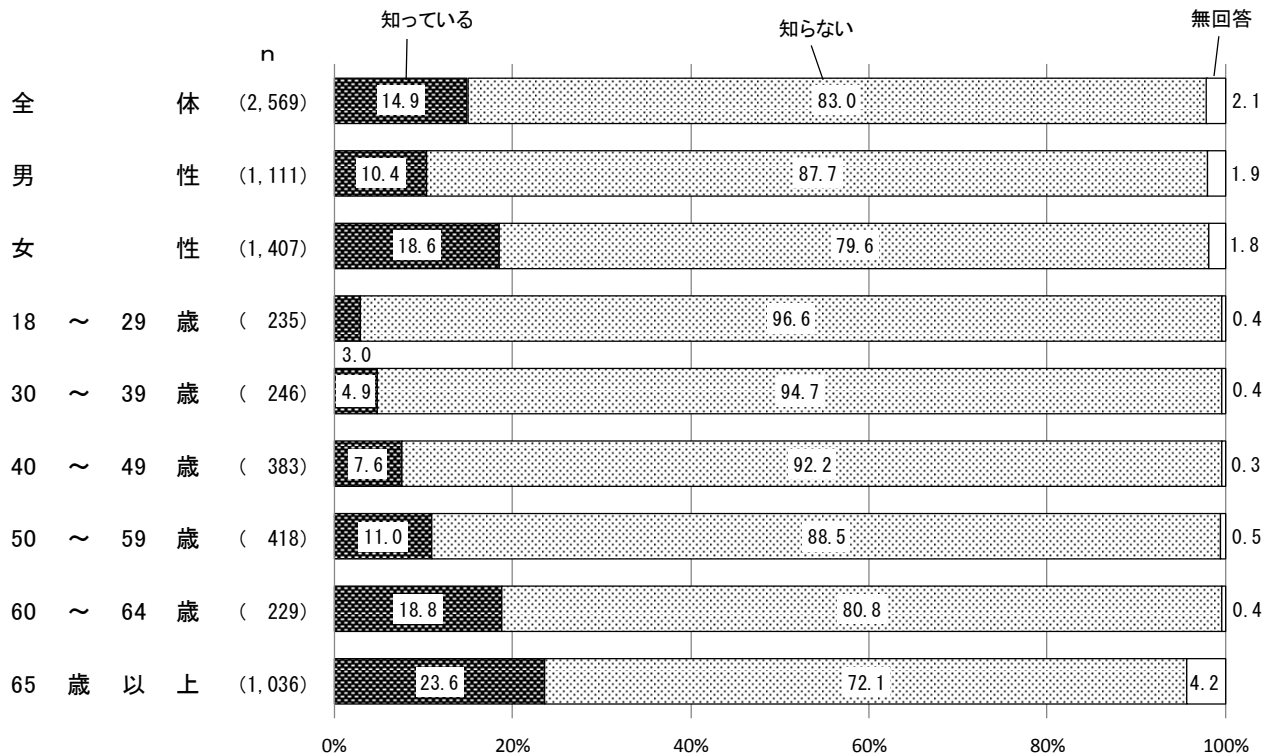
65 歳以上の方が特別養護老人ホーム等の施設や団体、高齢者の自宅などでボランティア活動を行い、その成果を交付金や「道の駅八王子滝山」等で利用可能な共通利用券などと交換できる制度です。

図3-28-1 高齢者ボランティア・ポイント制度の周知度－全体、経年比較



高齢者ボランティア・ポイント制度を知っているか聞いたところ、「知っている」(14.9%)は1割台半ばで、「知らない」(83.0%)が8割強となっている。(図3-28-1)

図 3-28-2 高齢者ボランティア・ポイント制度の周知度－性別、年齢別

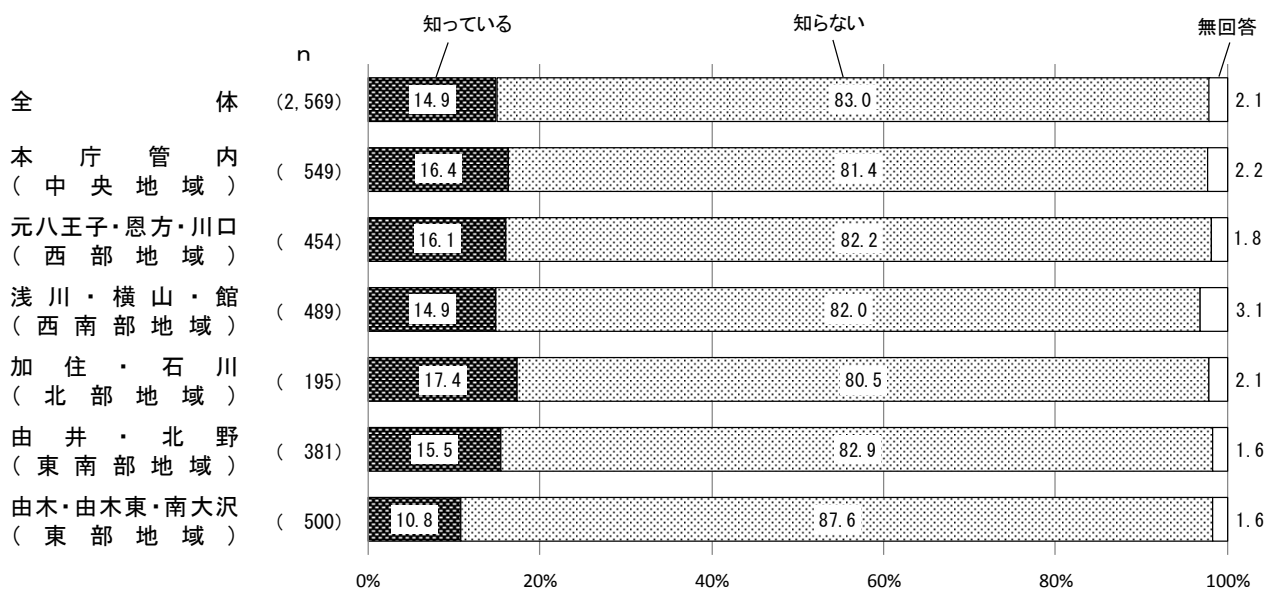


性別にみると、「知っている」は女性（18.6%）が男性（10.4%）より8.2ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「知っている」は65歳以上（23.6%）で2割強と多くなっている。

（図 3-28-2）

図 3-28-3 高齢者ボランティア・ポイント制度の周知度－居住地域別



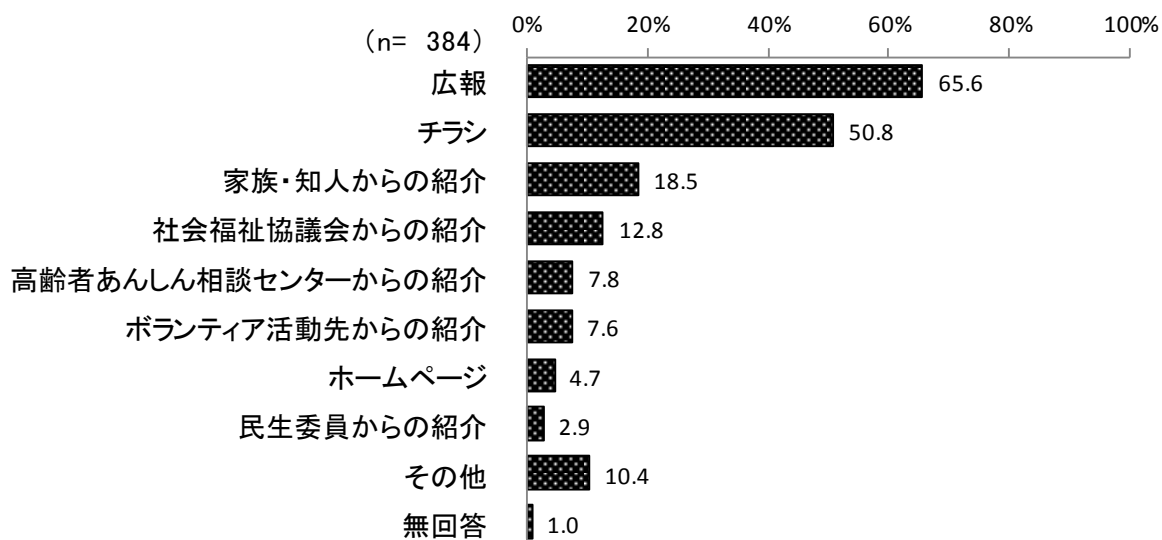
居住地域別にみると、「知っている」は加住・石川（北部地域）（17.4%）が2割近くで多くなっている。（図 3-28-3）

(29) 高齢者ボランティア・ポイント制度の認知

◇「広報」は6割台半ば

問35－1 高齢者ボランティア・ポイント制度をどこで知りましたか。(○はいくつでも)

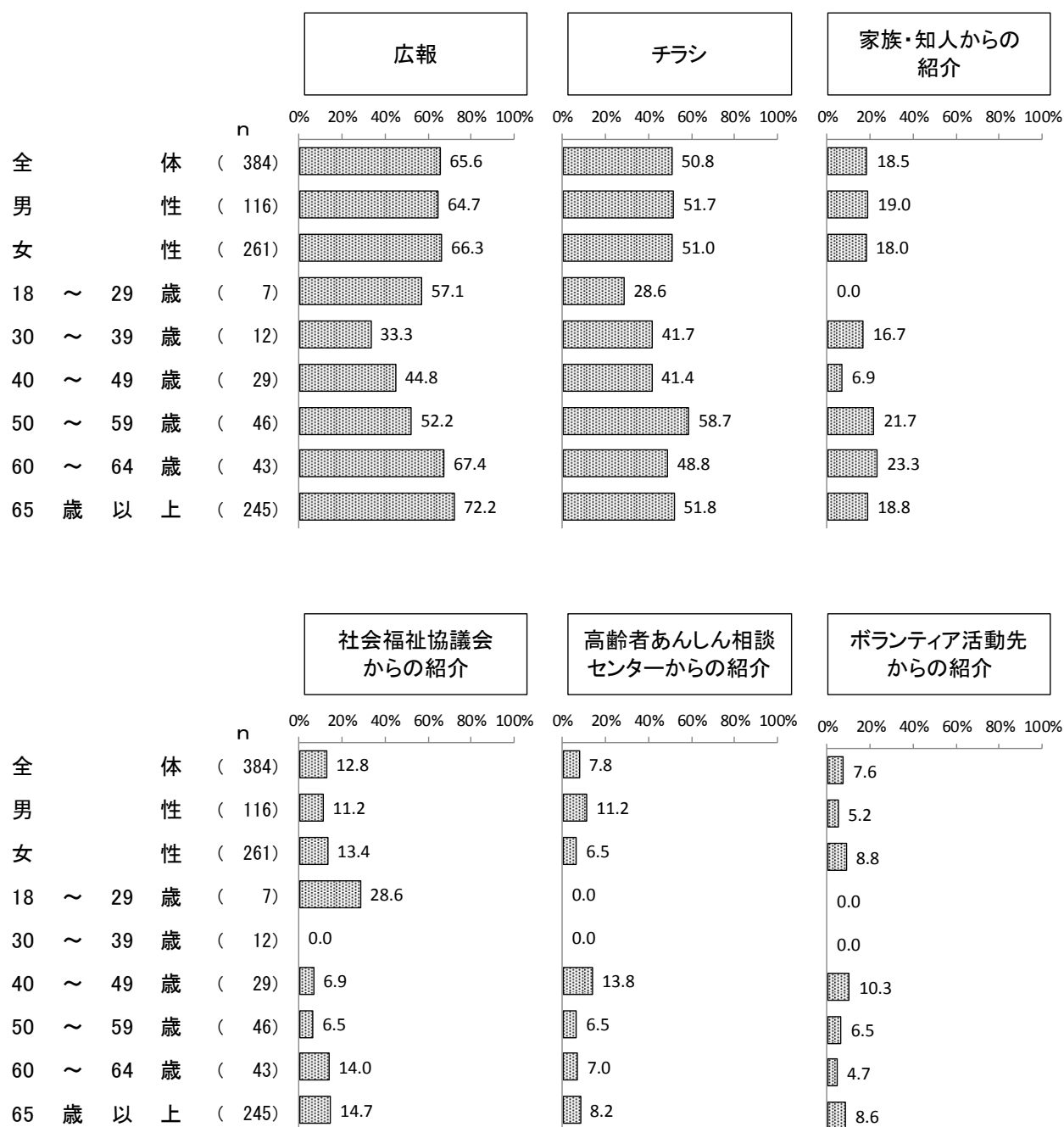
図3－29－1 高齢者ボランティア・ポイント制度の認知－全体



(注) 新規設問のため、経年比較はない。

高齢者ボランティア・ポイント制度をどこで知ったか聞いたところ、「広報」(65.6%)が6割台半ばで最も多く、「チラシ」(50.8%)が約5割で続き、「家族・知人からの紹介」(18.5%)は2割近くとなっている。(図3－29－1)

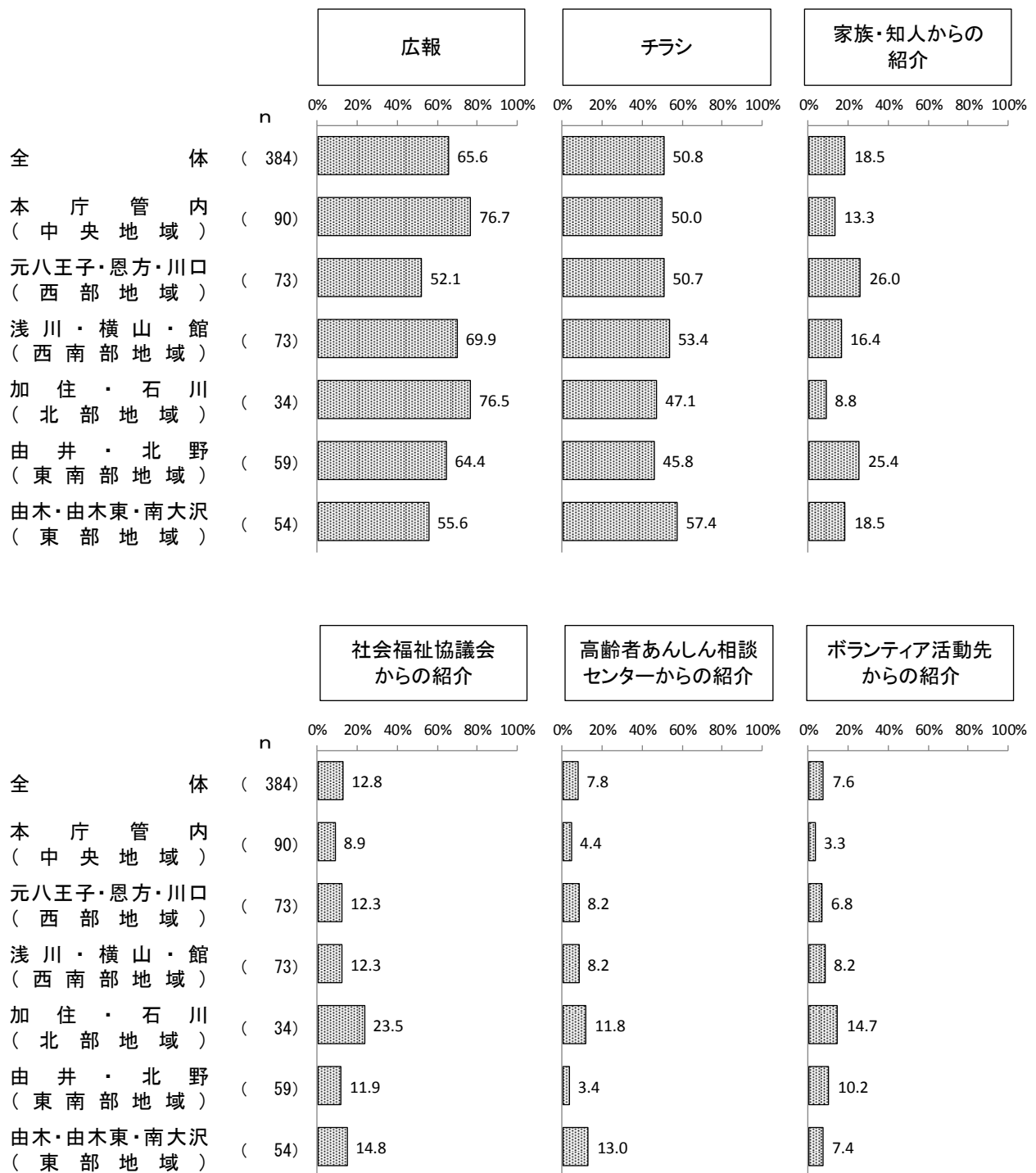
図 3-29-2 高齢者ボランティア・ポイント制度の認知－性別、年齢別（上位 6 位）



性別にみると、「高齢者あんしん相談センターからの紹介」で男性（11.2%）は女性（6.5%）より4.7ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「広報」は65歳以上（72.2%）が7割強で最も多く、60～64歳（67.4%）が7割近くと続いている。一方、「社会福祉協議会からの紹介」は18～29歳（28.6%）で3割近くと多くなっている。（図 3-29-2）

図 3-29-3 高齢者ボランティア・ポイント制度の認知－居住地域別（上位 6 位）



居住地域別にみると、「広報」は本庁管内（中央地域）（76.7%）と加住・石川（北部地域）（76.5%）がそれぞれ 8 割近くと多くなっている。（図 3-29-3）

(30) 高齢者あんしん相談センターの周知度

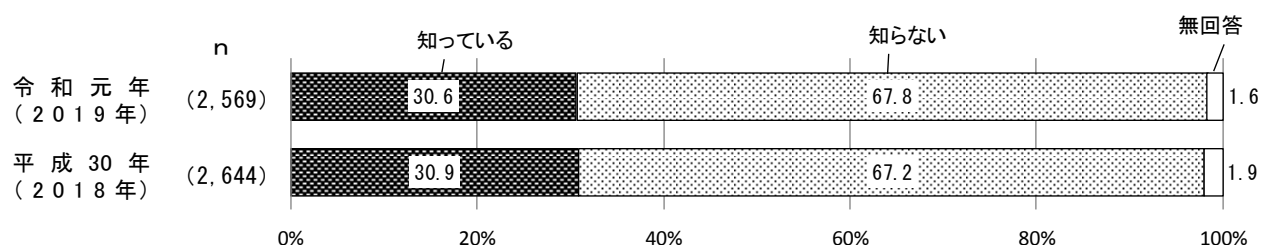
◇「知っている」が約3割

問36 あなたは、「高齢者あんしん相談センター」を知っていますか。(○は1つだけ)

※高齢者あんしん相談センターとは・・・

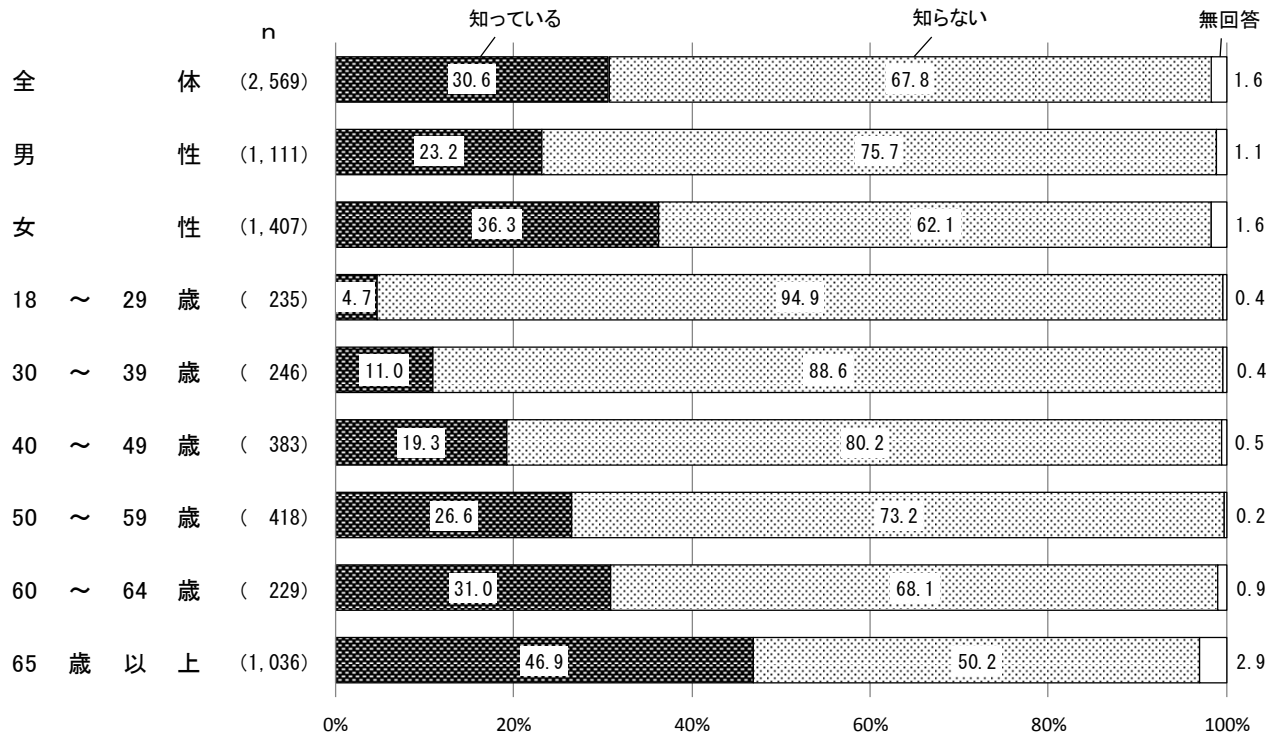
高齢者が住み慣れた地域でいつまでも自分らしく暮らせるよう、地域の身近な相談窓口として市内に17か所設置している施設です。介護保険法に規定された地域包括支援センターのことで、八王子市では親しみやすいようこの愛称を付けています。

図3-30-1 高齢者あんしん相談センターの周知度－全体、経年比較



高齢者あんしん相談センターを知っているか聞いたところ、「知っている」(30.6%)は約3割で、「知らない」(67.8%)が7割近くとなっている。(図3-30-1)

図 3-30-2 高齢者あんしん相談センターの周知度－性別、年齢別

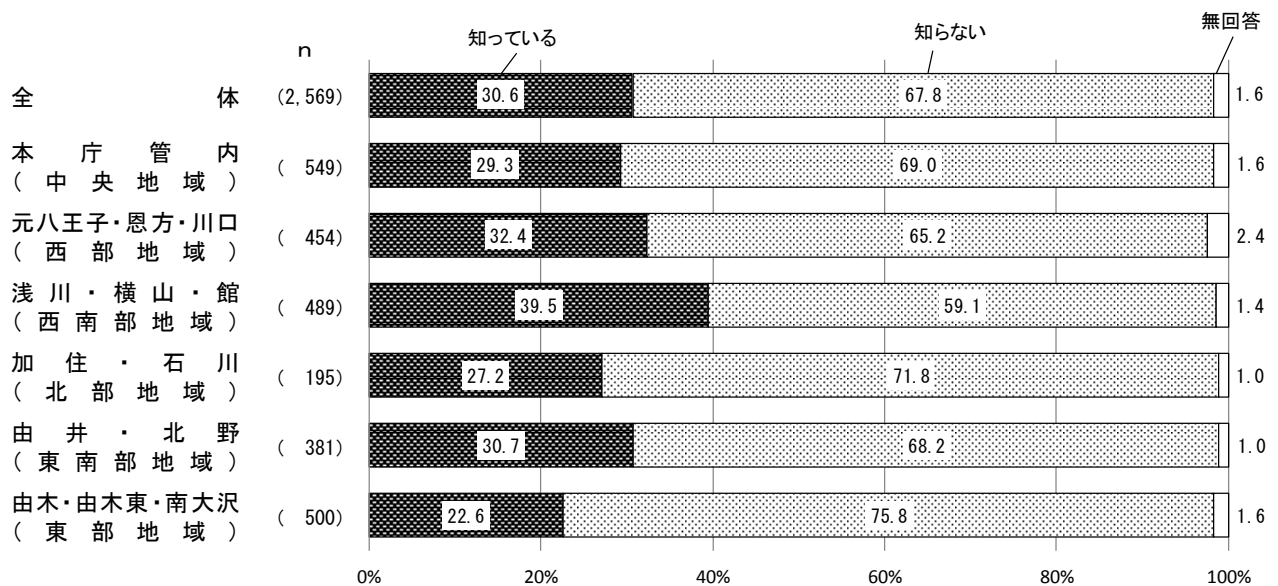


性別にみると、「知っている」は女性（36.3%）が男性（23.2%）より13.1ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「知っている」は65歳以上（46.9%）で5割近くと多くなっている。

（図 3-30-2）

図 3-30-3 高齢者あんしん相談センターの周知度－居住地域別



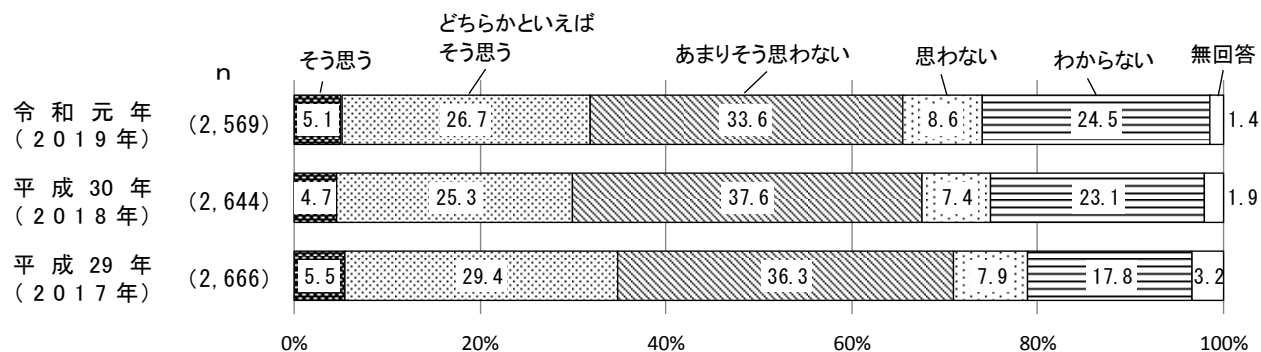
居住地域別にみると、「知っている」は浅川・横山・館（西南部地域）（39.5%）で4割弱と多くなっている。（図 3-30-3）

(31) 誰もが安全で快適に暮らせるまち

◇《そう思う》が3割強

問37 あなたは、市内の道路、公共・民間施設、交通機関などにおいて、高齢者や障害者、子ども連れなど誰もが安全で快適に移動したり、施設を利用したりできるまちになっていると思いますか。(〇は1つだけ)

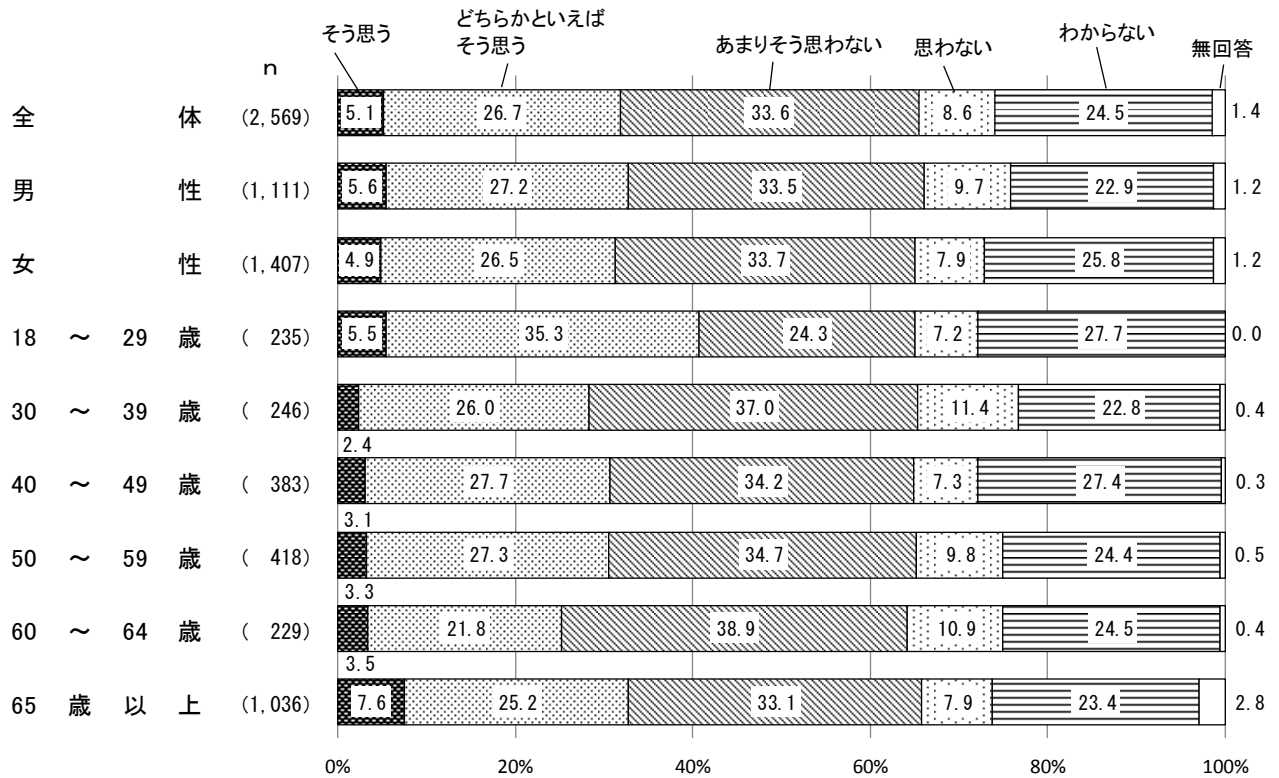
図3-31-1 誰もが安全で快適に暮らせるまちー全体、経年比較



市内の道路、公共・民間施設、交通機関などにおいて、高齢者や障害者、子ども連れなど誰もが安全で快適に移動したり、施設を利用したりできるまちになっていると思うか聞いたところ、「そう思う」(5.1%)と「どちらかといえばそう思う」(26.7%)を合わせた《そう思う》(31.8%)が3割強となっている。一方、「あまりそう思わない」(33.6%)と「思わない」(8.6%)を合わせた《そう思わない》(42.2%)は4割強となっている。

前回までの調査と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。(図3-31-1)

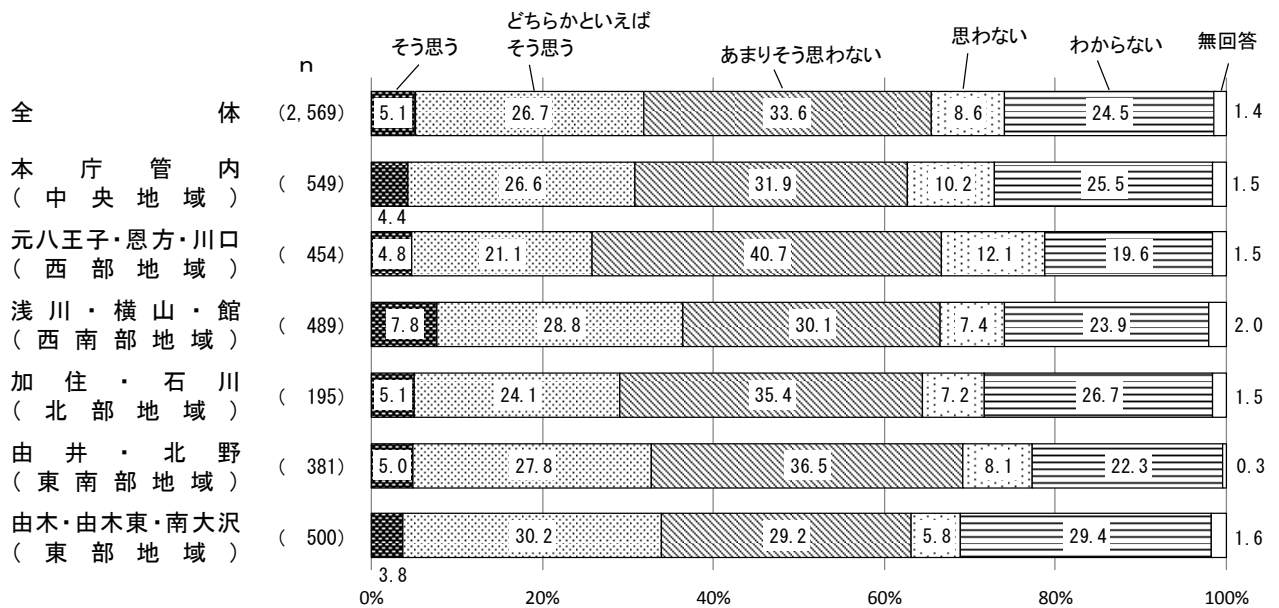
図3-31-2 誰もが安全で快適に暮らせるまち—性別、年齢別



性別にみると、大きな傾向の違いはみられない。

年齢別にみると、「《そう思う》」は18～29歳（40.8%）で約4割と多くっており、一方「《そう思わない》」は60～64歳（49.8%）で5割弱と多くなっている。（図3-31-2）

図3-31-3 誰もが安全で快適に暮らせるまち—居住地域別



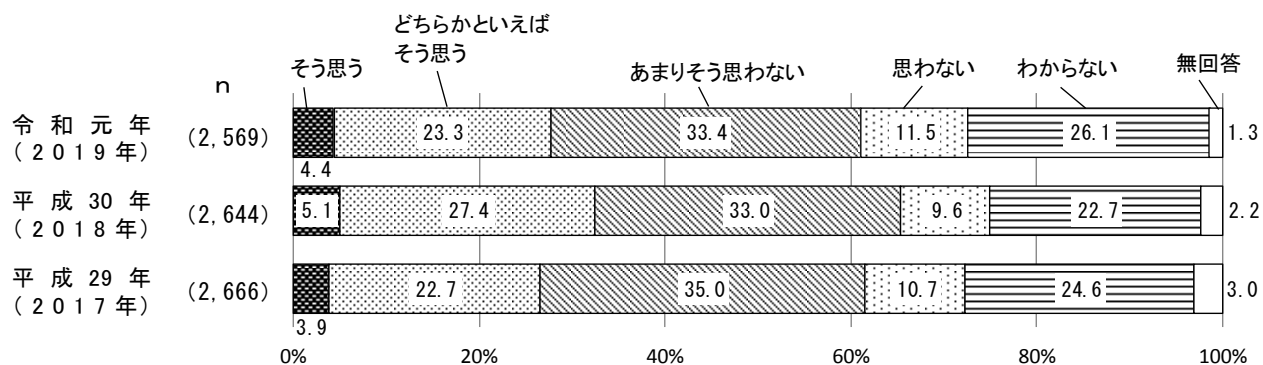
居住地域別にみると、「《そう思う》」は浅川・横山・館（西南部地域）（36.6%）が4割近くで最も多くなっている。（図3-31-3）

(32) 市内の交通渋滞緩和

◇《《そう思う》が3割近く

問38 あなたは、市内の交通渋滞が緩和されていると思いますか。(○は1つだけ)

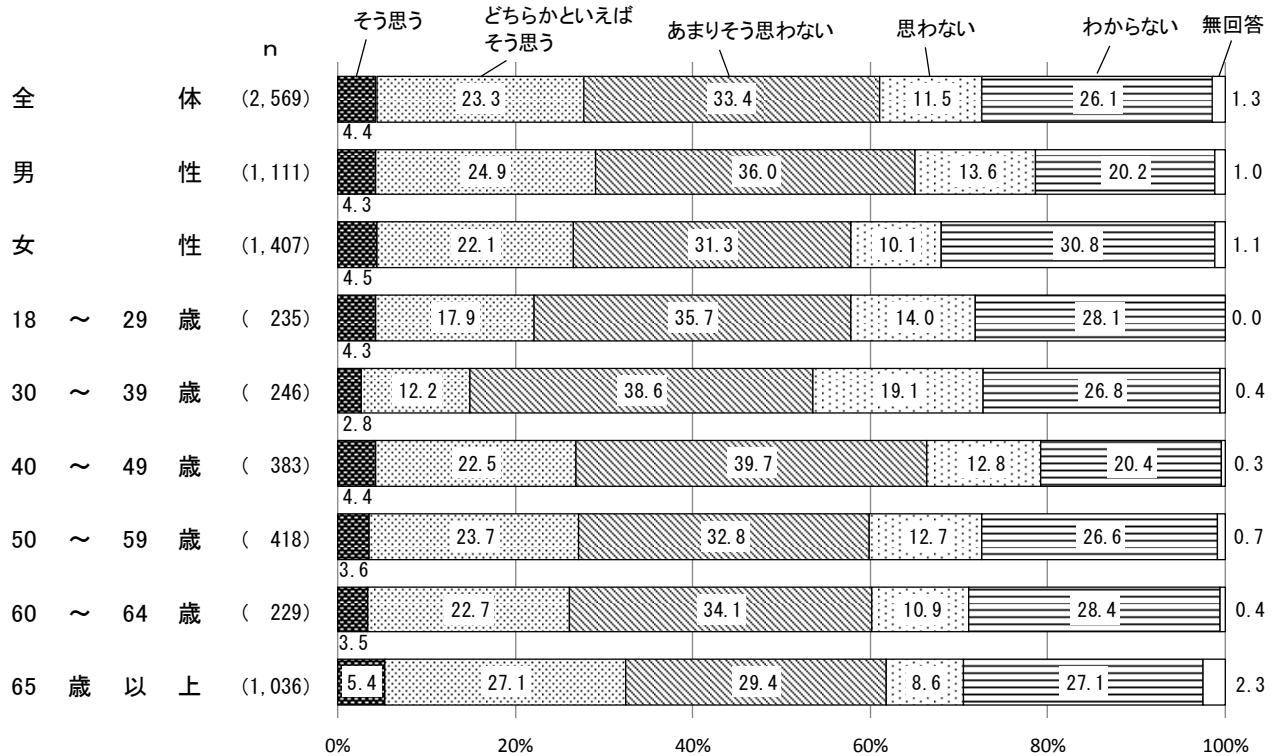
図3-32-1 市内の交通渋滞緩和—全体、経年比較



市内の交通渋滞が緩和されていると思うか聞いたところ、「そう思う」(4.4%)と「どちらかといえばそう思う」(23.3%)を合わせた《《そう思う》》(27.7%)が3割近くとなっている。一方、「あまりそう思わない」(33.4%)と「思わない」(11.5%)を合わせた《《そう思わない》》(44.9%)は4割台半ばとなっている。

前回までの調査と比較すると、《《そう思う》》は平成30年(2018年)(32.5%)から4.8ポイント減少している。(図3-32-1)

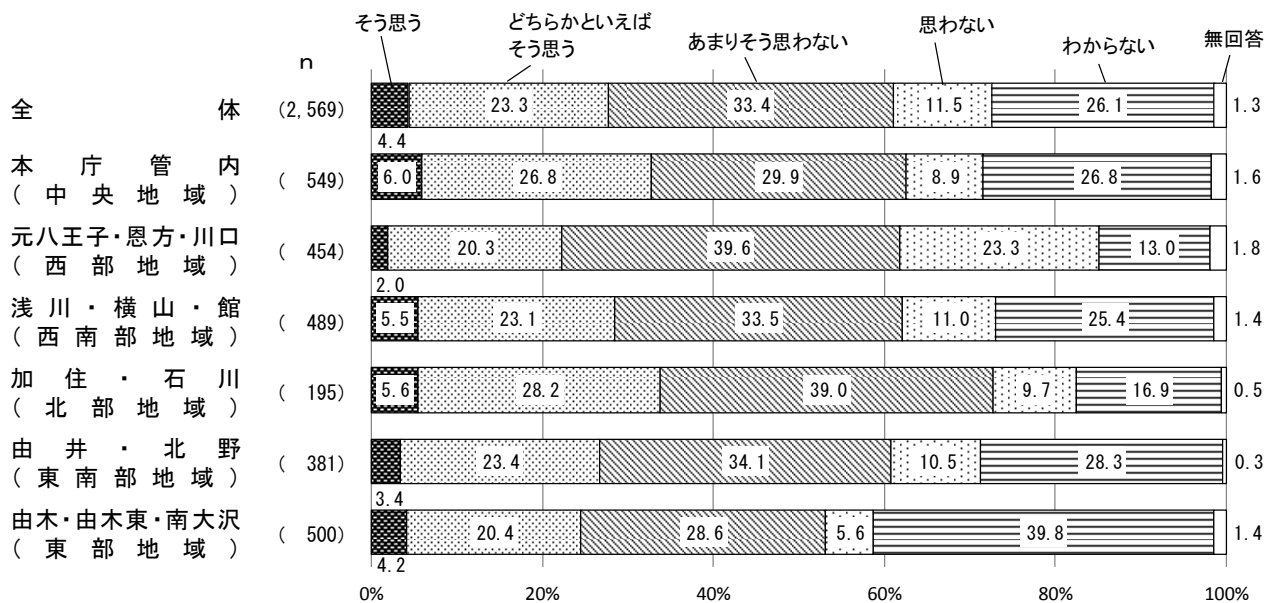
図 3-32-2 市内の交通渋滞緩和一性別、年齢別



性別にみると、「そう思わない」は男性（49.6%）が女性（41.4%）より8.2ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「そう思う」は65歳以上（32.5%）が3割強と多く、「そう思わない」は30～39歳（57.7%）が6割近くで多くなっている。（図 3-32-2）

図 3-32-3 市内の交通渋滞緩和一居住地域別



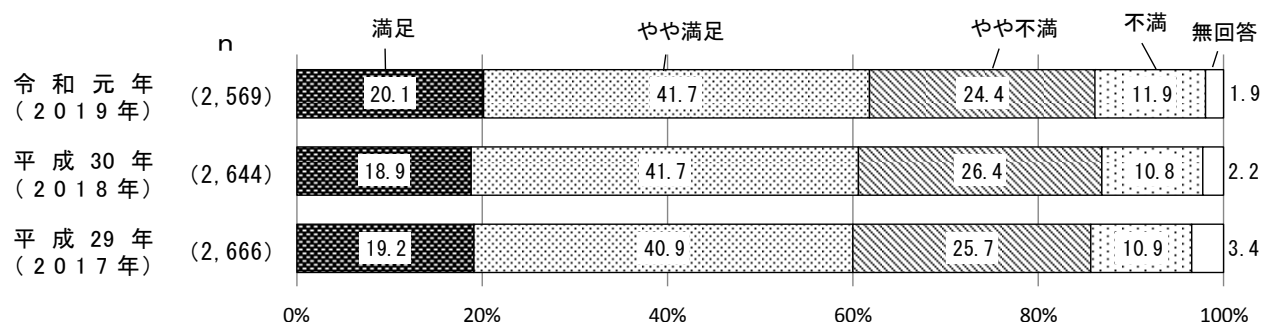
居住地域別にみると、「そう思わない」は元八王子・恩方・川口（西部地域）（62.9%）で6割強と多くなっている。（図 3-32-3）

(33) 公共交通の利便性の満足度

◇《満足》が6割強

問39 あなたは、あなたのお住まいの地域の公共交通（バスや鉄道等）の利便性に満足していますか。（○は1つだけ）

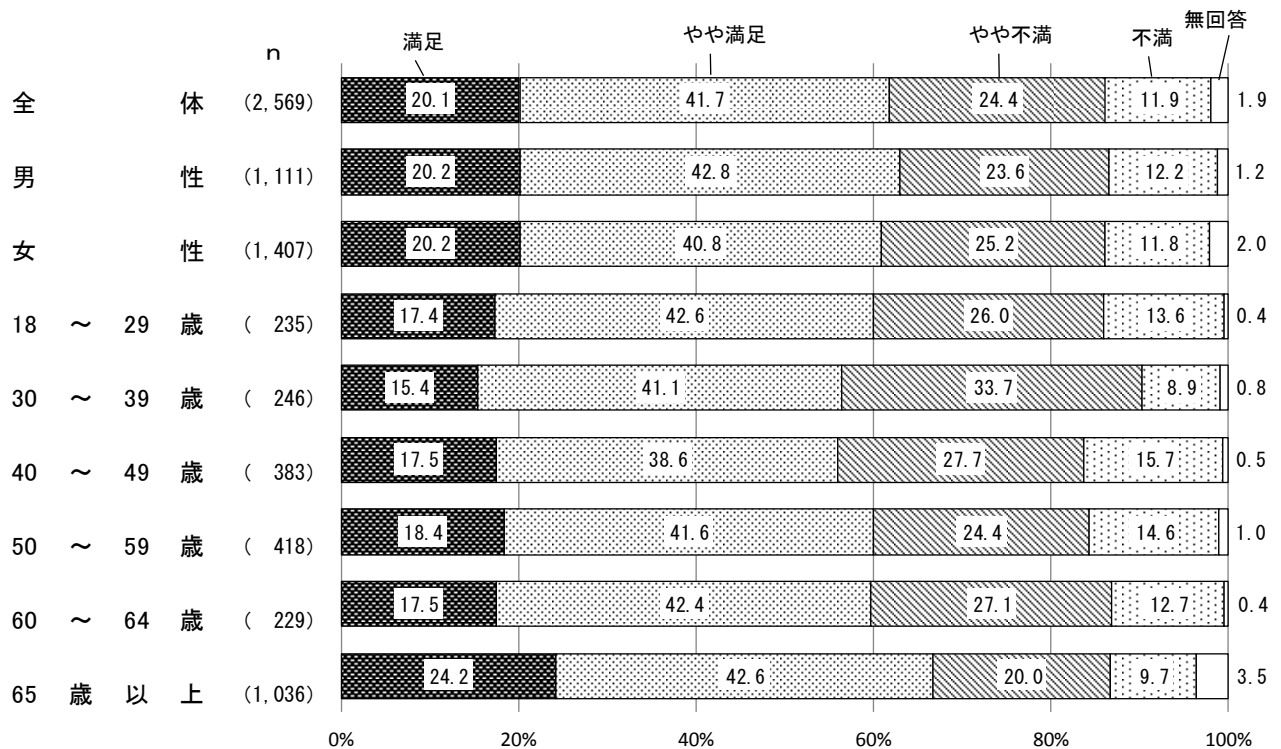
図3-33-1 公共交通の利便性の満足度－全体、経年比較



地域の公共交通（バスや鉄道等）の利便性に満足しているか聞いたところ、「満足」（20.1％）と「やや満足」（41.7％）を合わせた《満足》（61.8％）が6割強となっている。一方、「やや不満」（24.4％）と「不満」（11.9％）を合わせた《不満》（36.3％）は4割近くとなっている。

前回までの調査と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。（図3-33-1）

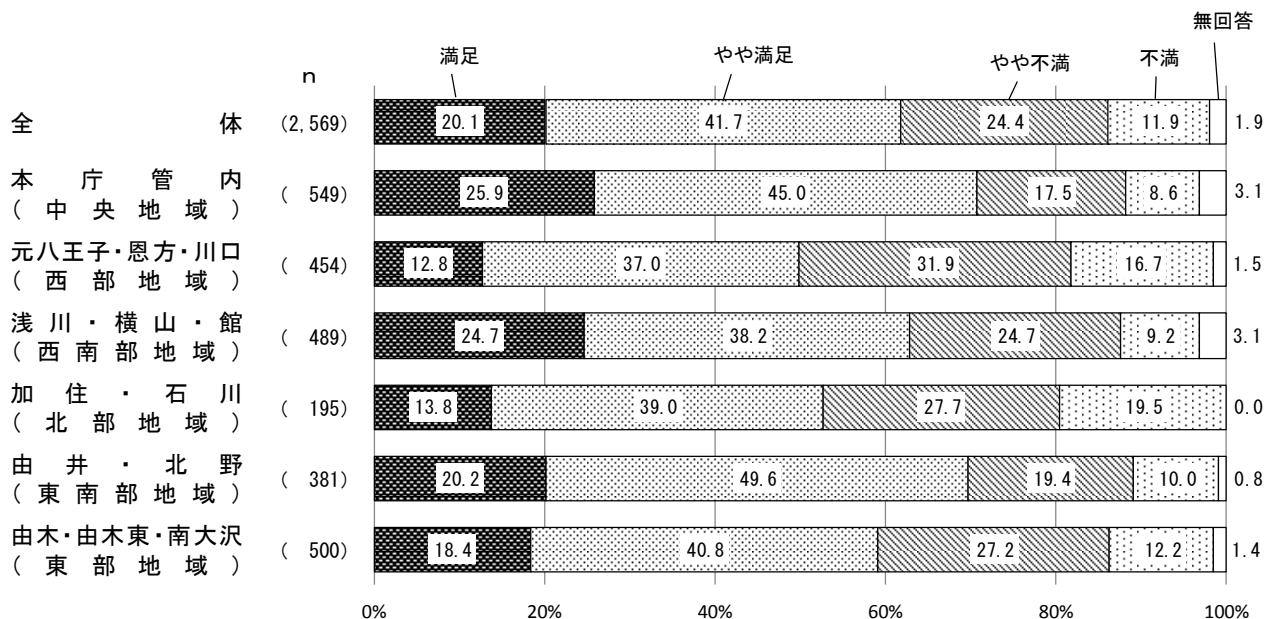
図3-33-2 公共交通の利便性の満足度－性別、年齢別



性別にみると、《満足》は男性（63.0%）が女性（61.0%）より2.0ポイント高くなっている。

年齢別にみると、《満足》は65歳以上（66.8%）が7割近くと多くっており、《不満》は40～49歳（43.4%）が4割強で多くになっている。（図3-33-2）

図3-33-3 公共交通の利便性の満足度－居住地域別



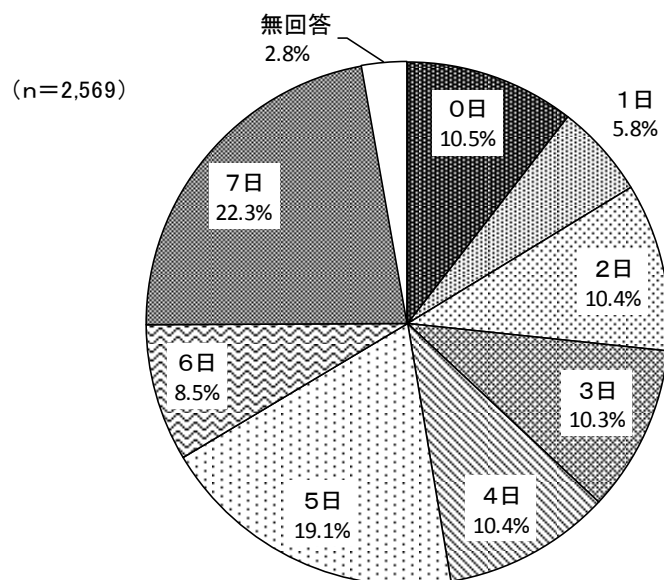
居住地域別にみると、《満足》は本庁管内（中央地域）と由井・北野（東南部地域）で多く、中でも本庁管内（中央地域）（70.9%）で約7割と多くになっている。一方、《不満》は元八王子・恩方・川口（西部地域）（48.6%）で5割近くと多くになっている。（図3-33-3）

(34) 1週間のうち、10分以上続けて歩く日数

◇《5日以上》が5割弱

問40 1週間のうち、あなたが10分以上続けて歩く日は何日ありますか。(○は1つだけ)

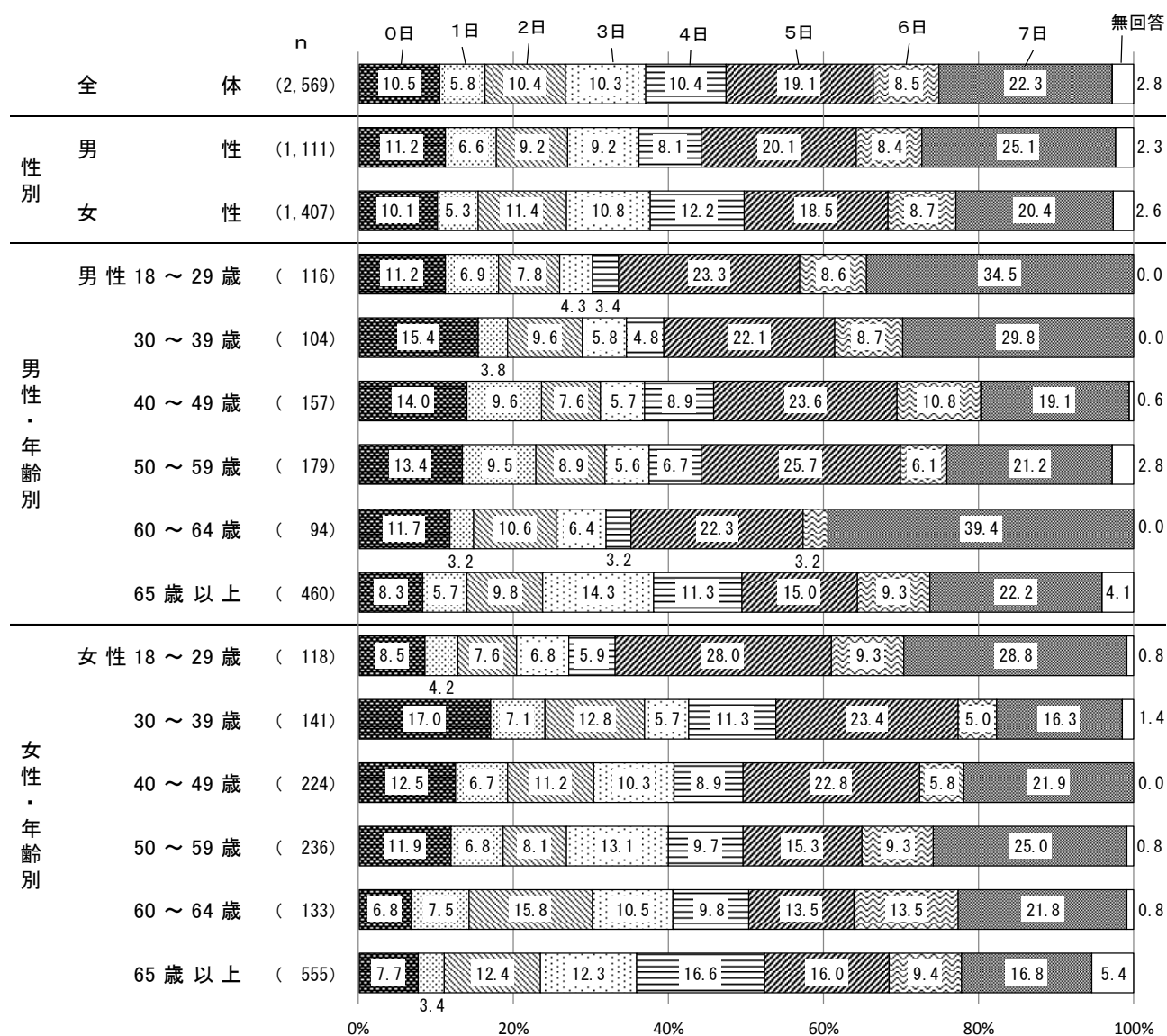
図3-34-1 1週間のうち、10分以上続けて歩く日数－全体



(注) 新規設問のため、経年比較はない。

1週間のうち、10分以上続けて歩く日は何日あるか聞いたところ、「7日」(22.3%)、「6日」(8.5%)、「5日」(19.1%)の3つを合わせた《5日以上》(49.9%)は5割弱となっている。また、「0日」(10.5%)が約1割となっている。(図3-34-1)

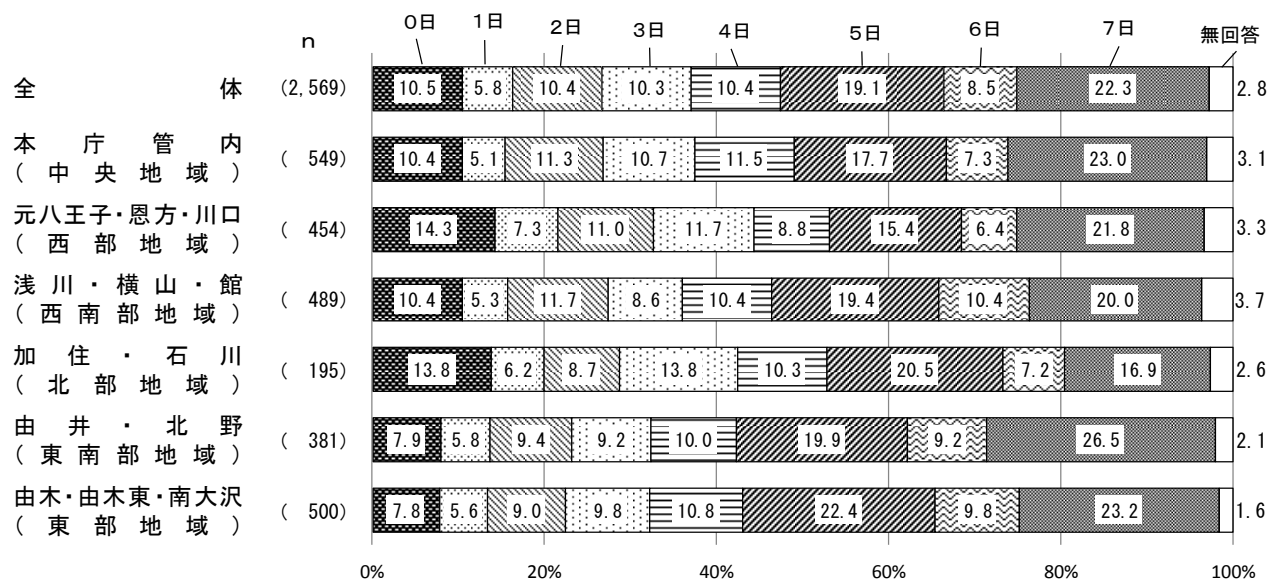
図 3-34-2 1 週間のうち、10 分以上続けて歩く日数－性別、性・年齢別



性別にみると、《5 日以上》は男性（53.6%）が女性（47.6%）より6.0ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、《5 日以上》は18～29歳の男女両層（男性66.4%、女性66.1%）で7割近くと多くなっている。一方、女性65歳以上（42.2%）と女性30～39歳（44.7%）が4割強～4割台半ばと少なくなっている。（図 3-34-2）

図 3-34-3 1週間のうち、10分以上続けて歩く日数－居住地域別



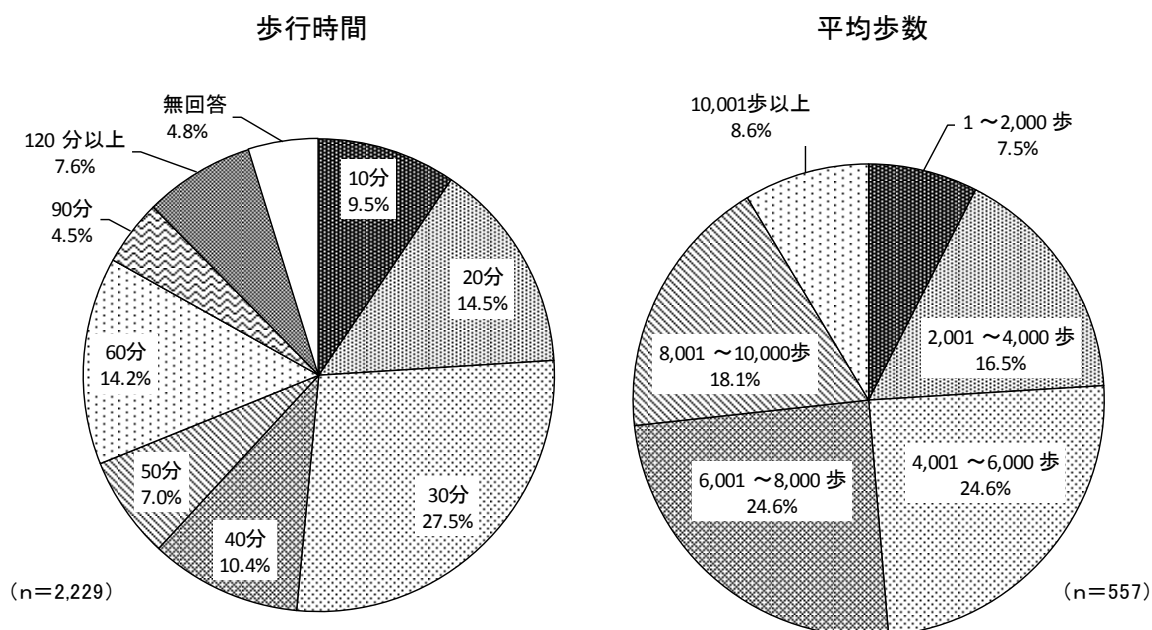
居住地域別にみると、《5日以上》は由井・北野（東南部地域）（55.6%）と由木・由木東・南大沢（東部地域）（55.4%）で5割台半ばと多くなっている。一方、元八王子・恩方・川口（西部地域）（43.6%）で4割強と少なくなっている。（図3-34-3）

(35) 1日の平均的な歩行時間と平均歩数

◇《30分以内》が5割強

問40－1 10分間以上続けて歩く日のうち、1日の平均的な歩行時間はどの程度ですか。(○は1つだけ) また歩数計を所持している方は歩数を記入してください。

図3－35－1 1日の平均的な歩行時間と平均歩数－全体

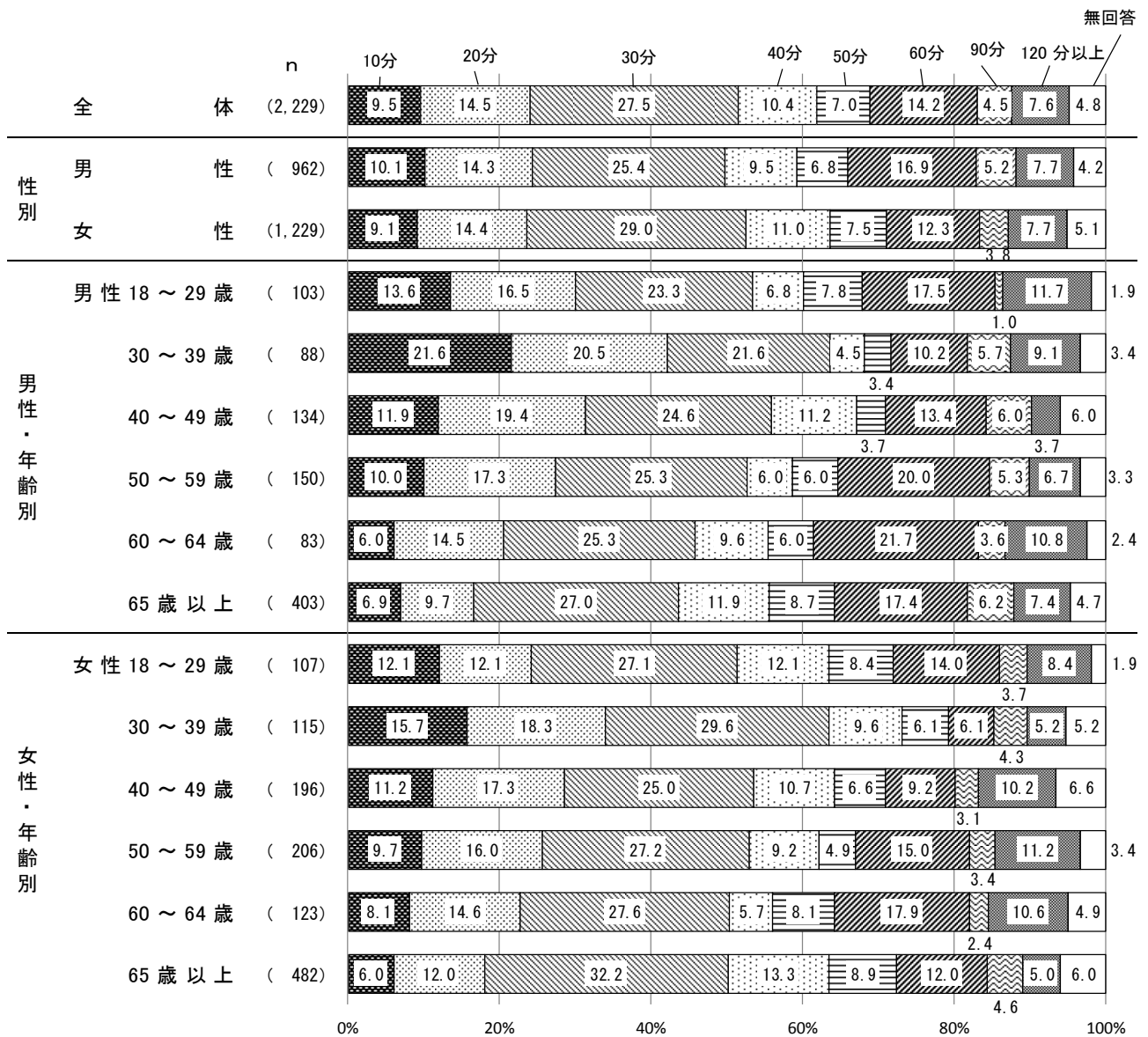


(注) 新規設問のため、経年比較はない。

10分間以上続けて歩く日のうち、1日の平均的な歩行時間はどの程度か聞いたところ、「30分」(27.5%)、「20分」(14.5%)、「10分」(9.5%)の3つを合わせた《30分以内》(51.5%)は5割強となっている。「60分」(14.2%)、「90分」(4.5%)、「120分」(7.6%)の3つを合わせた《60分以上》(26.3%)は3割近くとなっている。

1日の平均歩数について聞いたところ、「4,001～6,000歩」と「6,001～8,000歩」(24.6%)が2割台半ばと多くなっている。(図3－35－1)

図 3-35-2 1日の平均的な歩行時間—性別、性・年齢別

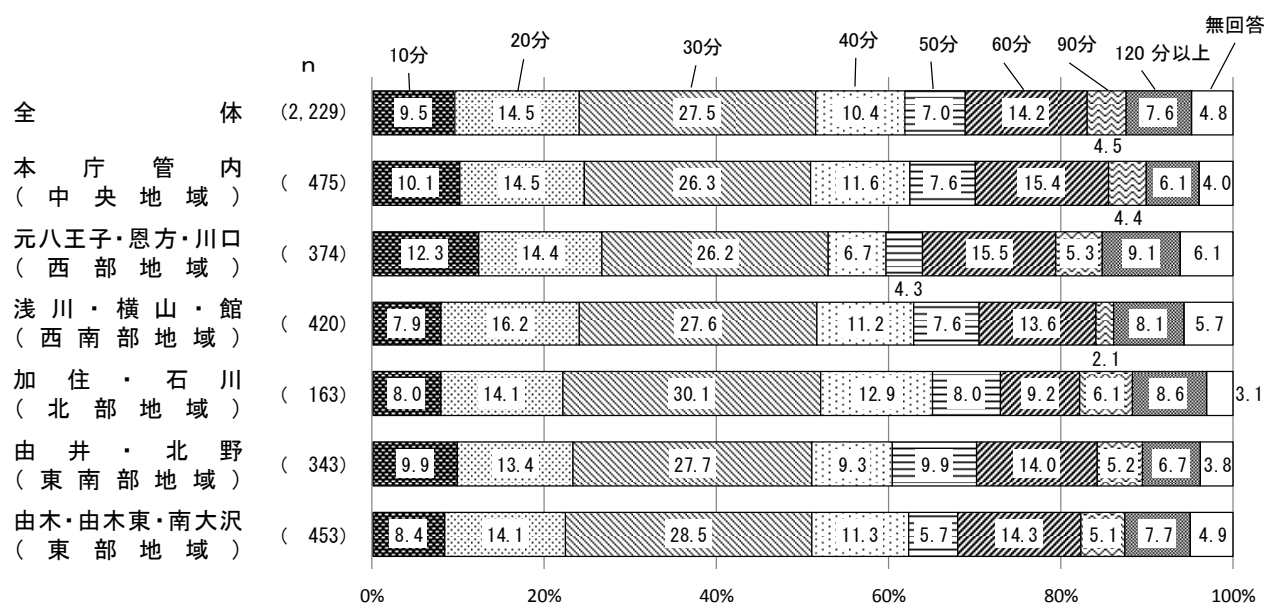


性別にみると、大きな傾向の違いはみられない。

性・年齢別にみると、《30分以内》は30～39歳の男女両層（男性63.7%、女性63.6%）で6割強と多くなっている。一方、《60分以上》は男性60～64歳（36.1%）で4割近くと多くなっている。

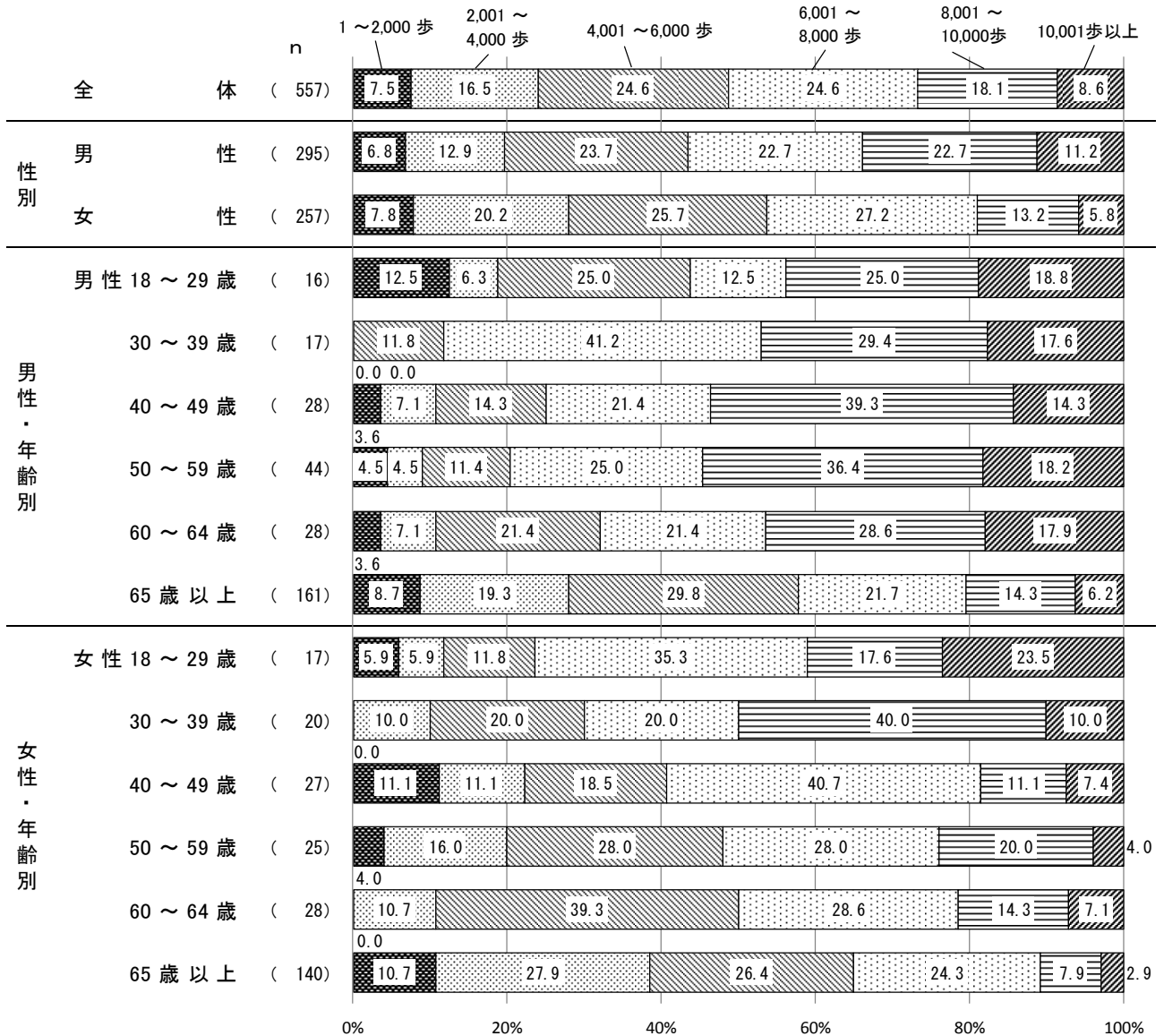
（図 3-35-2）

図 3-35-3 1日の平均的な歩行時間－居住地域別



居住地域別にみると、《30分以内》は大きな傾向の違いはみられない。一方、《60分以上》は元八王子・恩方・川口（西部地域）（29.9%）で3割弱と多くなっている。（図 3-35-3）

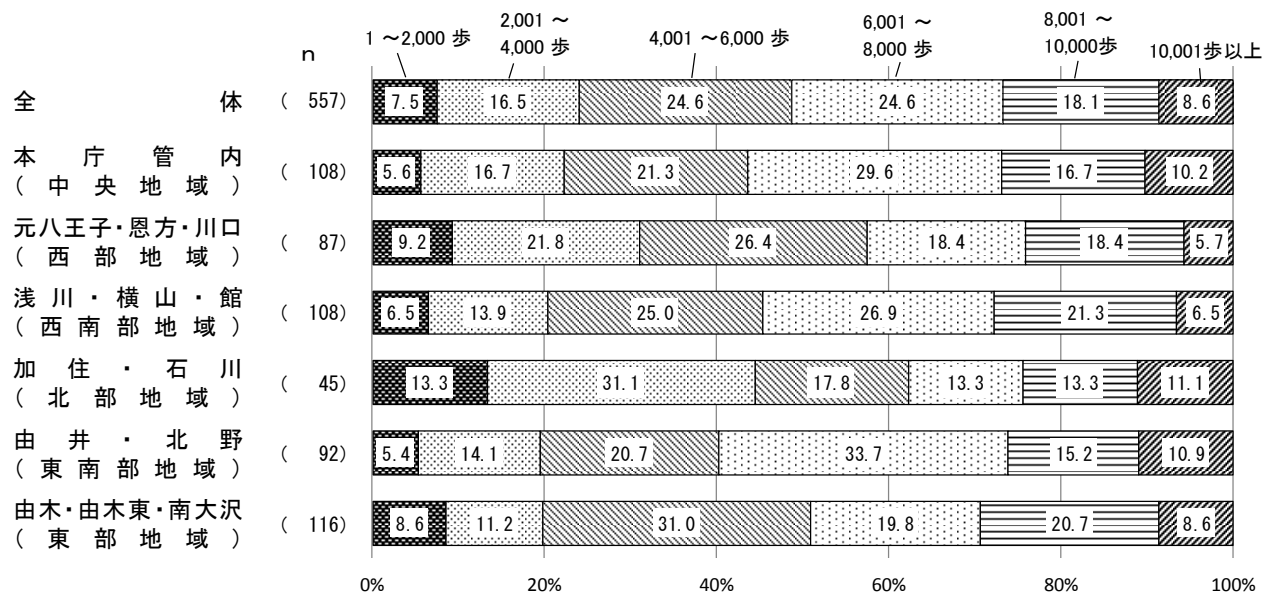
図 3-35-4 1日の平均歩数－性別、性・年齢別



性別にみると、「8,001～10,000歩」で男性（22.7％）は女性（13.2％）より9.5ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、「4,001～6,000歩」は女性60～64歳（39.3％）で4割弱と、「6,001～8,000歩」は男性30～39歳（41.2％）で4割強と多くなっている。（図 3-35-4）

図 3-35-5 1日の平均歩数－居住地域別



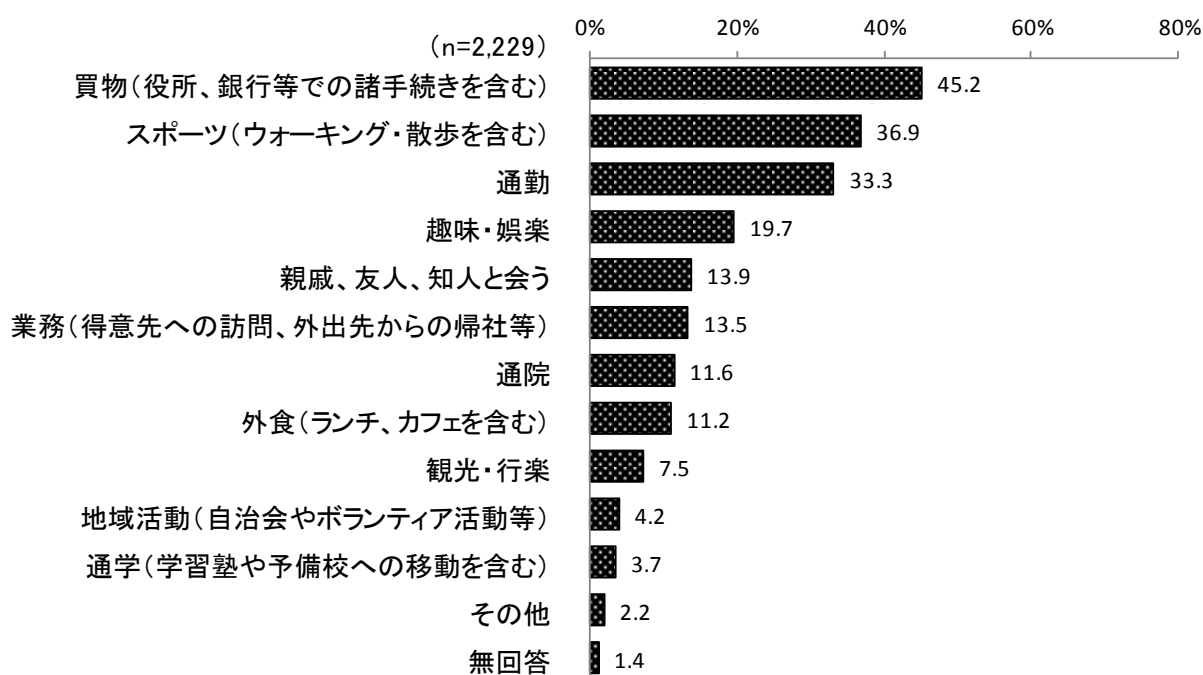
居住地域別にみると、「2,001～4,000歩」は加住・石川（北部地域）（31.1%）で、「6,001～8,000歩」は由井・北野（東南部地域）（33.7%）で3割強と多くなっている。（図 3-35-5）

(36) 10分間以上続けて歩く日の主な外出目的

◇「買物（役所、銀行等での諸手続きを含む）」が4割台半ば

問40－2 10分間以上続けて歩く日の主な外出目的についてお答えください。（○はいくつでも）

図3－36－1 10分間以上続けて歩く日の主な外出目的－全体

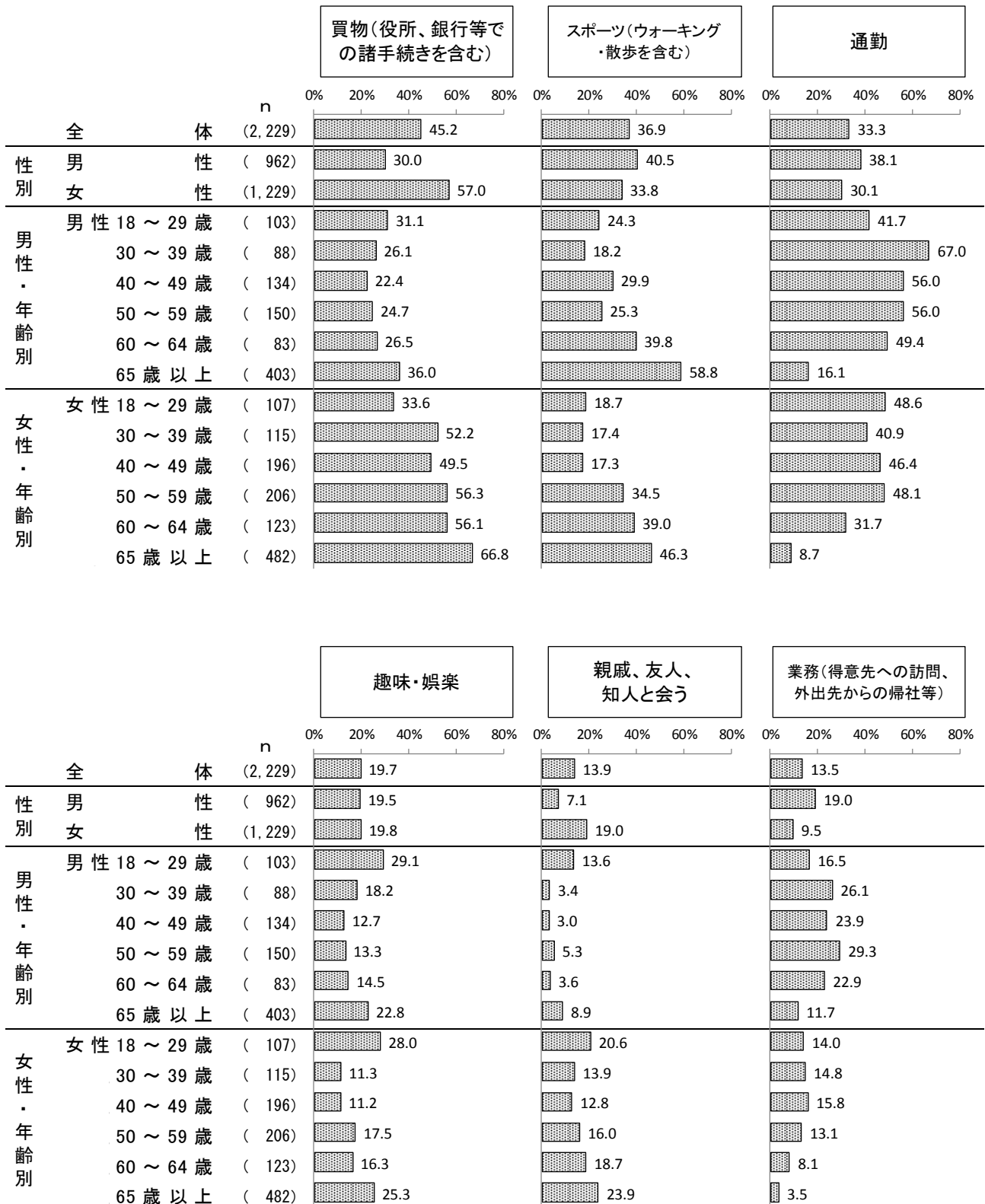


(注) 新規設問のため、経年比較はない。

10分間以上続けて歩く日の主な外出目的について聞いたところ、「買物（役所、銀行等での諸手続きを含む）」（45.2%）が最も多く4割台半ばとなっている。以下「スポーツ（ウォーキング・散歩を含む）」（36.9%）、「通勤」（33.3%）、「趣味・娯楽」（19.7%）などの順となっている。

(図3－36－1)

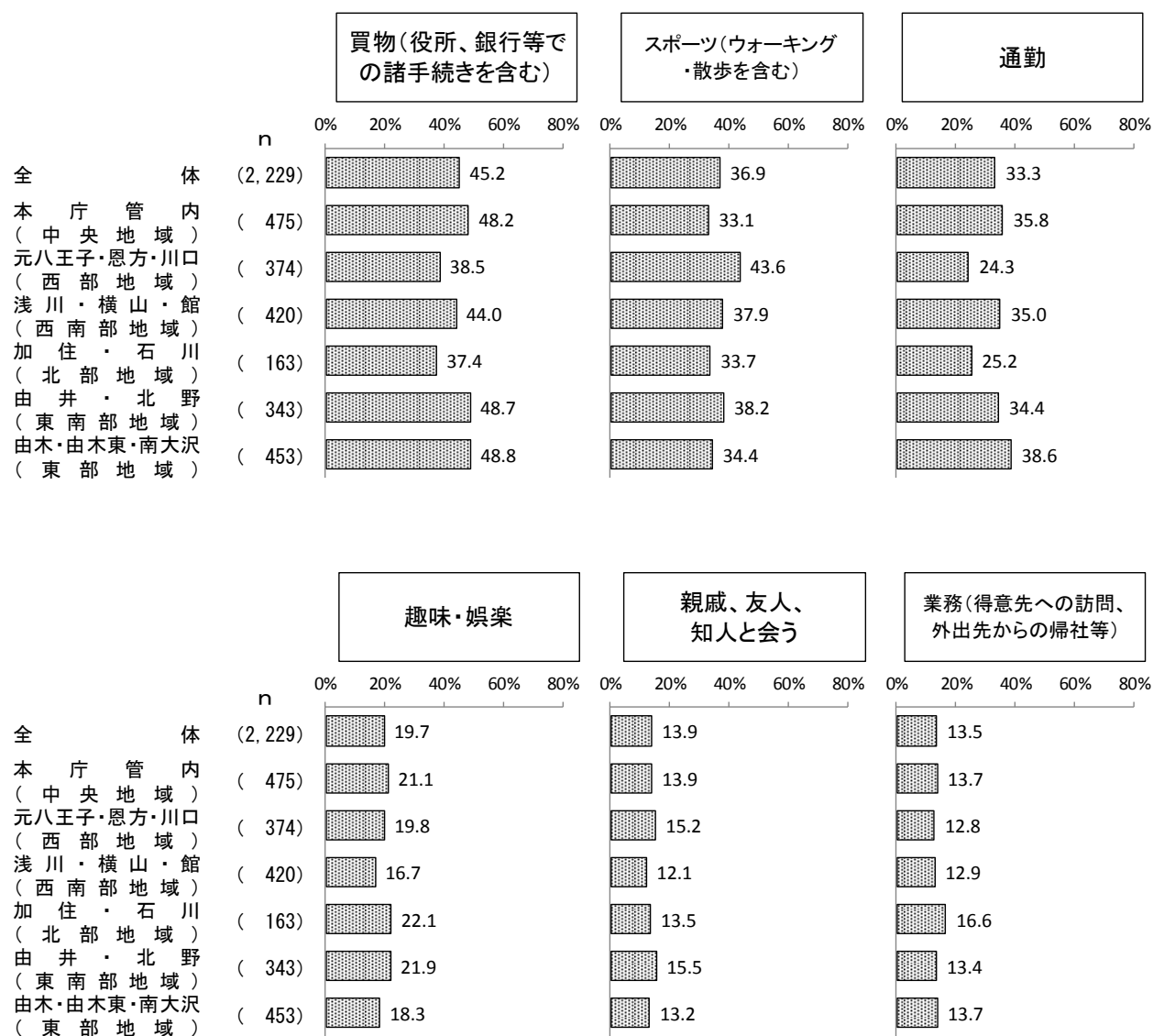
図 3-36-2 10分以上続けて歩く日の主な外出目的－性別、性・年齢別（上位 6 位）



性別にみると、「買物（役所、銀行等での諸手続きを含む）」で女性（57.0%）が男性（30.0%）より27.0ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、「通勤」は男性30～39歳で（67.0%）、「買物（役所、銀行等での諸手続きを含む）」は女性65歳以上（66.8%）でともに7割近くと多くなっている。（図 3-36-2）

図3-36-3 10分以上続けて歩く日の主な外出目的—居住地地域別（上位6位）



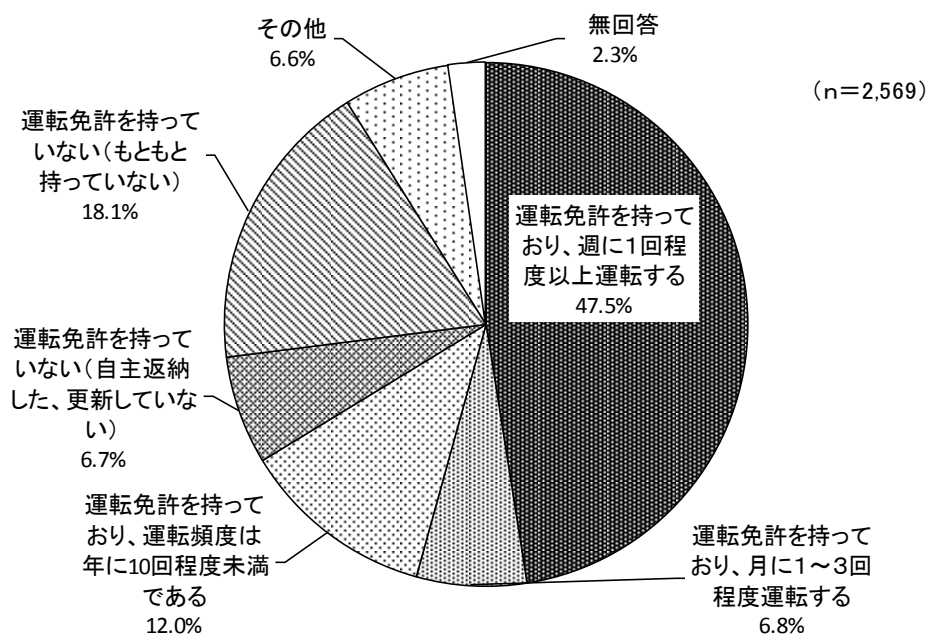
居住地地域別にみると、「買物（役所、銀行等での諸手続きを含む）」は由木・由木東・南大沢（東部地域）（48.8%）、由井・北野（東南部地域）（48.7%）、本庁管内（中央地域）（48.2%）の3地域でそれぞれ5割近くと多くなっており、「スポーツ（ウォーキング・散歩を含む）」は元八王子・恩方・川口（西部地域）（43.6%）で4割強と多くなっている。（図3-36-3）

(37) 運転免許の保有状況と運転頻度

◇「運転免許を持っており、週に1回程度以上運転する」が5割近く

問41 あなたの運転免許の保有状況と自動車の運転頻度についてお答えください。(○は1つだけ)

図3-37-1 運転免許の保有状況と運転頻度－全体

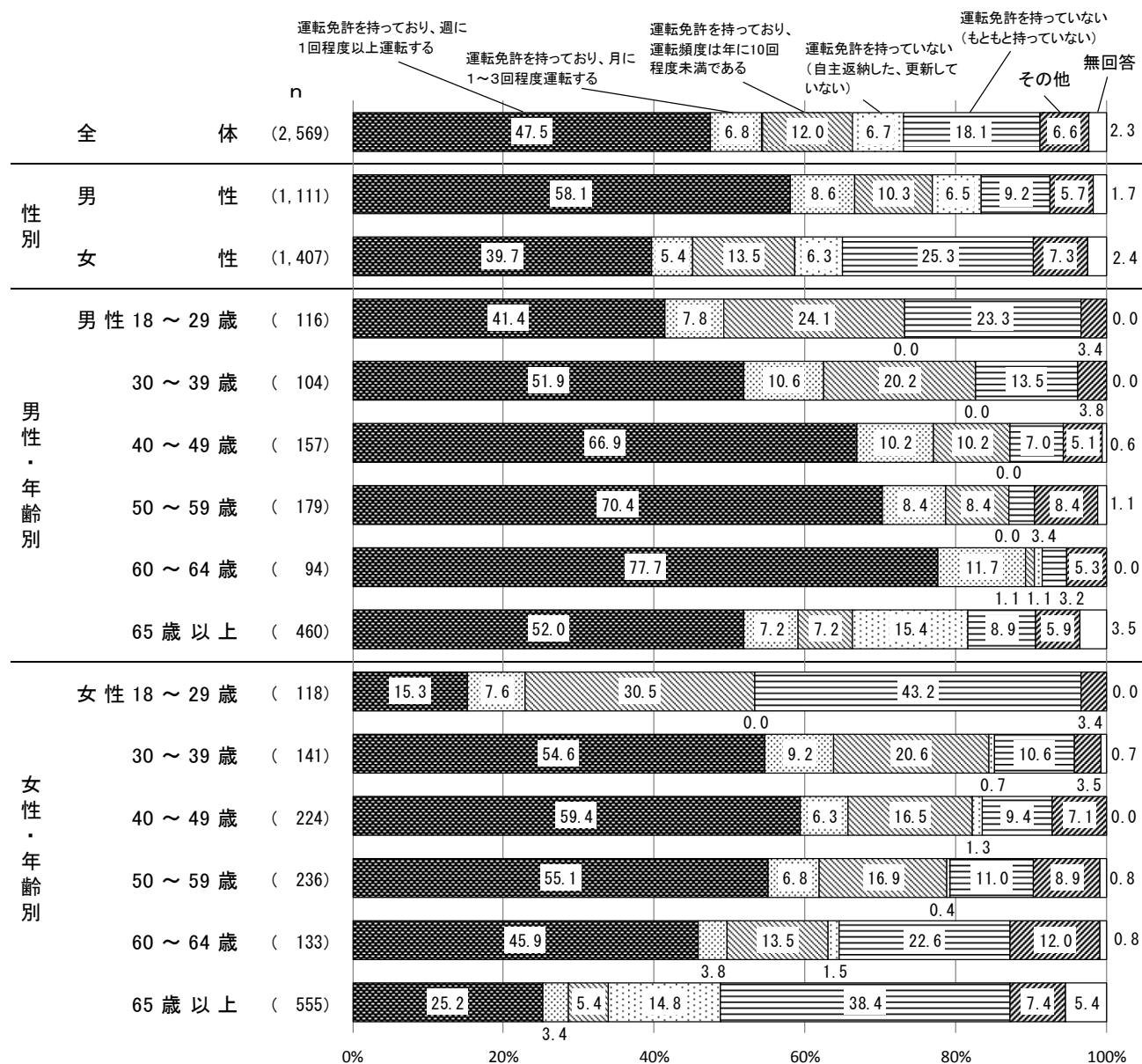


(注) 新規設問のため、経年比較はない。

運転免許の保有状況と自動車の運転頻度について聞いたところ、「運転免許を持っており、週に1回程度以上運転する」(47.5%)、「運転免許を持っており、月に1～3回程度運転する」(6.8%)、「運転免許を持っており、運転頻度は年に10回程度未満である」(12.0%)の3つを合わせた《運転免許を持っている》(66.3%)が7割近くを占め、「運転免許を持っていない(自主返納した、更新していない)」(6.7%)、「運転免許を持っていない(もともと持っていない)」(18.1%)の2つを合わせた《運転免許を持っていない》(24.8%)が4割台半ばとなっている。

(図3-37-1)

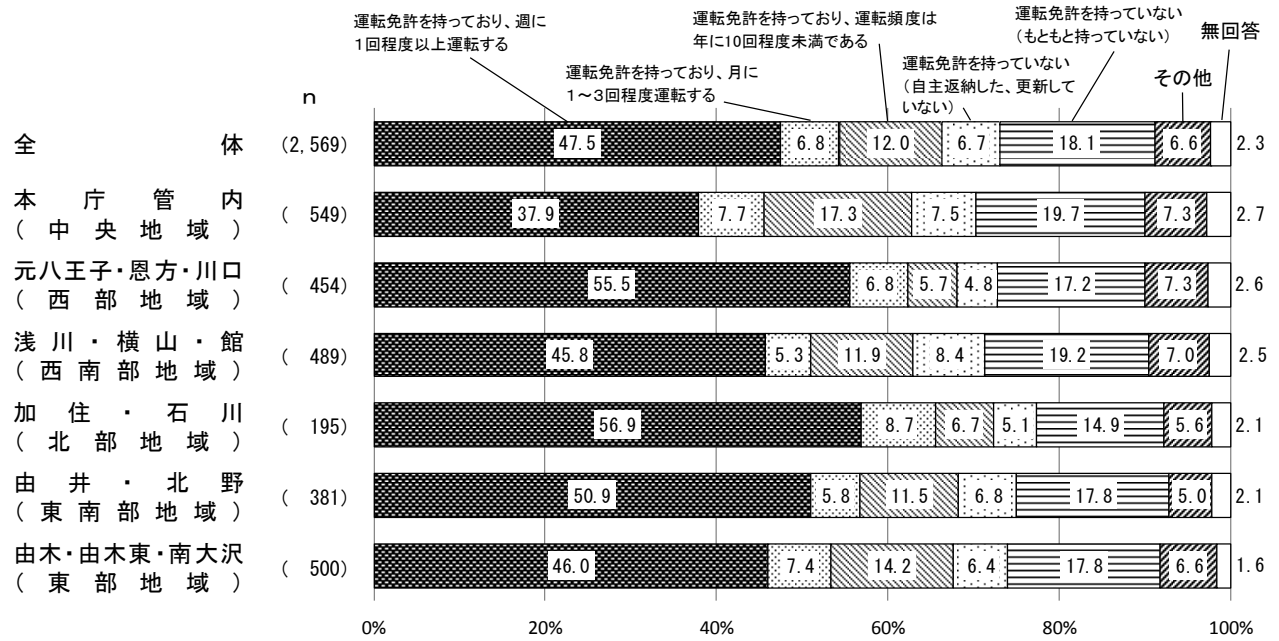
図 3-37-2 運転免許の保有状況と運転頻度－性別、性・年齢別



性別にみると、《運転免許を持っている》で男性（77.0%）が女性（58.6%）より18.4ポイント高くなっている。

性・年齢別にみると、《運転免許を持っている》は男性60～64歳（90.5%）で約9割と多くなっている。中でも「運転免許を持っており、週に1回程度以上運転する」（77.7%）は8割近くと最も多くなっている。一方、《運転免許を持っていない》は女性65歳以上（53.2%）で5割強と多くなっている。（図3-37-2）

図 3-37-3 運転免許の保有状況と運転頻度－居住地地域別



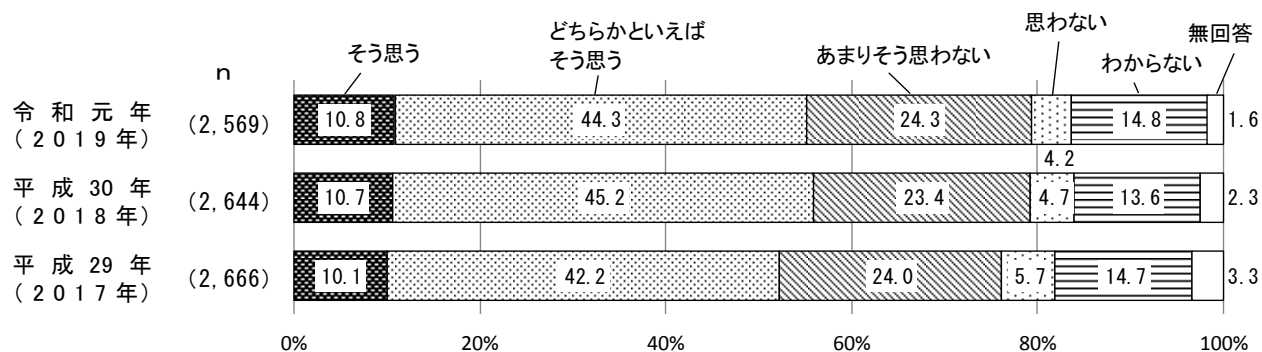
居住地地域別にみると、《運転免許を持っている》は加住・石川（北部地域）（72.3%）と7割強と多くなっており、《運転免許を持っていない》は浅川・横山・館（西南部地域）（27.6%）、本庁管内（中央地域）（27.2%）の両地域で3割近くと多くなっている。（図 3-37-3）

(38) 都市の美観が保持されたまち

◇《《そう思う》》が5割台半ば

問42 本市は、都市の美観が保持されているまちであると思いますか。(○は1つだけ)

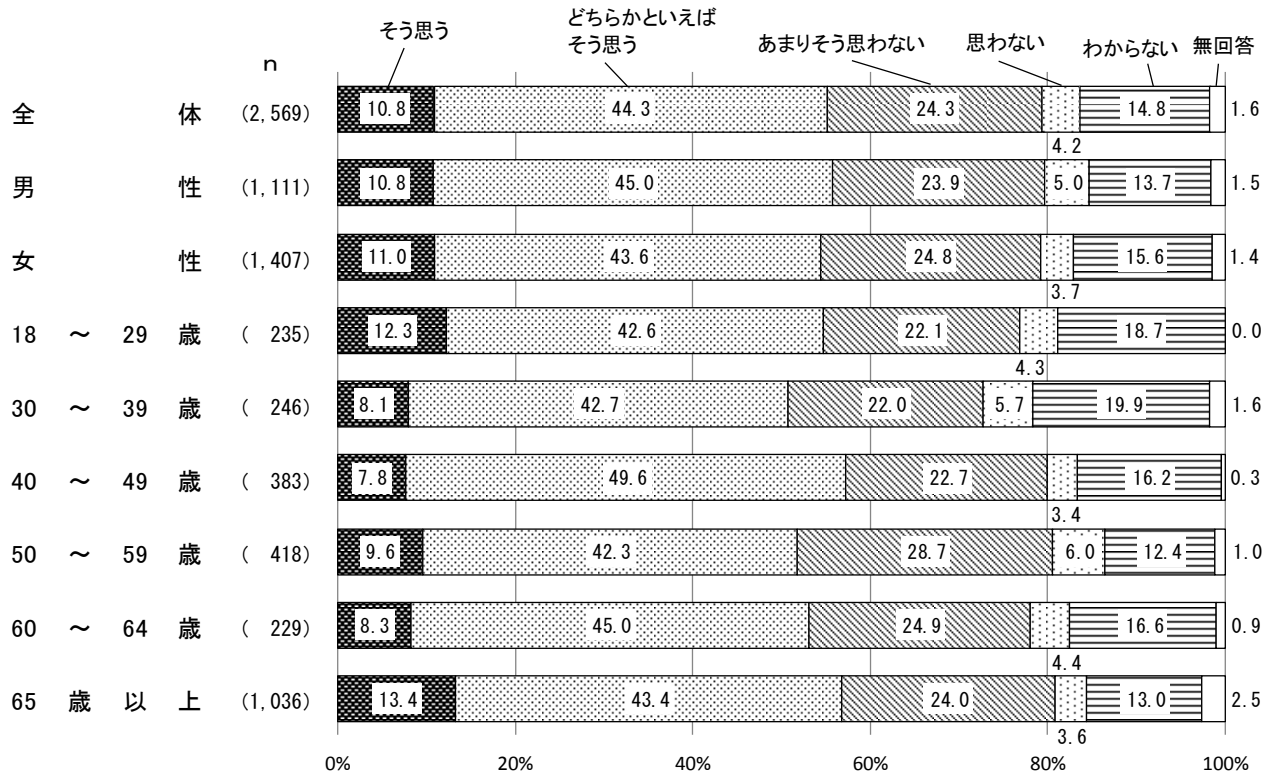
図3-38-1 都市の美観が保持されたまち－全体、経年比較



都市の美観が保持されているまちであると思うか聞いたところ、「そう思う」(10.8%)と「どちらかといえばそう思う」(44.3%)を合わせた《《そう思う》》(55.1%)が5割台半ばとなっている。一方、「あまりそう思わない」(24.3%)と「思わない」(4.2%)を合わせた《《そう思わない》》(28.5%)は3割近くとなっている。

前回までの調査と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。(図3-38-1)

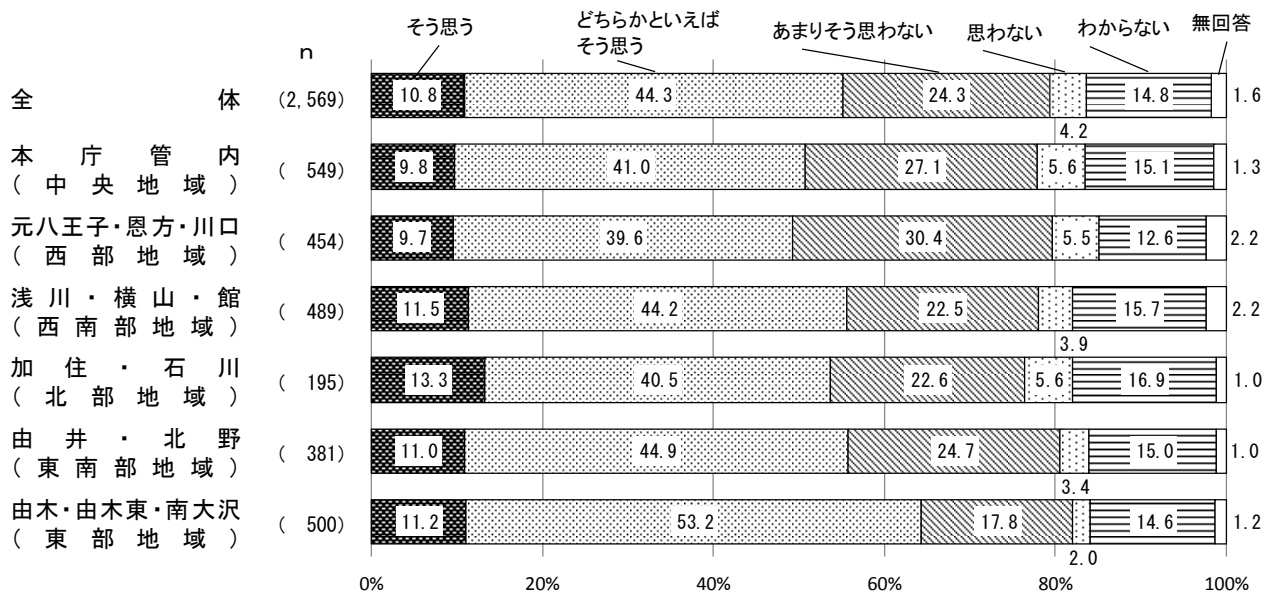
図 3-38-2 都市の美観が保持されたまち－性別、年齢別



性別にみると、大きな傾向の違いはみられない。

年齢別にみると、《そう思う》は40～49歳（57.4%）が6割弱近くで多くなっており、《そう思わない》は50～59歳（34.7%）が3割台半ばで多くなっている。（図 3-38-2）

図 3-38-3 都市の美観が保持されたまち－居住地域別



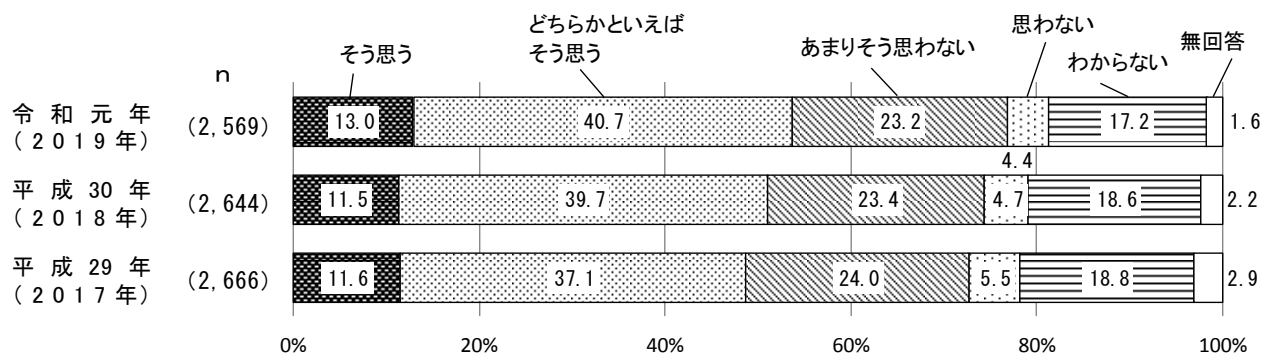
居住地域別にみると、《そう思う》は由木・由木東・南大沢（東部地域）（64.4%）で6割台半ばと多くなっており、《そう思わない》は本庁管内（中央地域）（32.7%）と元八王子・恩方・川口（西部地域）（35.9%）の両地域で3割強～3割台半ばと多くなっている。（図 3-38-3）

(39) 自然、歴史、文化が生かされた景観

◇《《そう思う》》が5割強

問43 あなたは、市の豊かな自然、歴史、文化などが、あなたのお住まいの地域やまちの景観に生かされていると思いますか。(○は1つだけ)

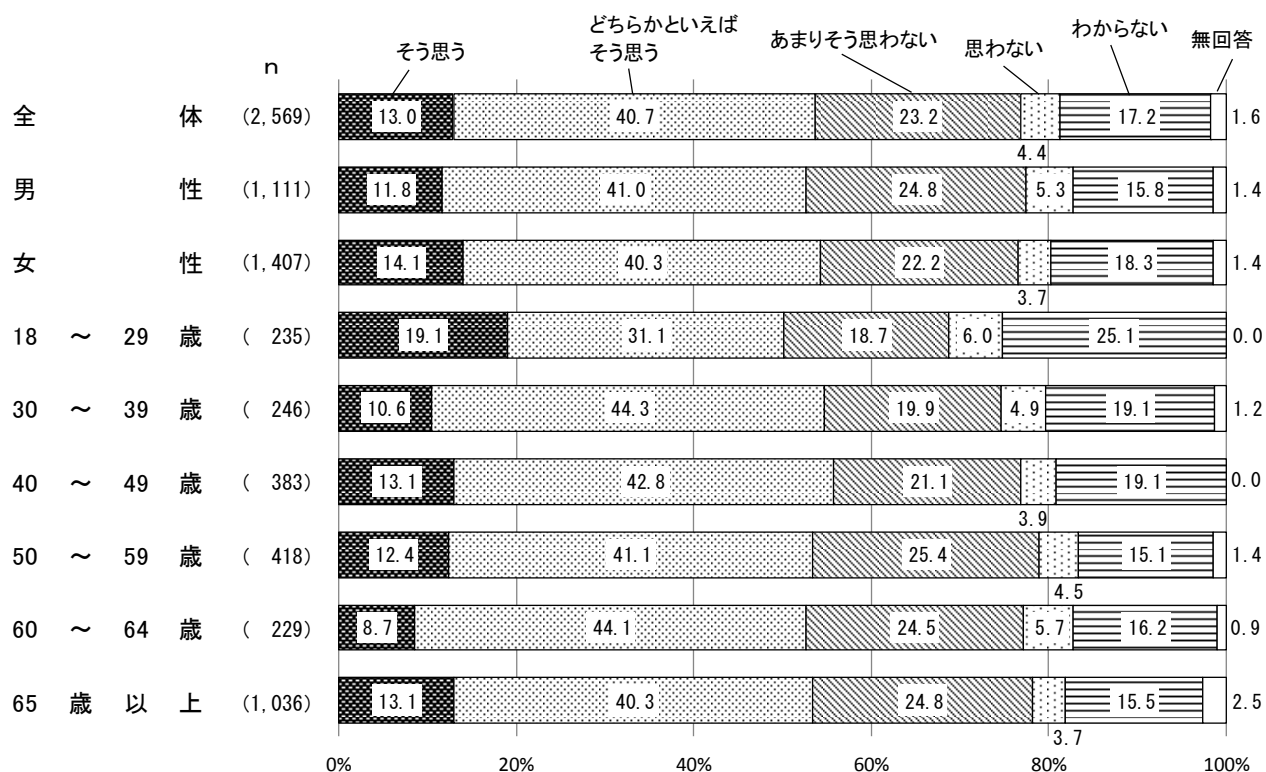
図3-39-1 自然、歴史、文化が生かされた景観－全体、経年比較



市の豊かな自然、歴史、文化などが、あなたのお住まいの地域やまちの景観に生かされていると思うか聞いたところ、「そう思う」(13.0%)と「どちらかといえばそう思う」(40.7%)を合わせた《《そう思う》》(53.7%)が5割強となっている。一方、「あまりそう思わない」(23.2%)と「思わない」(4.4%)を合わせた《《そう思わない》》(27.6%)は3割近くとなっている。

前回までの調査と比較すると、《《そう思う》》は平成30年(2018年)(51.2%)より2.5ポイント増加している。(図3-39-1)

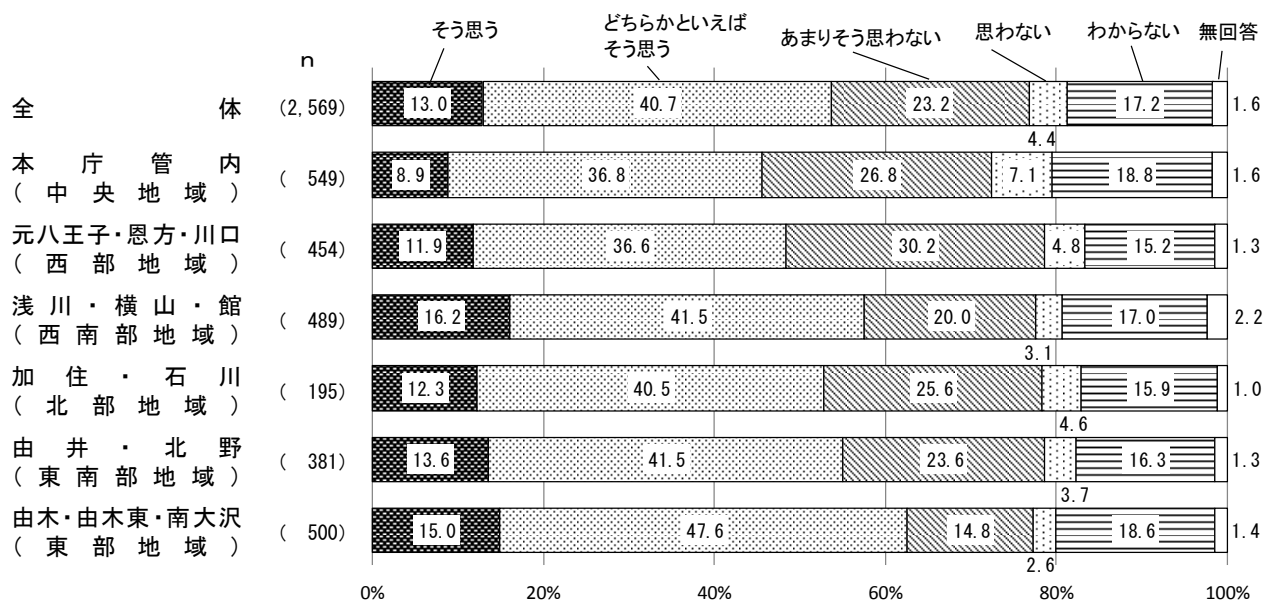
図 3-39-2 自然、歴史、文化が生かされた景観—性別、年齢別



性別にみると、「あまりそう思わない」は男性（30.1%）が女性（25.9%）より4.2ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「そう思う」は30～39歳（54.9%）と40～49歳（55.9%）の両層が5割台半ばで多くなっている。（図 3-39-2）

図 3-39-3 自然、歴史、文化が生かされた景観—居住地域別



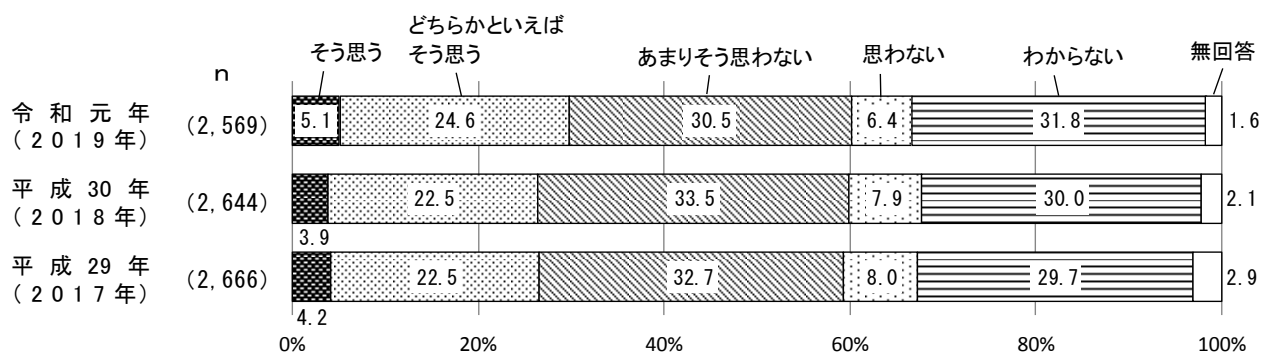
居住地域別にみると、「そう思う」は由木・由木東・南大沢（東部地域）（62.6%）が6割強で多くなっており、「あまりそう思わない」は元八王子・恩方・川口（西部地域）（35.0%）が3割台半ばと多くなっている。（図 3-39-3）

(40) 市内の産業活動

◇《《そう思う》が3割弱

問44 あなたは、商業や観光業、農業、工業など、市内の産業活動が活発に行われていると思いますか。(○は1つだけ)

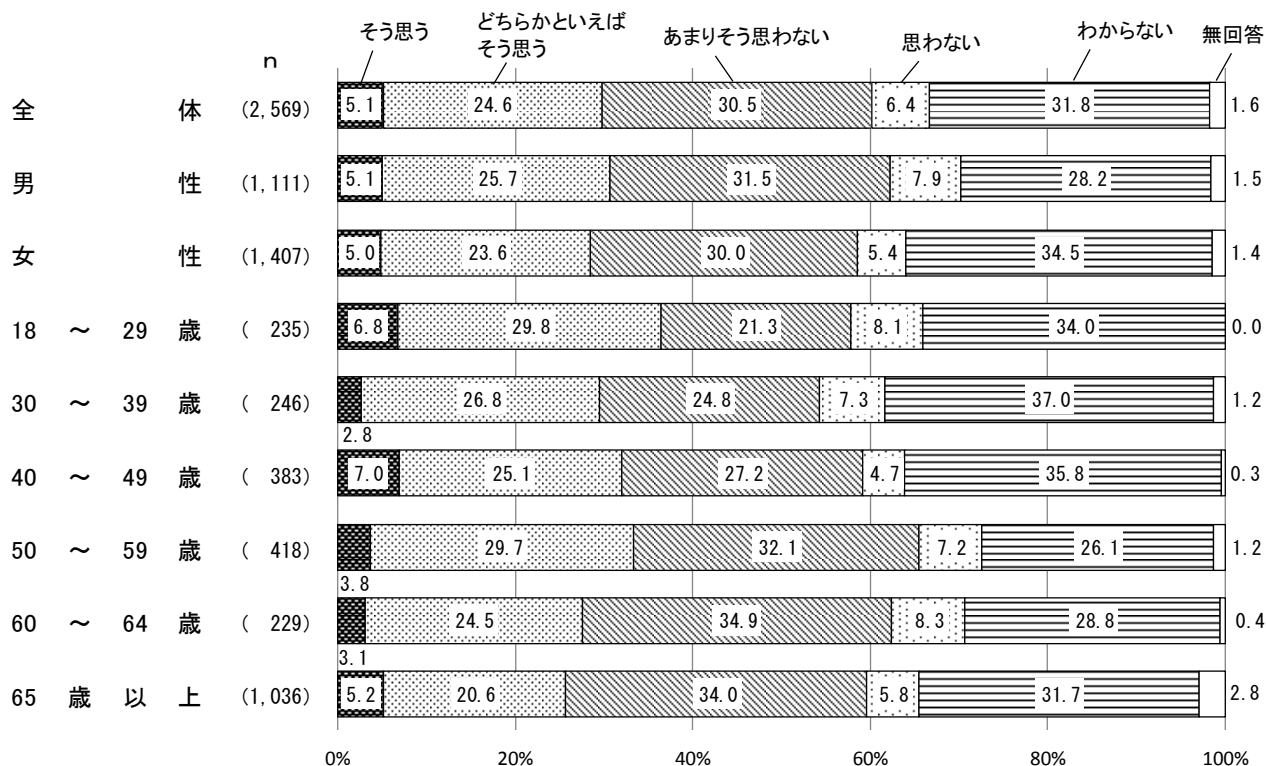
図3-40-1 市内の産業活動－全体、経年比較



商業や観光業、農業、工業など、市内の産業活動が活発に行われていると思うか聞いたところ、「そう思う」(5.1%)と「どちらかといえばそう思う」(24.6%)を合わせた《《そう思う》》(29.7%)が3割弱となっている。一方、「あまりそう思わない」(30.5%)と「思わない」(6.4%)を合わせた《《そう思わない》》(36.9%)は4割近くとなっている。

前回までの調査と比較すると、《《そう思う》》は平成30年(2018年)(26.4%)より3.3ポイント増加している。(図3-40-1)

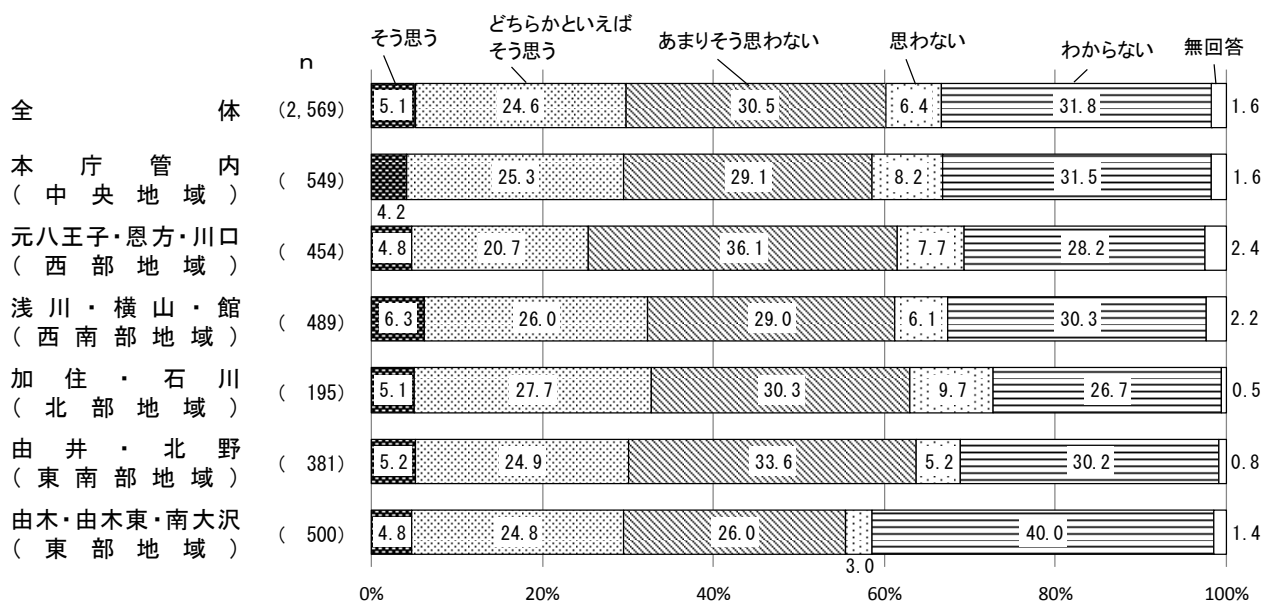
図 3-40-2 市内の産業活動—性別、年齢別



性別にみると、「あまりそう思わない」は男性（39.4%）が女性（35.4%）より4.0ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「そう思う」は18～29歳（36.6%）で4割近くと多く、「あまりそう思わない」は60～64歳（43.2%）で4割強と多くなっている。（図 3-40-2）

図 3-40-3 市内の産業活動—居住地域別



居住地域別にみると、「そう思う」は加住・石川（北部地域）（32.8%）、浅川・横山・館（西南部地域）（32.3%）の両地域で3割強と多くなっている。（図 3-40-3）

(41) 地球環境への配慮

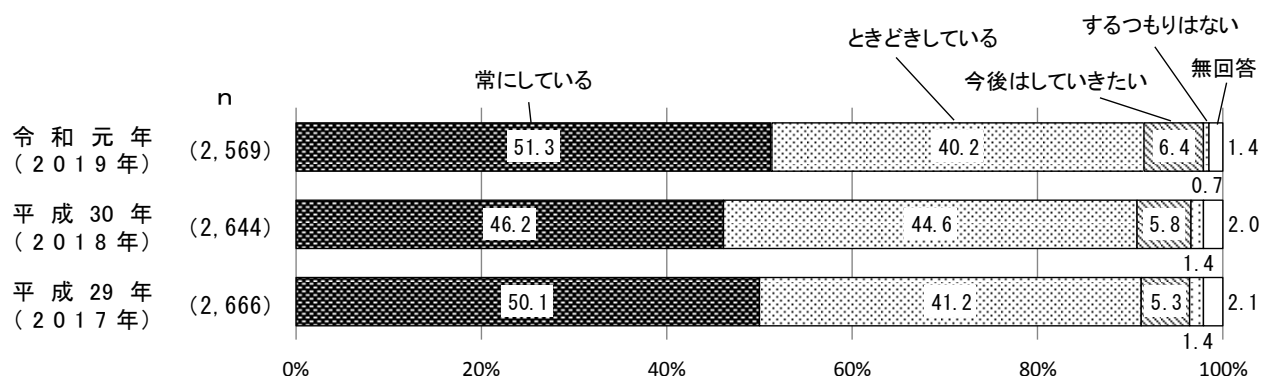
◇「常にしている」が5割強

問45 あなたは、ふだんから省エネ・省資源など、地球環境に配慮した暮らしをしていますか。
(○は1つだけ)

※ふだんの暮らしの中で地球環境のためにできる取り組みとは・・・

- 過度な冷暖房の使用を控える
- マイカーの使用を控える
- 電気をこまめに消す
- 省エネ製品を利用する
- 冷蔵庫の開閉に気を使う
- 買物用のバッグを持参して買い物に行く
- ごみと資源物を分別し、適正に排出する
- など

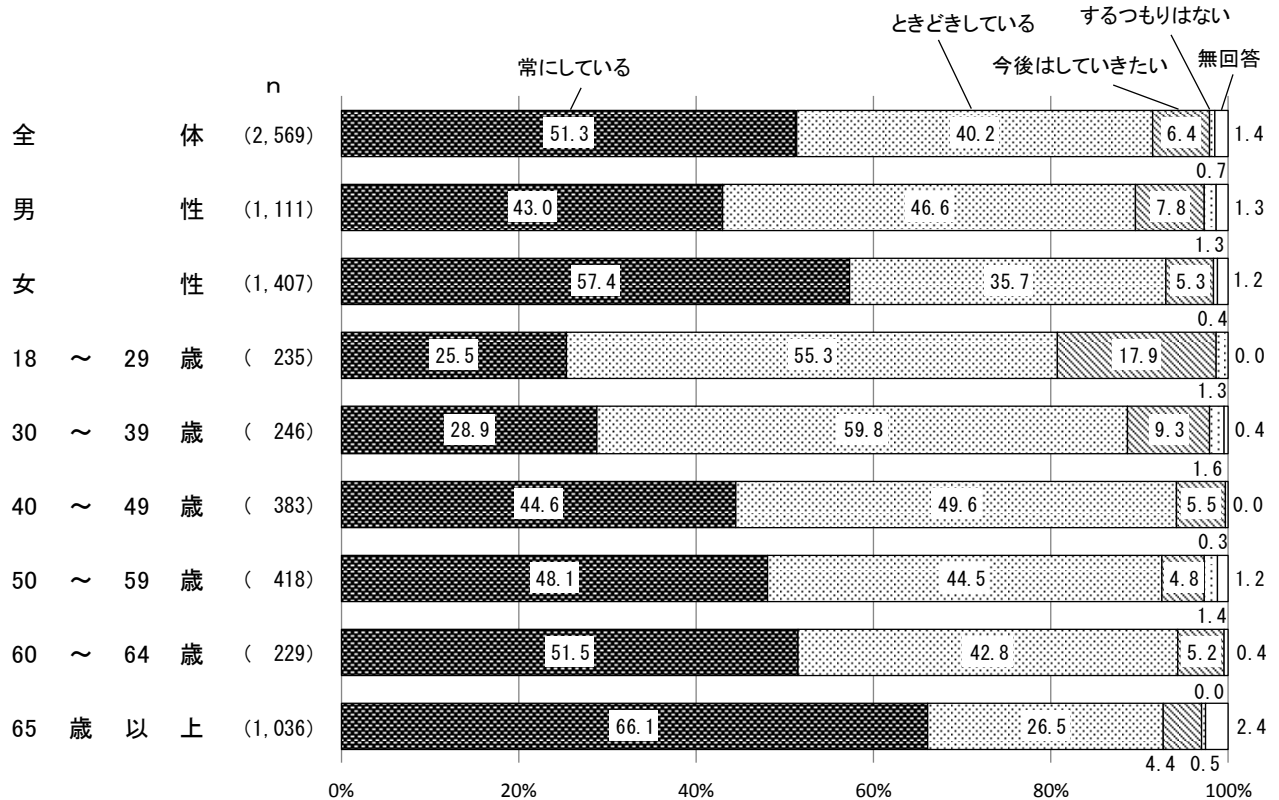
図3-41-1 地球環境への配慮－全体、経年比較



ふだんから省エネ・省資源など、地球環境に配慮した暮らしをしているか聞いたところ、「常にしている」(51.3%)が5割強で最も多く、「ときどきしている」(40.2%)が約4割となっている。

前回までの調査と比較すると、「常にしている」は平成30年(2018年)(46.2%)より5.1ポイント増加し、最近3年間の中で最も高くなっている。(図3-41-1)

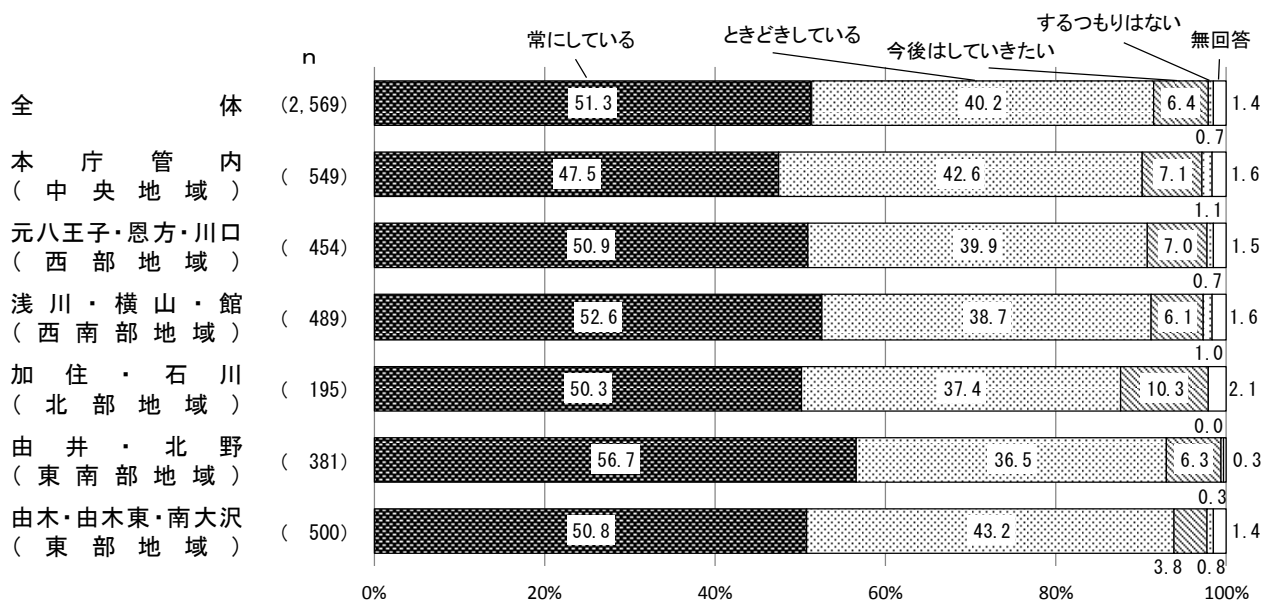
図 3-41-2 地球環境への配慮—性別、年齢別



性別にみると、「常にしている」は女性（57.4%）が男性（43.0%）より14.4ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「常にしている」は年代が高まるにつれて割合も高くなっており、65歳以上（66.1%）で7割近くと多くなっている。「ときどきしている」は40歳代以下で多くなっており、中でも30～39歳（59.8%）で6割弱と最も多くなっている。（図3-41-2）

図 3-41-3 地球環境への配慮—居住地域別



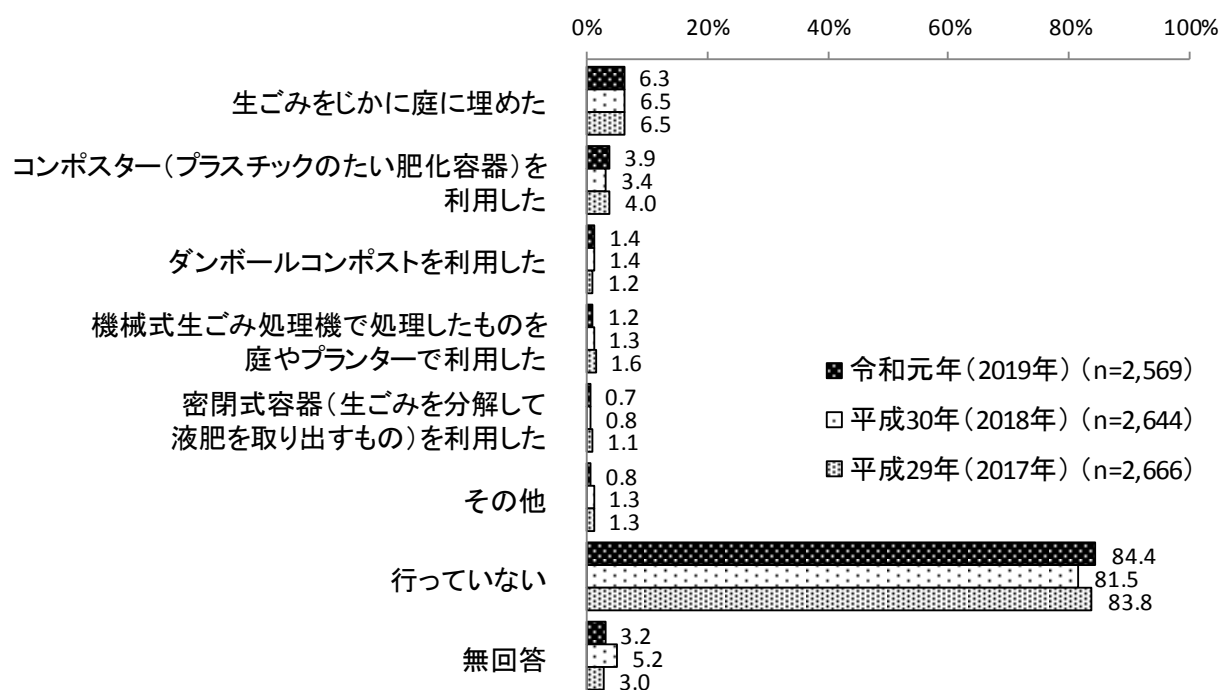
居住地域別にみると、「常にしている」は由井・北野（東南部地域）（56.7%）で6割近くと多くなっている。（図3-41-3）

(42) この１年間に行った生ごみのたい肥化

◇「行っていない」が８割台半ば

問46 あなたの世帯は、この１年間に何らかの方法により生ごみのたい肥化を行いましたか。
(○はいくつでも)

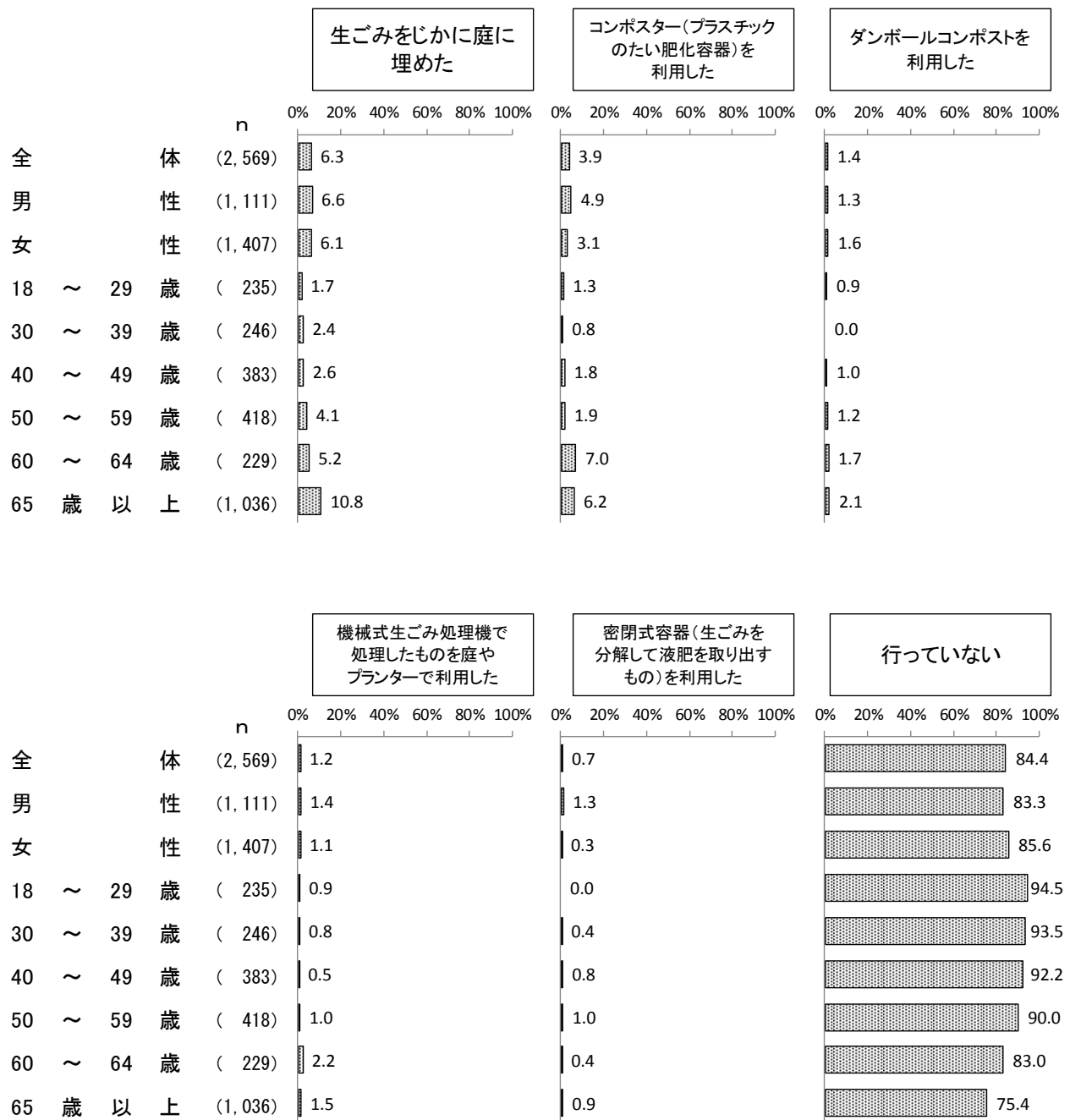
図３－４２－１ この１年間に行った生ごみのたい肥化－全体、経年比較



この１年間に何らかの方法により生ごみのたい肥化を行ったか聞いたところ、「行っていない」(84.4%)が８割台半ばを占めて多い。なお、行った割合が最も高いのは「生ごみをじかに庭に埋めた」(6.3%)で１割近くとなっている。

前回までの調査と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。(図３－４２－１)

図 3-42-2 この 1 年間に行った生ごみのたい肥化－性別、年齢別

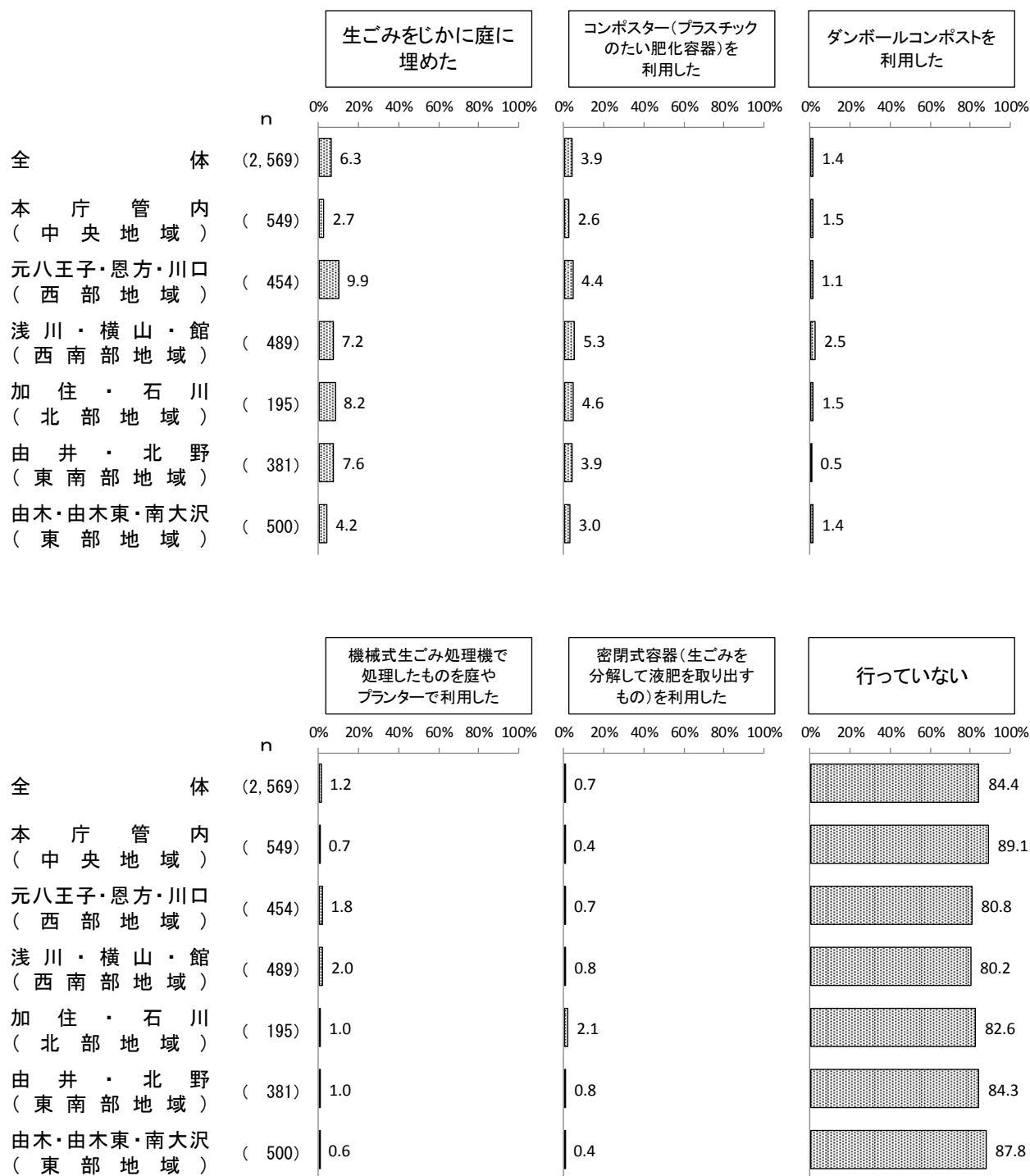


性別にみると、大きな傾向の違いはみられない。

年齢別にみると、生ごみのたい肥化を「行っていない」の割合は50歳代以下で高くなっており、中でも18～29歳（94.5%）と30～39歳（93.5%）と40～49歳（92.2%）の各層で9割強～9割台半ばと多くなっている。一方、65歳以上（75.4%）で7割台半ばと少なくなっている。

（図 3-42-2）

図 3-42-3 この 1 年間に行った生ごみのたい肥化－居住地域別



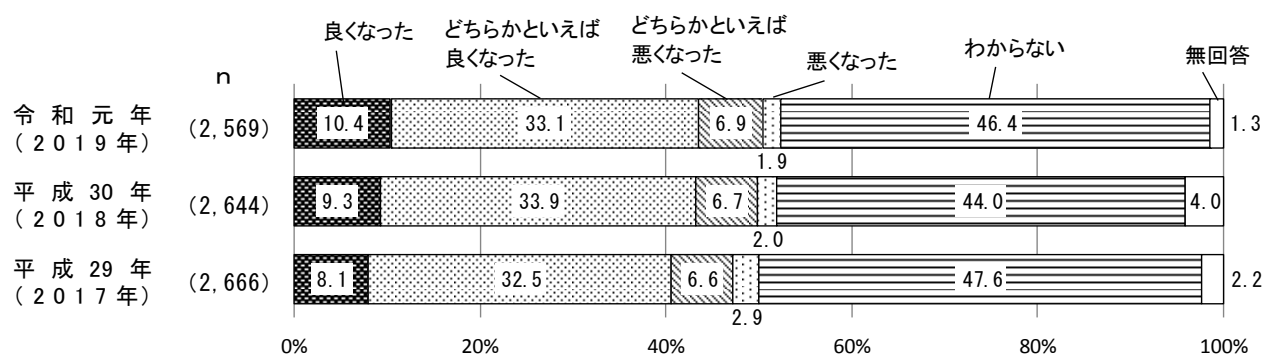
居住地域別にみると、生ごみのたい肥化を「行っていない」は本庁管内（中央地域）（89.1%）が9割弱と多くなっている。（図 3-42-3）

(43) 市の生活環境

◇《良くなった》が4割強

問47 あなたは、市の生活環境（水・みどり・ごみ・大気・騒音・振動など）が以前と比べどうなったと思いますか。（○は1つだけ）

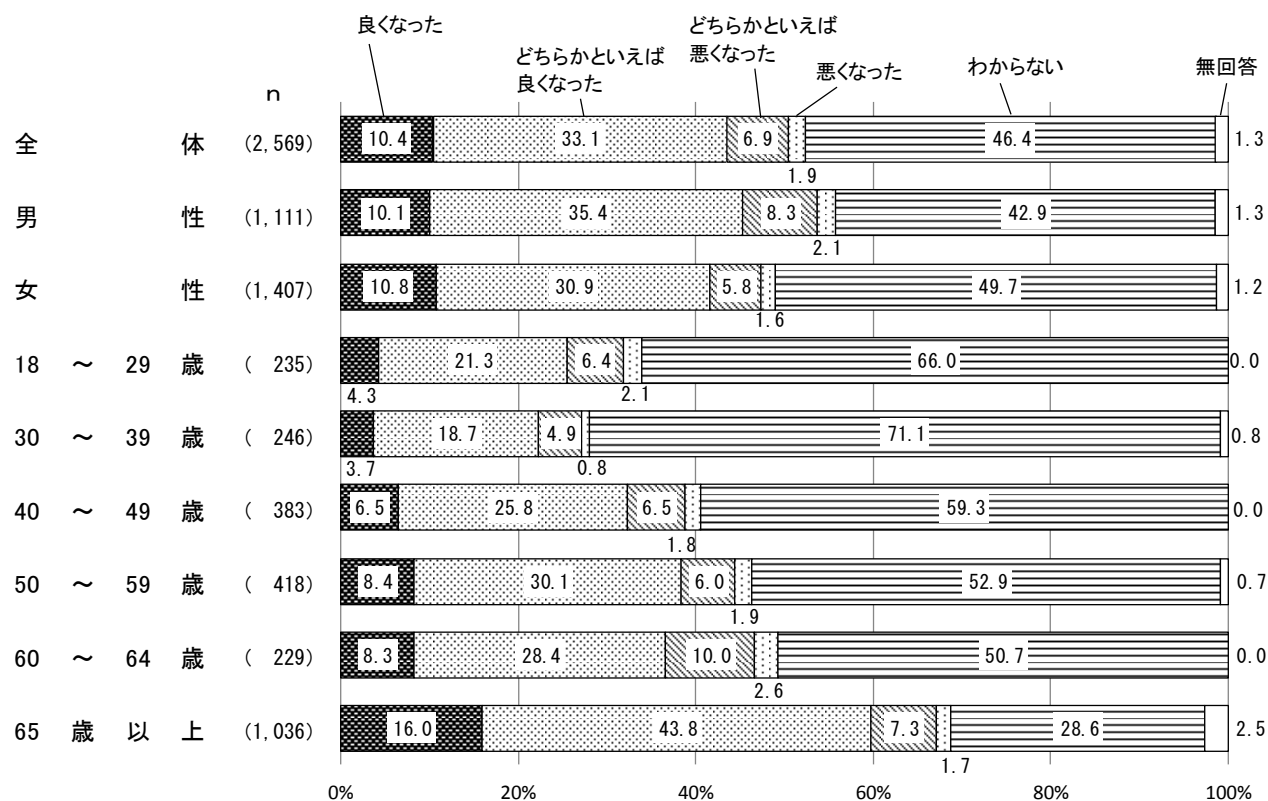
図3-43-1 市の生活環境－全体、経年比較



市の生活環境（水・みどり・ごみ・大気・騒音・振動など）が以前と比べどうなったと思うか聞いたところ、「良くなった」（10.4％）と「どちらかといえば良くなった」（33.1％）を合わせた《良くなった》（43.5％）が4割強となっている。一方、「どちらかといえば悪くなった」（6.9％）と「悪くなった」（1.9％）を合わせた《悪くなった》（8.8％）は1割近くとなっている。

前回までの調査と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。（図3-43-1）

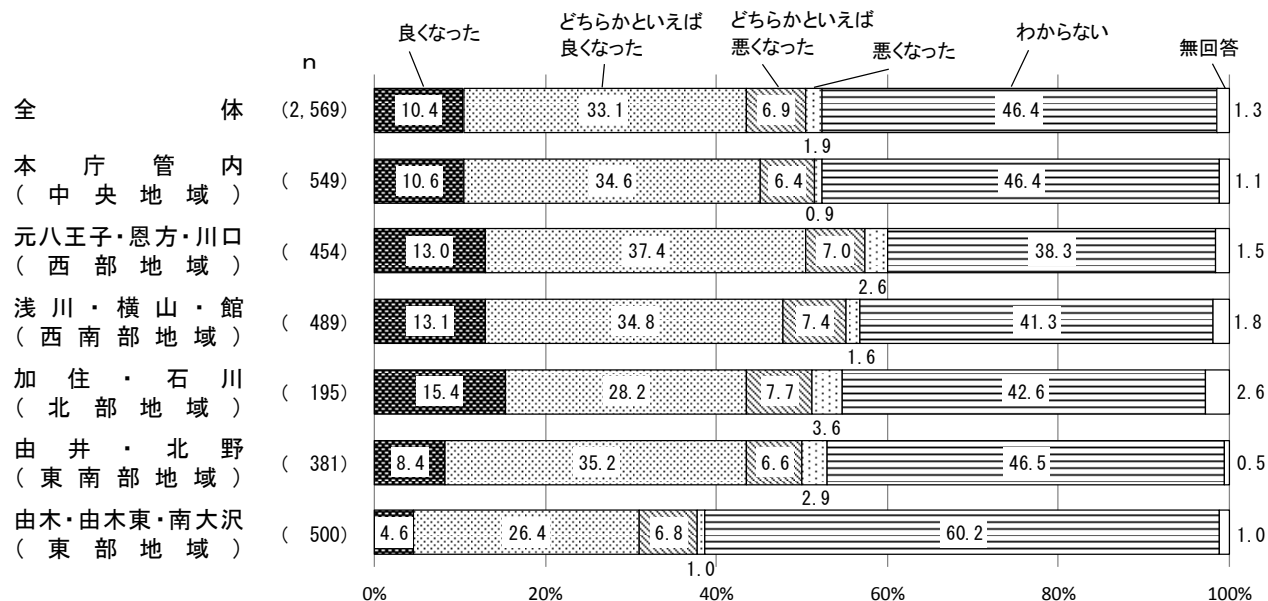
図 3-43-2 市の生活環境—性別、年齢別



性別にみると、《良くなった》は男性（45.5%）が女性（41.7%）より3.8ポイント高くなっている。

年齢別にみると、《良くなった》は65歳以上（59.8%）で6割弱と多くなっている。一方、30～39歳（22.4%）で2割強と少なくなっている。（図3-43-2）

図 3-43-3 市の生活環境—居住地域別



居住地域別にみると、《良くなった》は元八王子・恩方・川口（西部地域）（50.4%）で約5割と多くなっている。一方、由木・由木東・南大沢（東部地域）（31.0%）で3割強と少なくなっている。（図3-43-3）

(44)「生物多様性」の周知度

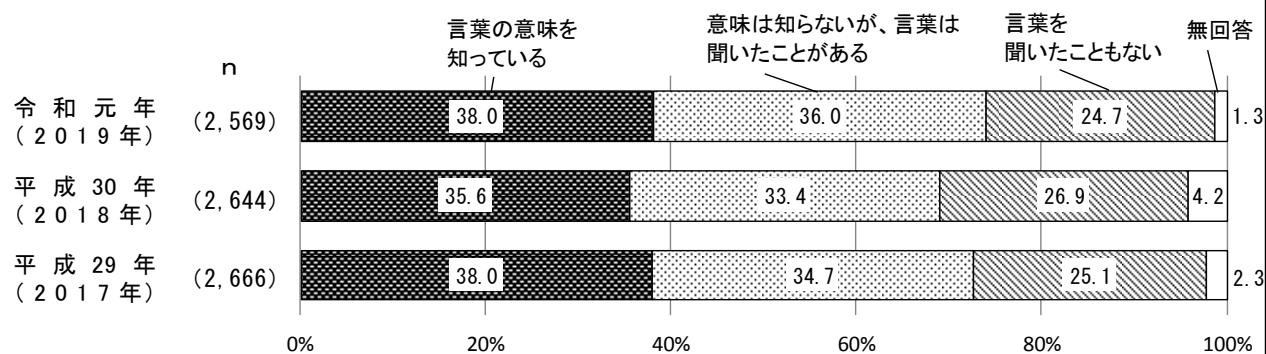
◇「言葉の意味を知っている」が4割近く

問48 あなたは、「生物多様性」という言葉を知っていますか。(○は1つだけ)

※生物多様性とは・・・

動物や植物、昆虫などのいろいろな生きものがいて、それらがつながり合っていることをいいます。この生きものたちのつながりにより地球では豊かな生態系が保たれています。生物多様性は、衣・食・住だけでなく、きれいな水や空気、薬の原料、文化の源泉など、様々な恵みをもたらしてくれます。

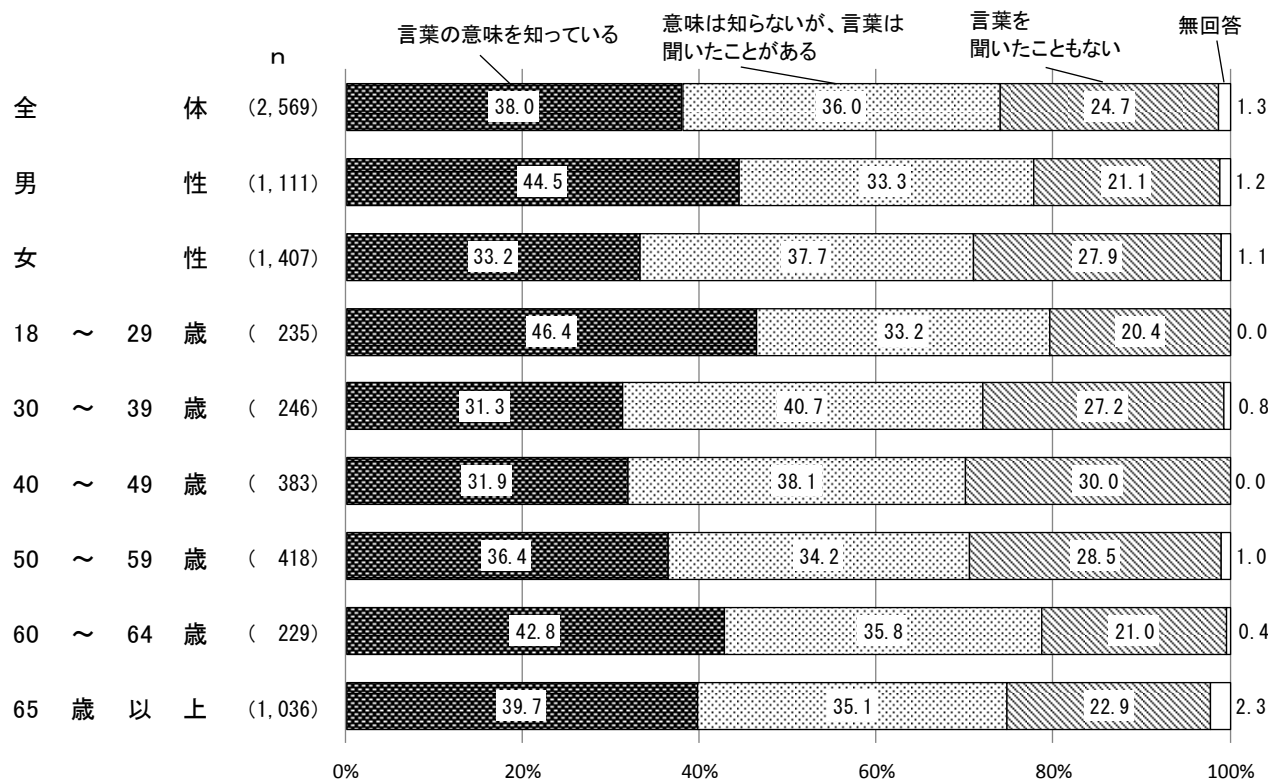
図3-44-1 「生物多様性」の周知度－全体、経年比較



「生物多様性」という言葉を知っているか聞いたところ、「言葉の意味を知っている」(38.0%)と「意味は知らないが、言葉は聞いたことがある」(36.0%)は4割近くで、「言葉を聞いたこともない」(24.7%)が2割台半ばとなっている。

前回までの調査と比較すると、「言葉の意味を知っている」は平成30年(2018年)(35.6%)から2.4ポイント増加している。(図3-44-1)

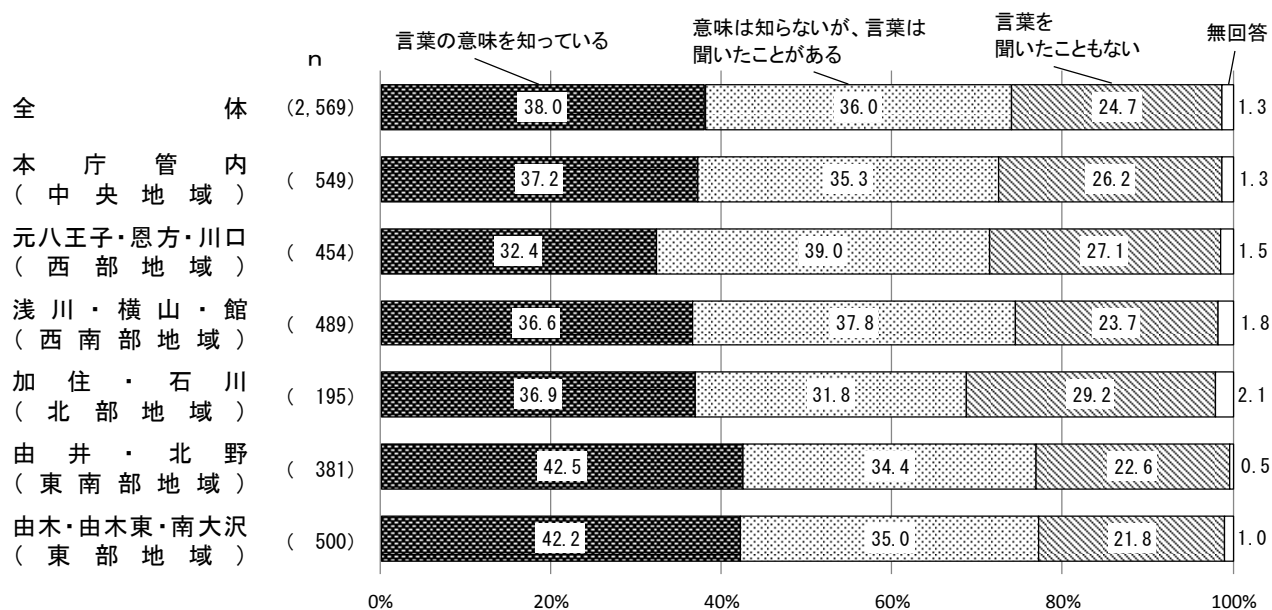
図3-44-2 「生物多様性」の周知度－性別、年齢別



性別にみると、「言葉の意味を知っている」は男性（44.5%）が女性（33.2%）より11.3ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「言葉の意味を知っている」は18～29歳（46.4%）で5割近くと多くなっており、「言葉を聞いたこともない」は40～49歳（30.0%）で3割と多くなっている。（図3-44-2）

図3-44-3 「生物多様性」の周知度－居住地域別



居住地域別にみると、「言葉の意味を知っている」は由井・北野（東南部地域）（42.5%）と由木・由木東・南大沢（東部地域）（42.2%）で4割強と多くなっており、「言葉を聞いたこともない」は加住・石川（北部地域）（29.2%）で3割弱と多くなっている。（図3-44-3）

(45) ワークライフバランスの実現 ①あなたの望む優先度

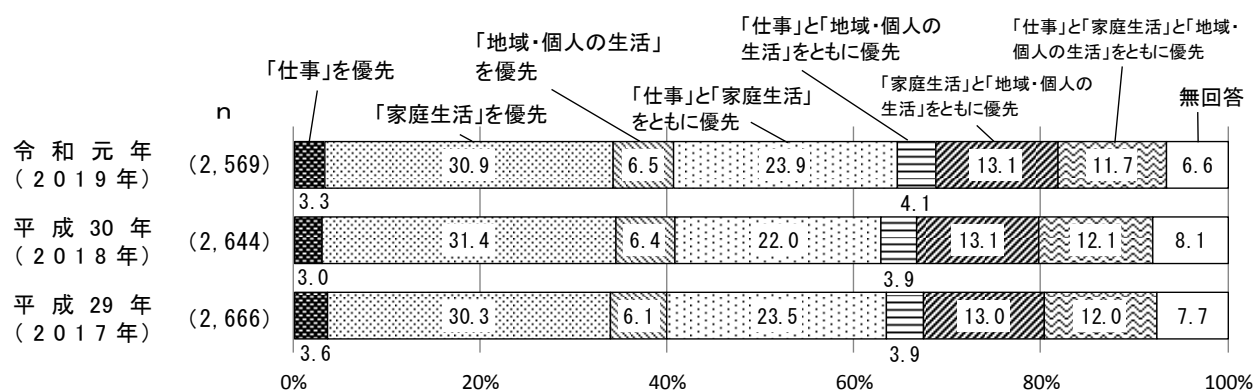
◇希望する優先度は「『家庭生活』を優先」が約3割

問49 仕事と生活の調和（ワークライフバランス）についておたずねします。あなたの生活の中での、「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味等）の優先度について、それぞれあてはまるものに○をつけてください。（○はそれぞれ1つずつ）

※仕事と生活の調和（ワークライフバランス）とは・・・

人それぞれの希望に応じて、「仕事」と、子育てや親の介護、地域活動等の「仕事以外の生活」の調和が図られる状態のことです。望ましいバランスは、人によって異なります。

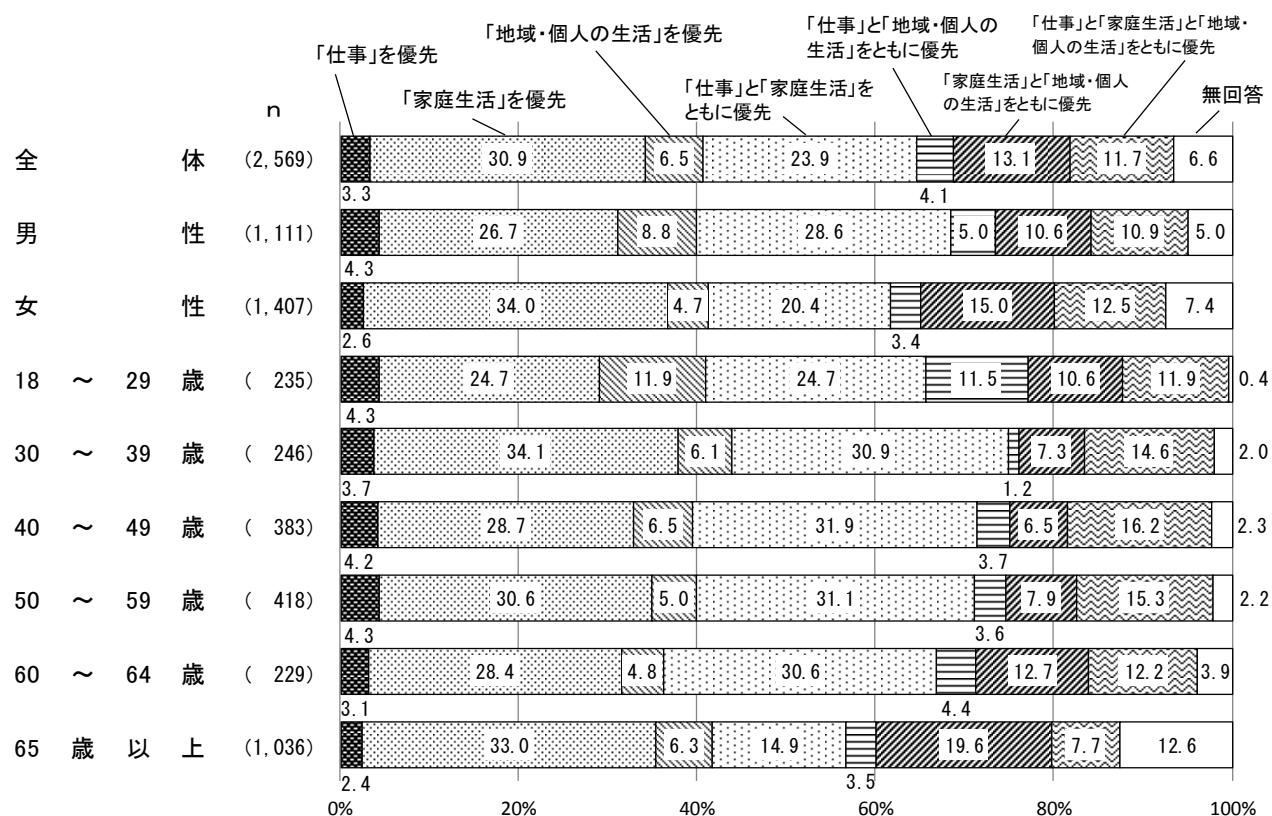
図3-45-1 ワークライフバランスの実現 ①あなたの望む優先度－全体、経年比較



「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味等）の優先度について、希望する優先度を聞いたところ、「『家庭生活』を優先」（30.9%）が最も多く約3割となっている。次いで「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」（23.9%）が2割強で続き、以下「『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先」（13.1%）、「『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先」（11.7%）などの順となっている。

前回までの調査と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。（図3-45-1）

図 3-45-2 ワークライフバランスの実現 ①あなたの望む優先度－性別、年齢別

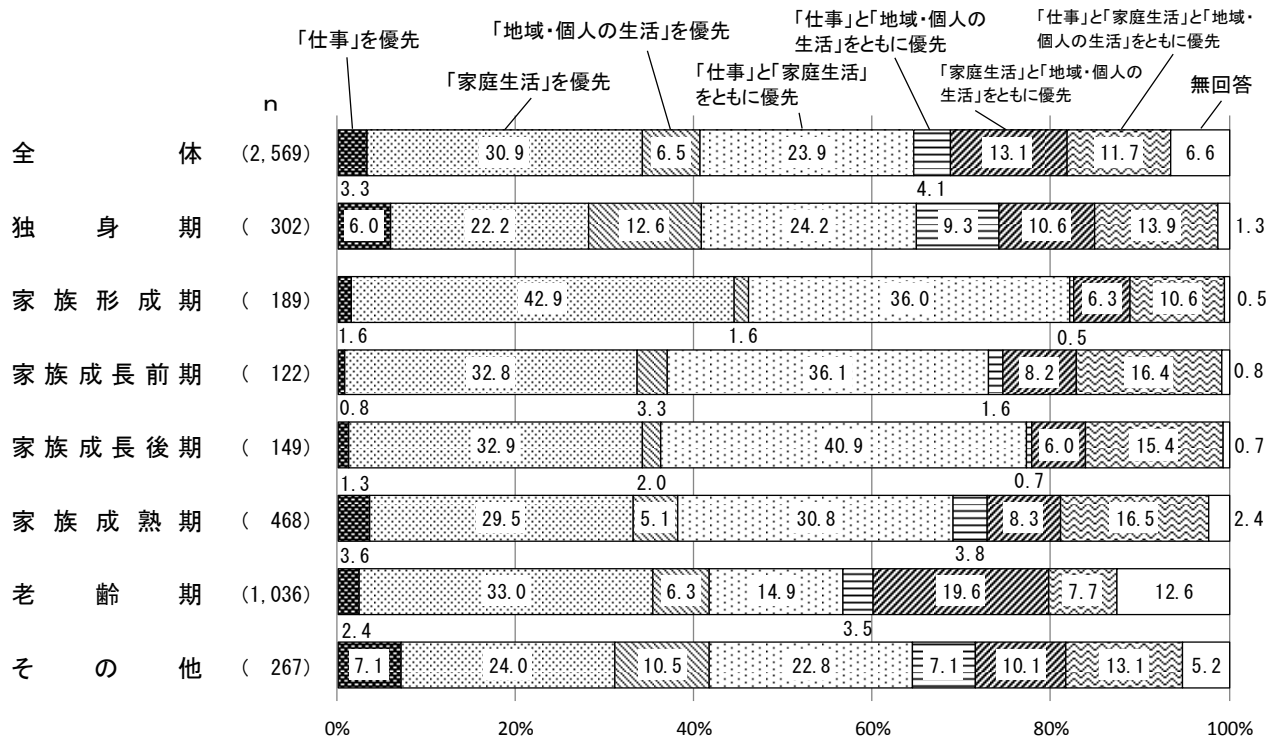


性別にみると、『家庭生活』を優先は女性（34.0%）が男性（26.7%）より7.3ポイント高くなっている。

年齢別にみると、『家庭生活』を優先は30～39歳（34.1%）で3割台半ばと多くっており、『仕事』と『家庭生活』をともに優先は65歳以上（14.9%）で1割台半ばと少なくなっている。

（図 3-45-2）

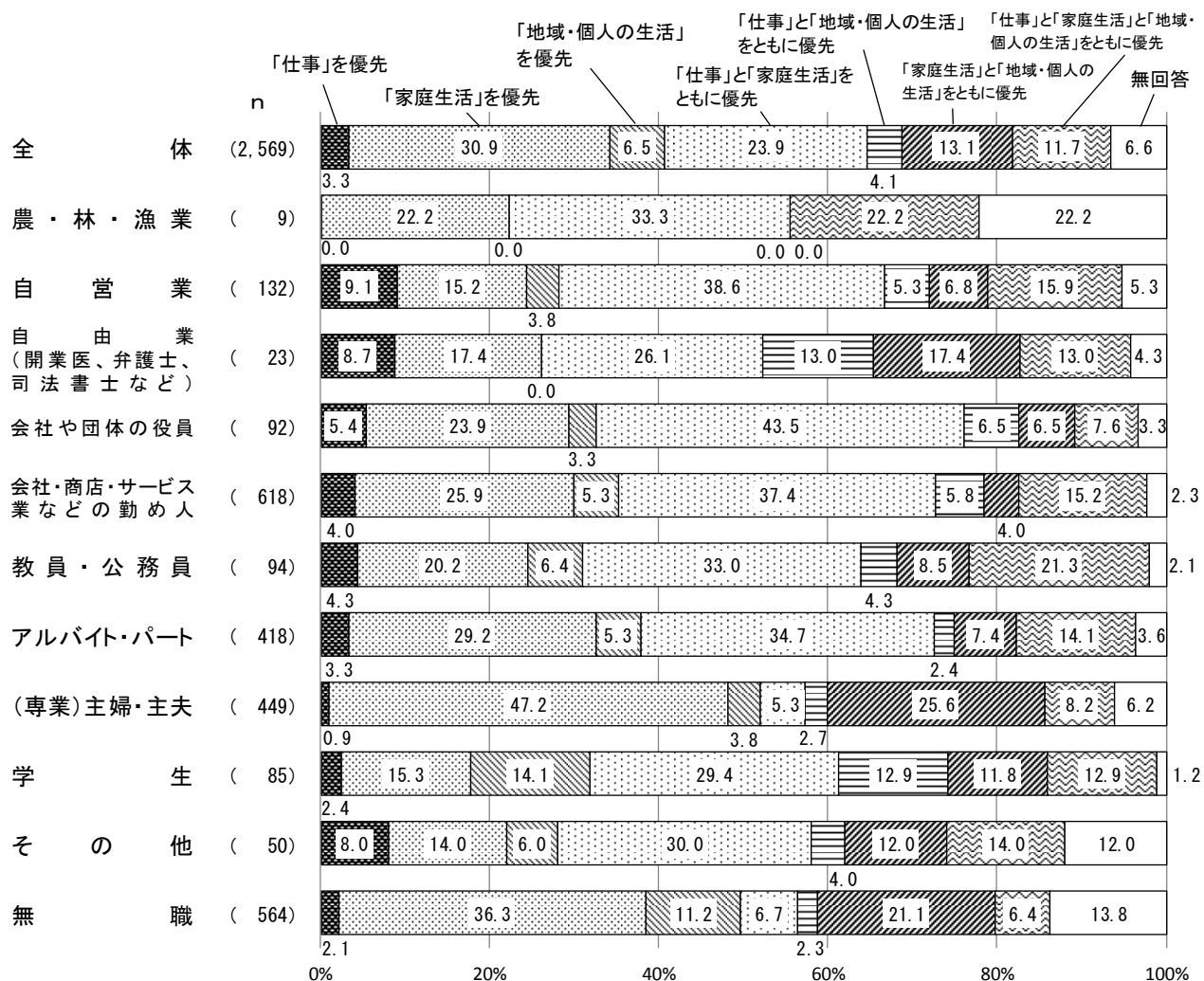
図 3-45-3 ワークライフバランスの実現 ①あなたの望む優先度－ライフステージ別



ライフステージ別にみると、『家庭生活』を優先は家族形成期（42.9%）で4割強と多くなっている。『仕事』と『家庭生活』をともに優先は独身期、老齢期以外の各層で多くっており、中でも家族成長後期（40.9%）で約4割と最も多くなっている。なお、『仕事』と『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先は老齢期（7.7%）が1割近くで最も少なくなっている。

（図 3-45-3）

図 3-45-4 ワークライフバランスの実現 ①あなたの望む優先度－職業別



職業別にみると、『家庭生活』を優先は（専業）主婦・主夫（47.2%）で5割近くと多くなっており、『家庭生活』と『地域・個人の生活』をともに優先も（専業）主婦・主夫（25.6%）で2割台半ばと多くなっている。（図 3-45-4）

(46) ワークライフバランスの実現 ②実際の優先度

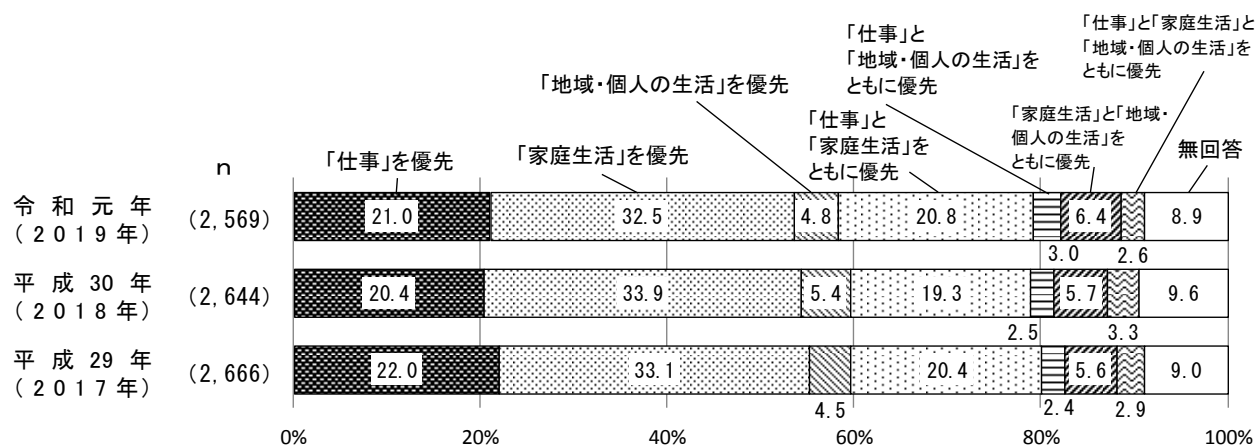
◇実際の優先度は「『家庭生活』を優先」が3割強

問49 仕事と生活の調和（ワークライフバランス）についておたずねします。あなたの生活の中での、「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味等）の優先度について、それぞれあてはまるものに○をつけてください。（○はそれぞれ1つずつ）

※仕事と生活の調和（ワークライフバランス）とは・・・

人それぞれの希望に応じて、「仕事」と、子育てや親の介護、地域活動等の「仕事以外の生活」の調和が図られる状態のことです。望ましいバランスは、人によって異なります。

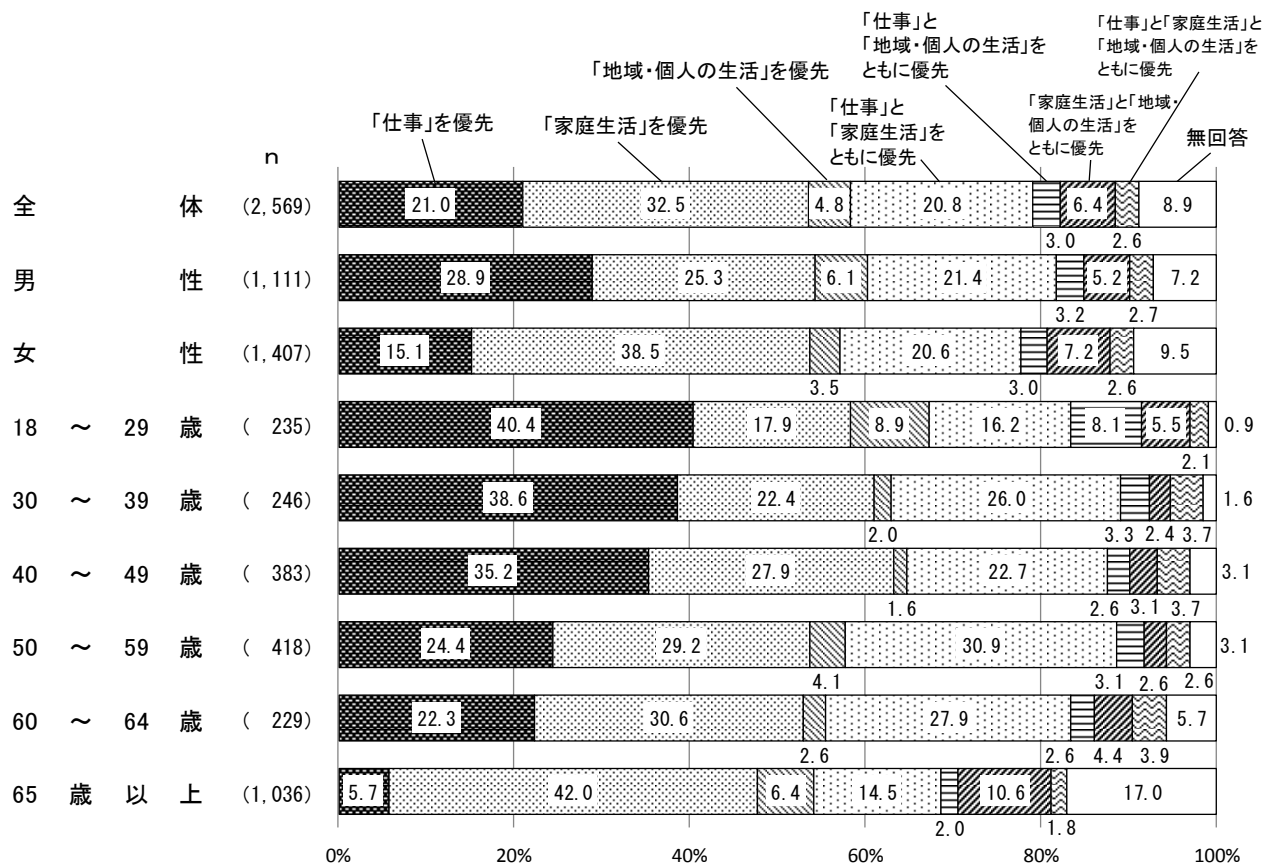
図3-46-1 ワークライフバランスの実現 ②実際の優先度—全体、経年比較



「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味等）の優先度について、実際の優先度を聞いたところ、「『家庭生活』を優先」（32.5%）が最も多く3割強となっている。以下「『仕事』を優先」（21.0%）、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」（20.8%）などの順となっている。

前回までの調査と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。（図3-46-1）

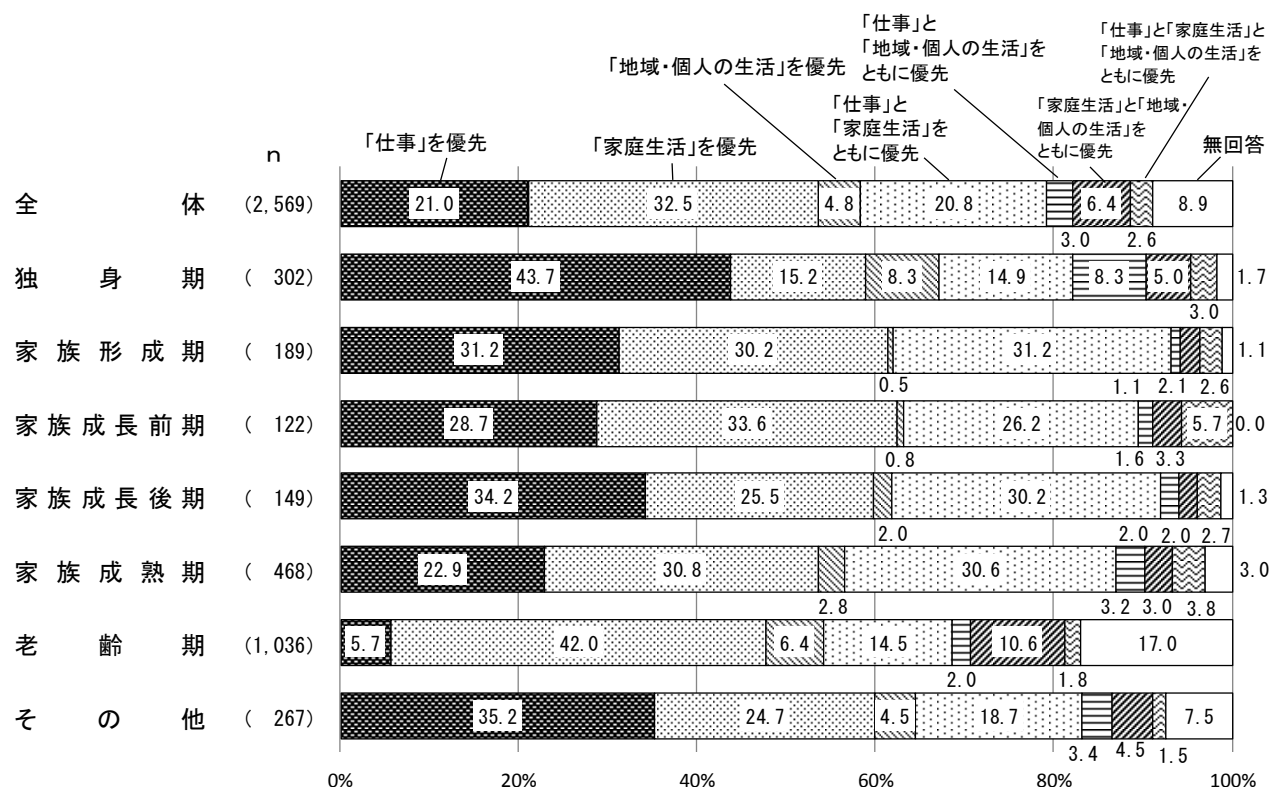
図 3-46-2 ワークライフバランスの実現 ②実際の優先度－性別、年齢別



性別にみると、『仕事』を優先は男性（28.9％）が女性（15.1％）より13.8ポイント高くなっており、『家庭生活』を優先は女性（38.5％）が男性（25.3％）より13.2ポイント高くなっている。

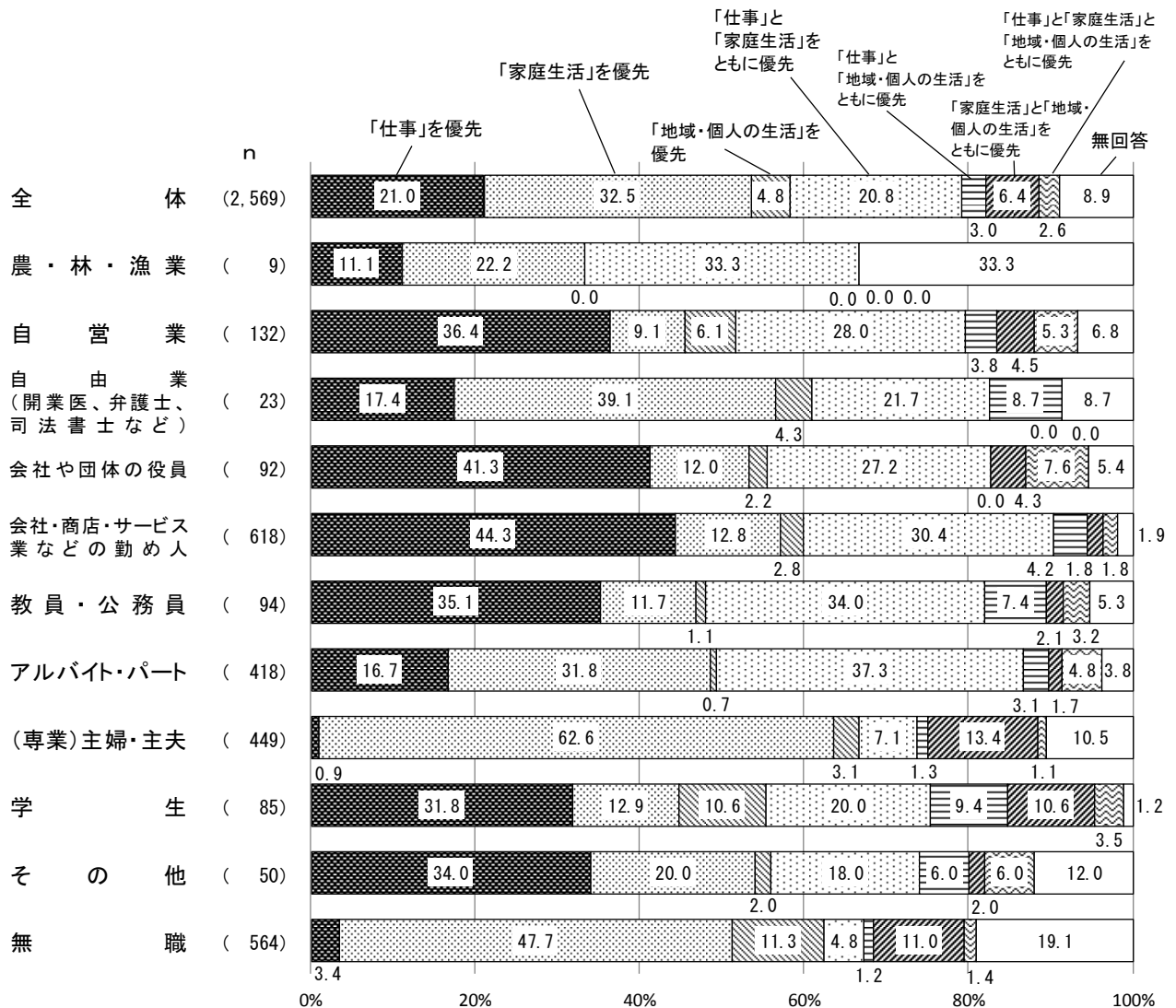
年齢別にみると、『家庭生活』を優先は65歳以上（42.0％）で4割強と多くなっている。『仕事』を優先は40歳代以下が多くなっており、中でも18～29歳（40.4％）で約4割となっている。『仕事』と『家庭生活』をともに優先は50～59歳（30.9％）で約3割と多くなっている。（図3-46-2）

図 3-46-3 ワークライフバランスの実現 ②実際の優先度－ライフステージ別



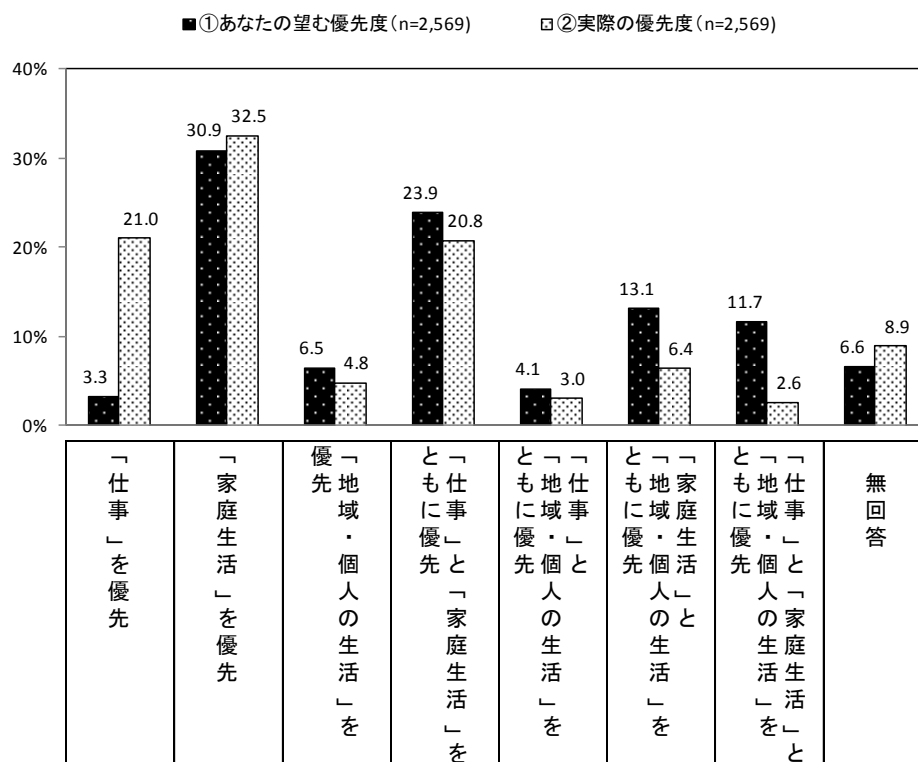
ライフステージ別にみると、『家庭生活』を優先は老齢期（42.0%）で4割強と多くっており、『仕事』を優先は独身期（43.7%）で4割強と多くなっている。『仕事』と『家庭生活』をともに優先は家族形成期～家族成熟期で多くなっており、中でも家族形成期（31.2%）で3割強と多くなっている。（図 3-46-3）

図3-46-4 ワークライフバランスの実現 ②実際の優先度－職業別



職業別にみると、『家庭生活』を優先は(専業)主婦・主夫(62.6%)で6割強と特に多くなっており、『仕事』を優先は会社・商店・サービス業などの勤め人(44.3%)で4割台半ばと最も多くなっている。(図3-46-4)

図 3-46-5 ワークライフバランスの実現 ①あなたの望む優先度と②実際の優先度



「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味等）の優先度における、①希望する優先度と②実際の優先度について比較したところ、『「仕事」を優先』は②実際の優先度（21.0%）が①希望する優先度（3.3%）を17.7ポイント上回って、全7項目の中で最も両者の比率の差が大きくなっている。次いで比率の差の大きい『「仕事」と「家庭生活」をともに優先』は②実際の優先度（2.6%）が①希望する優先度（11.7%）を9.1ポイント下回っている。3番目に比率の差が大きい『「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先』も②実際の優先度（6.4%）が①希望する優先度（13.1%）を6.7ポイント下回っている。

一方、全7項目の中で最も比率の差が小さいのは『「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先』で②実際の優先度（3.0%）と①希望する優先度（4.1%）の比率の差が1.1ポイントとなっている。（図 3-46-5）

図3-46-6 ワークライフバランスの実現 ①あなたの望む優先度-②実際の優先度別

		①あなたの望む優先度								(%)
②実際の優先度		基数 (n)	「仕事」を優先	「家庭生活」を優先	優先「地域・個人の生活」を	「仕事」と「家庭生活」をともに優先	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先	「地域・個人の生活」と「家庭生活」をともに優先	「仕事」と「地域・個人の生活」と「家庭生活」をともに優先	無回答
	全体	2569	3.3	30.9	6.5	23.9	4.1	13.1	11.7	6.6
	「仕事」を優先	540	9.8	22.6	5.4	39.4	6.7	5.0	10.7	0.4
	「家庭生活」を優先	836	1.7	59.9	5.6	9.2	1.4	15.4	5.4	1.3
	「地域・個人の生活」を優先	123	3.3	17.1	43.9	7.3	7.3	15.4	4.9	0.8
	「仕事」と「家庭生活」をともに優先	534	1.3	16.3	2.4	53.2	2.4	3.9	19.3	1.1
	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先	77	2.6	7.8	11.7	10.4	37.7	6.5	20.8	2.6
	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先	164	1.2	9.8	2.4	2.4	0.6	71.3	11.0	1.2
	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先	67	1.5	7.5	4.5	13.4	-	7.5	64.2	1.5
	無回答	228	1.3	15.4	3.5	3.9	2.2	5.7	4.8	63.2

は項目内での最高値

「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味等）の優先度における、①希望する優先度と②実際の優先度の相関をみると、実際に『「仕事」を優先』している人（540名）においては、『「仕事」と『家庭生活』をともに優先』することを希望する人（39.4%）が4割弱で最も多くなっており、『「仕事」を優先』することを希望する人（9.8%）は1割弱となっている。一方、実際の優先度で『「仕事」を優先』以外の項目を回答した人たちにおいては、①希望する優先度と②実際の優先度が一致している人の割合がそれぞれ最も多くなっている。（図3-46-6）

図 3-46-7 ワークライフバランスの実現 ①あなたの望む優先度と②実際の優先度の一致

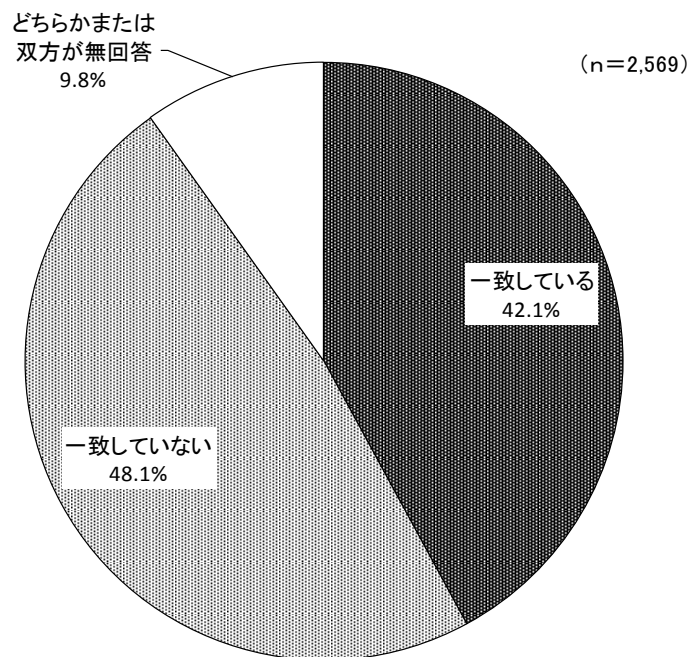


図 3-46-6 に示した、「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味等）の優先度における、①希望する優先度と②実際の優先度の相関をもとに、①希望と②実際の 2 つの回答が一致した人、すなわち①希望する優先度のとおり②実際の優先度が実現できている人の割合（42.1%）は 4 割強となっている。

一方、2 つの回答が一致しない人、すなわち①希望する優先度のとおり②実際の優先度が実現できていない人の割合（48.1%）は 5 割近くとなっている。（図 3-46-7）

(47) 市の相談体制の充実度

◇《《そう思う》が4割近く

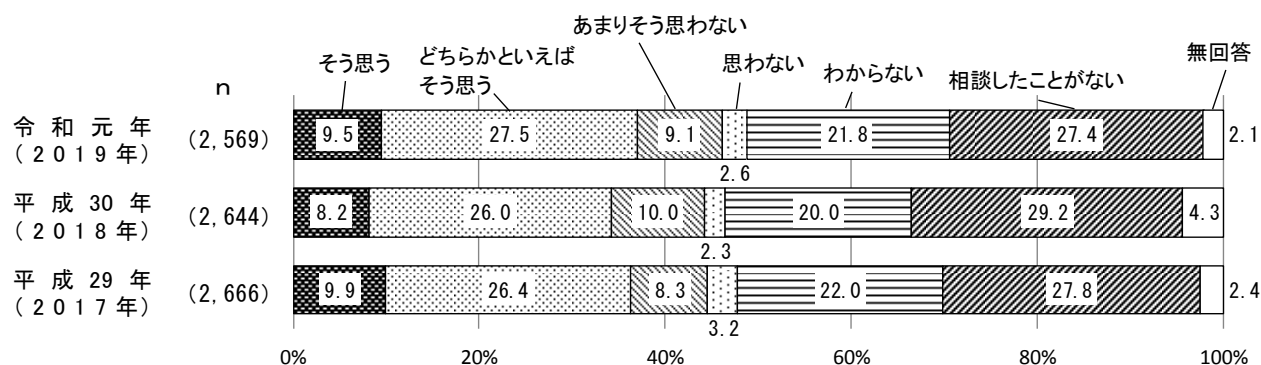
問50 あなたは、市が実施する相談体制は充実していると思いますか。(○は1つだけ)

※市では、専門機関・専門家と連携し、次のような相談を行っています。

- | | |
|------------------------------------|---------------------------------|
| ○人権、女性福祉、女性のための相談 | ○高齢者の福祉と介護、高齢者総合 |
| ○生活にお困りの方の自立相談 | ○専門家による成年後見制度・権利擁護相談 |
| ○法律、司法書士法律、不動産、登記、
相続・遺言等暮らしの手続 | ○ひとり親家庭、子ども家庭総合、
専門家による子育て相談 |
| ○年金・雇用保険・労働条件 | ○総合教育相談、こども電話相談 |
| ○交通事故 ○税金 ○行政 ○消費生活 | ○あなたの心の相談室、こころの健康相談 |
| ○外国人のための生活相談、行政書士相談 | ○H I Vに関する相談・検査 |
| ○地域活動への参加 ○起業 ○就職 | ○保健福祉・栄養・歯科 |
| ○住まいのなんでも相談、
住宅の増改築に関する相談 | ○理学療法士による健康相談 |
| | ○医療に関する電話相談 |
- など

※これらの相談の「日時・会場・問い合わせ先」については、広報はちおうじの「相談まどぐち」（毎月1日号に掲載）や、市ホームページをご覧ください。

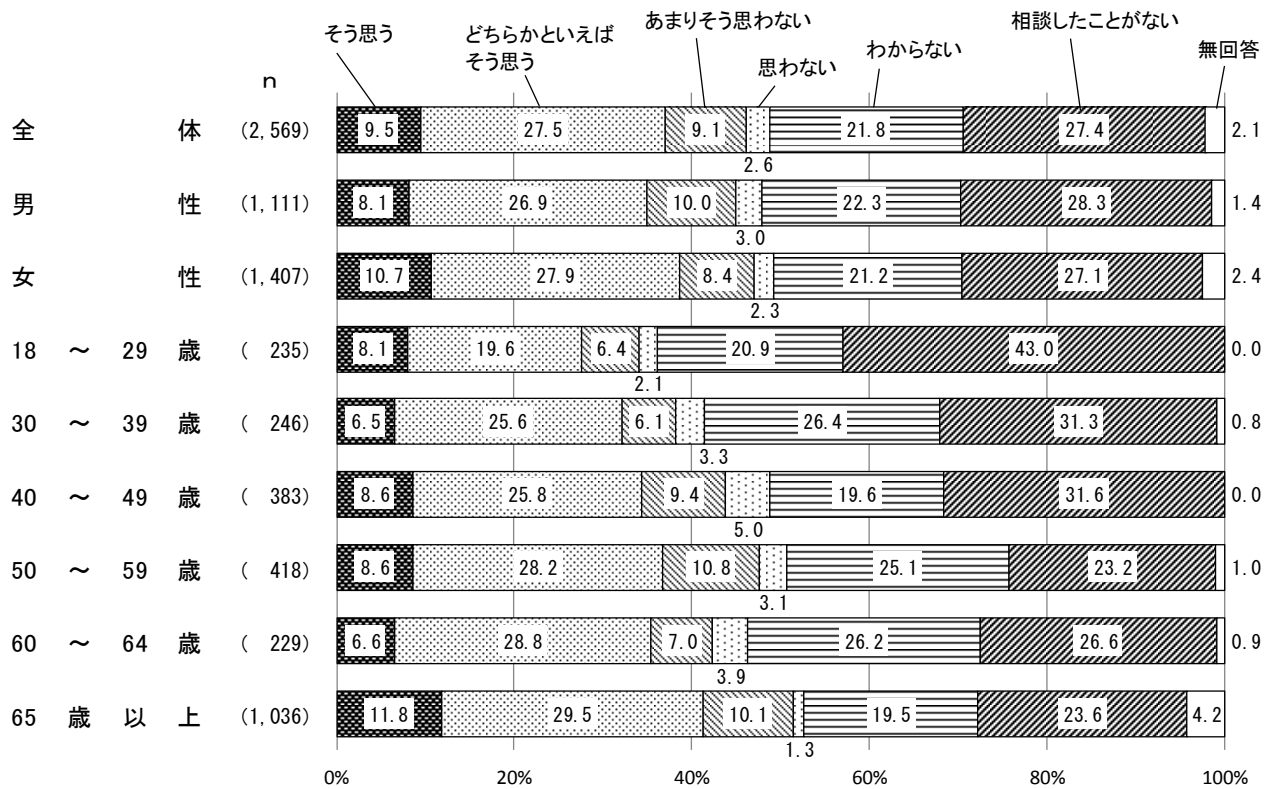
図3-47-1 市の相談体制の充実度—全体、経年比較



市が実施する相談体制は充実していると思うか聞いたところ、「そう思う」(9.5%)と「どちらかといえばそう思う」(27.5%)を合わせた《《そう思う》》(37.0%)は4割近くとなっている。一方、「あまりそう思わない」(9.1%)と「思わない」(2.6%)を合わせた《《そう思わない》》(11.7%)は1割強となっている。なお、「相談したことがない」(27.4%)は3割近くとなっている。

前回までの調査と比較すると、《《そう思う》》は平成30年(2018年)(34.2%)より2.8ポイント増加している。(図3-47-1)

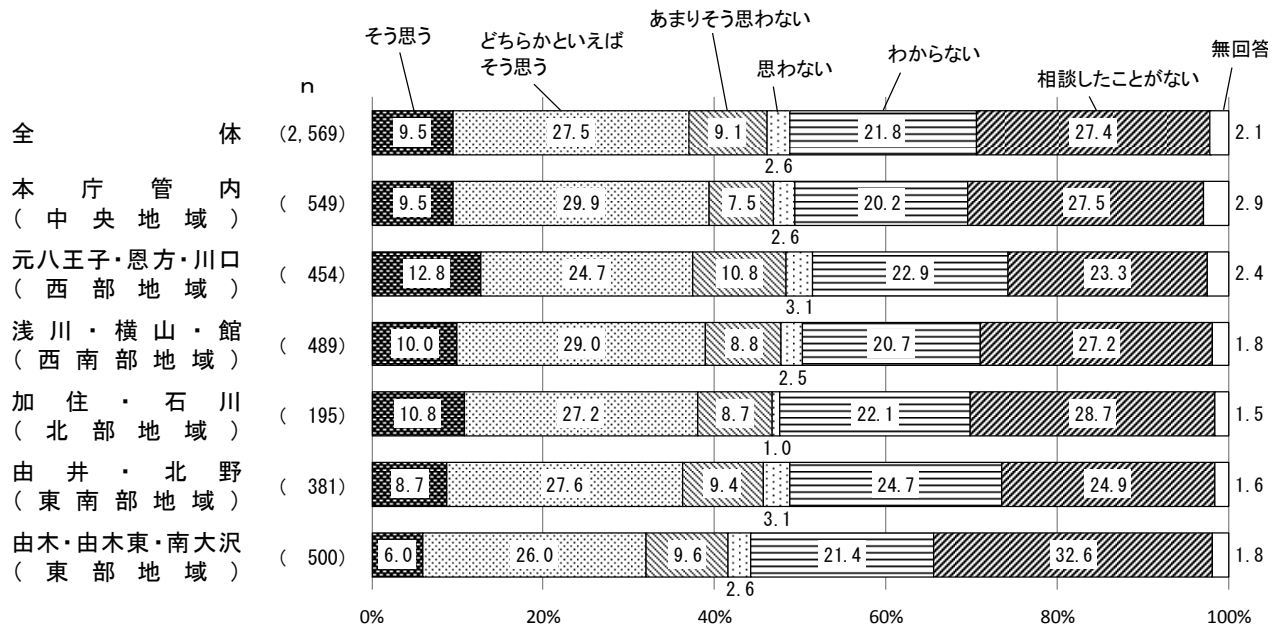
図 3-47-2 市の相談体制の充実度－性別、年齢別



性別にみると、《そう思う》は女性（38.6％）が男性（35.0％）より3.6ポイント高くなっている。

年齢別にみると、《そう思う》は65歳以上（41.3％）で4割強と多くなっている。一方、《そう思わない》は40～49歳（14.4％）が1割台半ばと多くなっており、「相談したことがない」は18～29歳（43.0％）で4割強と多くなっている。（図 3-47-2）

図 3-47-3 市の相談体制の充実度－居住地地域別



居住地地域別にみると、《そう思う》は本庁管内（中央地域）（39.4%）と浅川・横山・館（西南部地域）（39.0%）で4割弱と多くなっている。（図 3-47-3）

(48) 行財政運営

◇《評価する》が5割強

問51 市は、下欄のような取り組みにより、効果・効率的な行政運営を図ることで、健全な財政運営の維持に努めています。

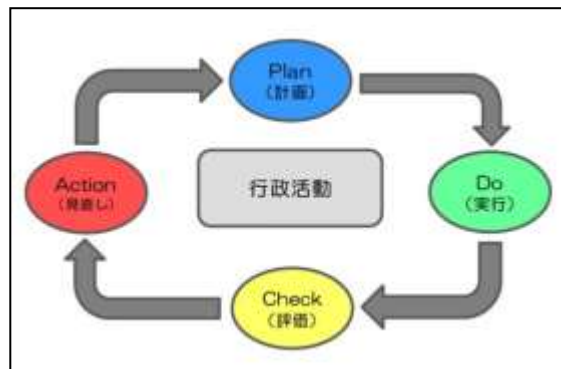
このような市の取り組みに対するあなたの評価をお選びください。(○は1つだけ)

(1) 計画行政の推進

○市の基本構想・基本計画である「八王子ビジョン2022」に掲げた49の施策の実現に向け、向こう3か年に実施する主な事業を示した「アクションプラン(実施計画)」を毎年策定し、計画的な行政運営を行っています。

○安定的・継続的な市民サービスを提供するために、計画・実行・評価・見直しのPDCAサイクルによる行政運営をしています。

PDCAサイクル

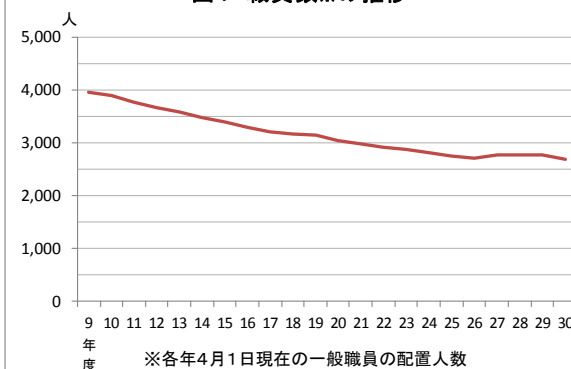


(2) 行政運営の効果・効率性を高める取り組み

○公共施設の管理・運営などにおいて、市が実施するよりも効果・効率的で質の高いサービスを提供できるものについては、民間事業者のノウハウを積極的に活用しています。

○職員が担うべき役割を明確化し適正な定員管理を行うことにより、平成9年度(1997年度)の3,950人をピークに職員数は減少し、平成30年度(2018年度)には、2,690人になりました。(図1)

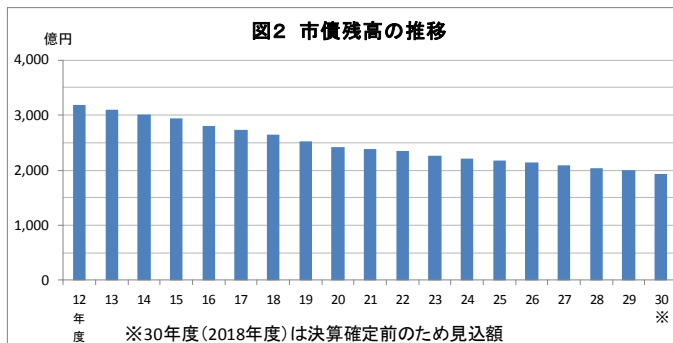
図1 職員数※の推移



(3) 健全な財政運営

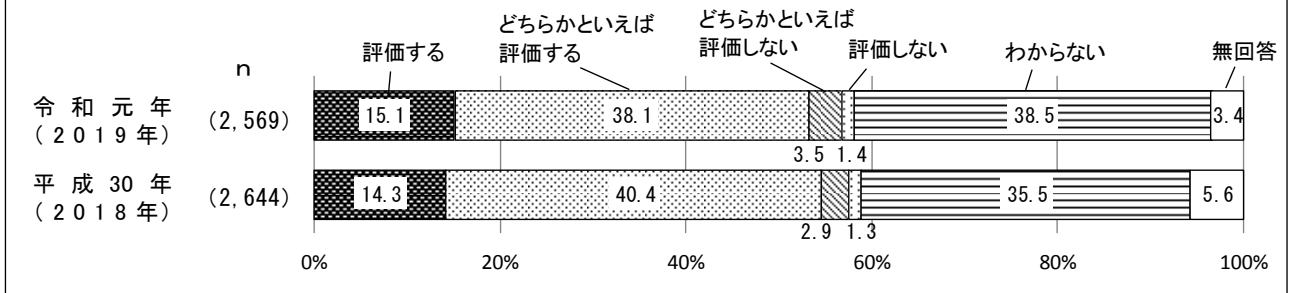
○市の借金である市債の残高をピーク時の約3,184億円(平成12年度(2000年度)末)から約1,940億円(平成30年度(2018年度)末決算見込)に削減し(図2)、市の貯金である基金の残高は、約112億円(平成12年度(2000年度)末)から約253億円(平成30年度(2018年度)末決算見込)に増やしました。

図2 市債残高の推移



○市の支出のうち、児童福祉や障害者福祉など社会保障制度に基づき支出する「扶助費」が継続して増加する中、「人件費」(職員給与など)や「公債費」(市の借金返済に要する経費)などを内部努力で抑制することで、適切な市民サービスを維持するとともに、防災の備えや子どもとその家庭への支援など、喫緊の課題への対応を図っています。

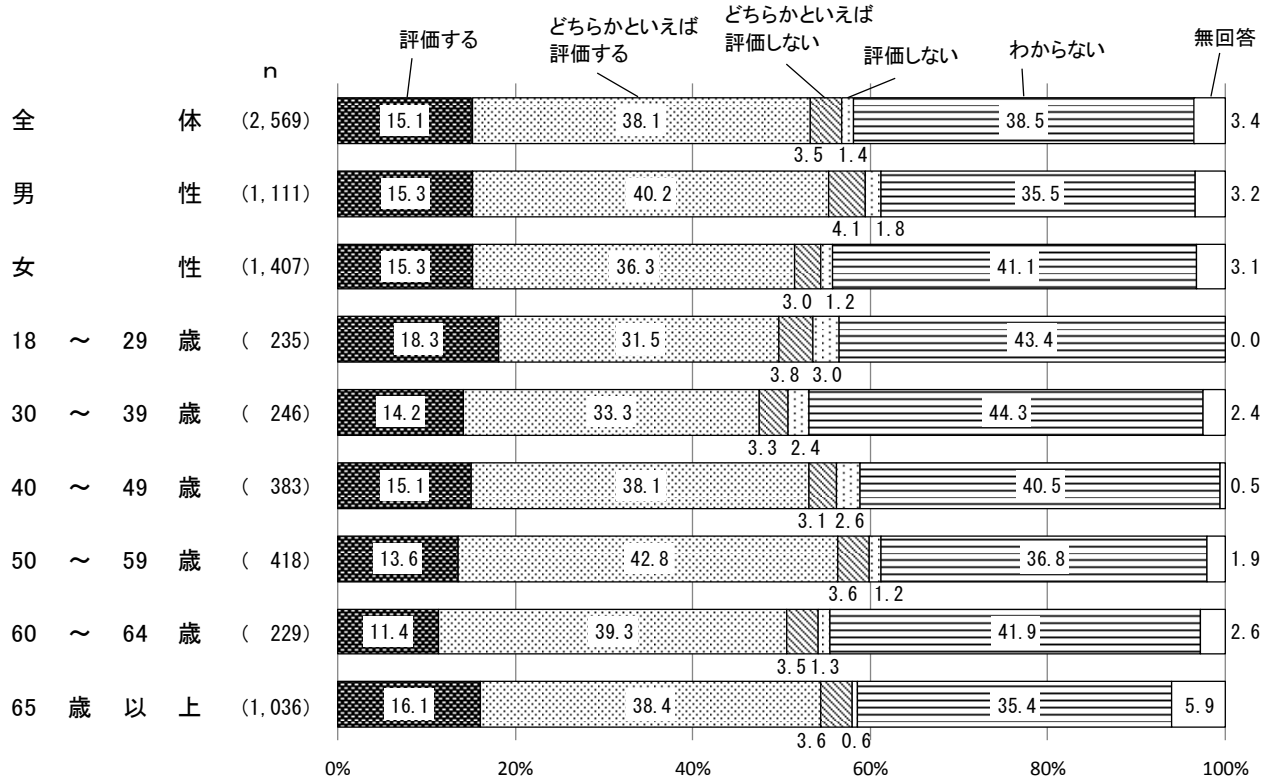
図 3－48－1 行財政運営－全体、経年比較



効果・効率的な行政運営を図ることで、健全な財政運営の維持に努める市の取り組みに対して評価するか聞いたところ、「評価する」(15.1%)と「どちらかといえば評価する」(38.1%)を合わせた《評価する》(53.2%)が5割強となっている。一方、「どちらかといえば評価しない」(3.5%)と「評価しない」(1.4%)を合わせた《評価しない》(4.9%)は1割未満となっている。

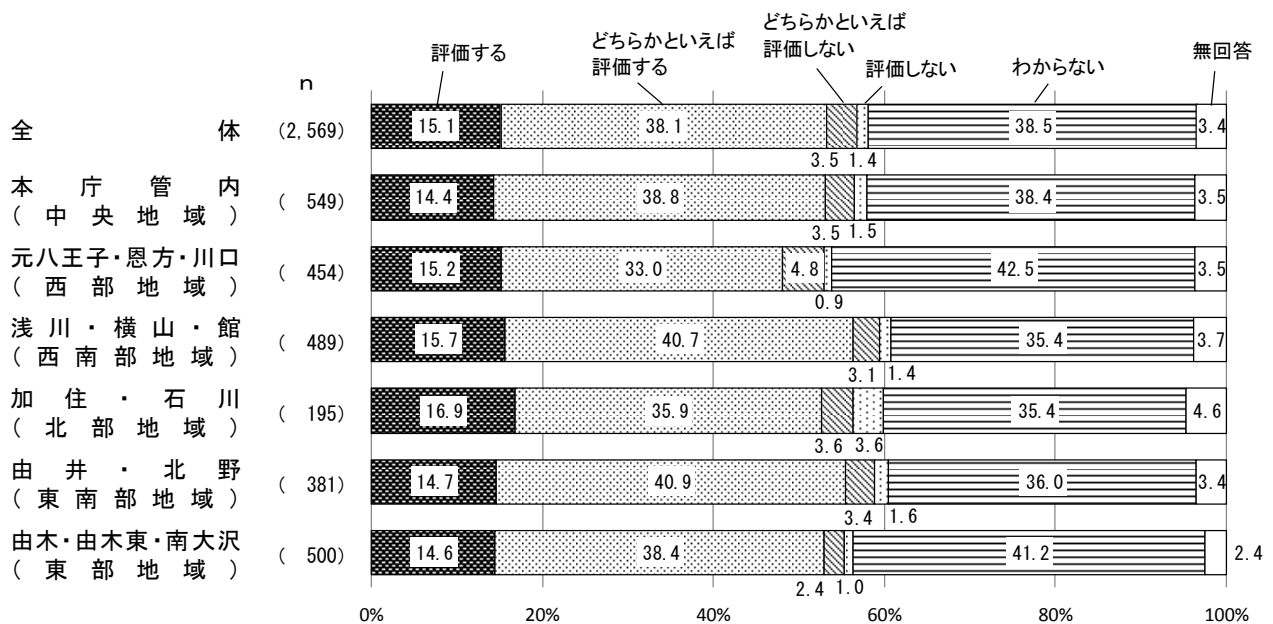
(図 3－48－1)

図 3-48-2 行財政運営—性別、年齢別



性別にみると、《評価する》は男性（55.5%）が女性（51.6%）より3.9ポイント高くなっている。
 年齢別にみると、《評価する》は50～59歳（56.4%）で最も多くなっている。一方、30～39歳（47.5%）で最も少なくなっている。（図 3-48-2）

図 3-48-3 行財政運営—居住地域別



居住地域別にみると、《評価する》は浅川・横山・館（西南部地域）（56.4%）で6割近くと多くなっている。（図 3-48-3）

(49) 市の行財政運営を評価しない理由（自由意見）

（問51で「どちらかといえば評価しない」または「評価しない」とお答えの方へ）

問51－1 評価しない理由があれば、お書きください。（自由記述）

効果・効率的な行政運営を図ることで、健全な財政運営の維持に努める市の取り組みに対して、「どちらかといえば評価しない」または「評価しない」と答えた126人に、評価しない理由を自由記述形式で聞いたところ、95人から回答があった。その中から抜粋した意見を掲載する。なお、内容については、記述の趣旨を損なわないように留意しながら一部要約したものがある。

- 施設だけに補助金を与えるのではなく、働いている人たちへの考慮も！！（女性18～29歳）
- 素敵な取り組みとは思いますが、それによる変化、効果を実感しないため。（男性18～29歳）
- 仕組みはあっても形骸化しており、実際には活かされていないと感じるため。（女性18～29歳）
- 「質の高いサービス」とは、何でしょうか。民間へ移行しても、職員の対応の悪さを窓口で感じた事が何度かあります。「民間事業者ノウハウ」は「お金をムダなく使う」という意味なのですか。それとも「職員の質の向上」。市民のお金は未だに無駄に使われているように思える。
（女性30～39歳）
- 多摩地区に住む独身男性としては、市政から見放されていると感じるため、数字が良くなろうと悪くなろうと関係がない。（男性30～39歳）
- PDCAサイクル、市債削減は当たり前のことをやっているだけ。職員数の減少は、定年による自然減と見てとれる。残った職員の負荷をしっかりと管理、見える化出来ているのか疑問。
（男性40～49歳）
- 税金が高すぎて生活費を削って日々を過ごしています。財政が良くなっても市民として還元されるものが無いように思われます。（女性40～49歳）
- 無駄な支出がまだ多いと感じる。費用対効果をもっと見せてほしい。（男性50～59歳）
- もう少し介護や障害者、ひとり親などの低所得者に対して考えてほしい。（女性50～59歳）
- 住民税の高さに見合った市のサービスを受けている実感が無い。（男性50～59歳）
- 使える市営スポーツセンターが無く、多摩市の施設を使わせてもらっている。（男性60～64歳）
- 地域的に恩恵を受けていると思えない。八王子市が広すぎるのか、バラツキがある様に思える。
（男性65歳以上）
- どのセクションに行ってもまだ、職員の人数が多いと思われます。効率化の推進を希望します。
（女性65歳以上）
- 市政100年記念の一環として富士森公園を“花博”改装し、大々的に美化工事をしましたが、陸上競技場はそのため特別の予算を計上し、しかも現在また取壊して、新たにトラックやフィールド工事を進めている。民間業者へ支出する予算はどの程度の規模になるのか。（男性65歳以上）
- 現在ニュータウンに住んでいますが、市内へ行くことはほとんどなく行政もあまり重視してもらえていないように感じる。（女性65歳以上）
- 所謂トヨタ生産方式で頑張ってきた者の目には、応接態度や労働密度がいまだお役所仕事！期待持てず。（男性65歳以上）